

家庭用蓄電システム トライブリッド蓄電システム®

① V2Hシステム

パワーコンディショナ+V2Hスタンド : ESS-T1V
ESS-T2V

② 蓄電池・V2H連携システム

パワーコンディショナ+蓄電池ユニット(4kWh)+V2Hスタンド : ESS-T1S1V
ESS-T2S1V
パワーコンディショナ+蓄電池ユニット(8kWh)+V2Hスタンド : ESS-T1M1V
ESS-T2M1V
V2Hスタンド : ESS-V1



このたびは、ニチコントライブリッド蓄電システムをお買い上げいただきまして
まことにありがとうございます。
この取扱説明書をよくお読みいただいたうえで、正しくお使いください。
また、保証書とともに大切に保管してください。

※必ずパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書をあわせてご利用ください。
また、オプションの「昇圧トランス」を使用の場合は昇圧トランス同梱の取扱説明書を参照してください。
本書だけではすべての操作ができません。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ずお守りください。
- お読みになられた後も、ご利用される方がいつでも参照できるところに必ず保管してください。

ここに示した事項は、△警告 △注意に区分しています。








 警告	取り扱いを誤った場合、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される事項。
 注意	取り扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う危険が想定される事項、および物的損害のみの発生が想定される事項。

絵表示については次のような意味があります。

	* 必ずアース線を接続 安全アース端子付きの機器の場合、使用者に必ずアース線を接続して接地をとるように指示する表示		* 感電注意 特定の条件において、感電の可能性を注意する通告
	* 一般的な禁止 特定しない一般的な禁止の通告		* 分解禁止 機器を分解することで感電などの傷害が起こる可能性がある場合の禁止の通告
	* 一般的な指示 特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示		

警告

共通

	取付工事・修理・移動・再設置・破棄はお買い上げの販売会社に依頼する 不備があった場合、感電や火災のおそれがあります。		非常時兼用コンセントに金属、紙、水などを差し込んだり、中に入れたりしない 火災・感電・故障のおそれがあります。
	分解・改造しない 感電や障害を負うおそれがあります。		非常時兼用コンセントには、灯油やガスを用いた暖房機器、電熱機器など、火災を引き起こす可能性のあるものは接続しない 災害時に火災の原因になることがあります。
	子供を近づけない 感電・やけど・火災のおそれがあります。		非常時兼用コンセントには、途中で電源が切れると困る家電製品は接続しない 夜間や曇りなどで太陽光発電電力または蓄電池ユニット、車両の電力が不足すると蓄電システムは停止し、家電製品の電源が切れますので、パソコンなどのデータが破損するおそれがあります。また、不安定な電源なので生命にかかわる機器（医療機器など）には絶対に使用しないでください。
	災害などにより本蓄電システムが浸水、水没、変形、破損、転倒などした場合、本蓄電システムに近づかない 感電、有害ガスの発生、発熱、発煙、発火、蓄電池からの電解液が漏れるなどの危険がありますので、「蓄電システムを停止させる場合」に従って蓄電システムを停止させ、すみやかにお買い上げの販売会社にご連絡ください。		

 **警告**



蹴ったりして強い衝撃を与えない
変形により短絡し、発熱・発火・破裂・火災のおそれがあります。



吸排気口などに物（金属、紙、水など）を差し込んだり中に入れたりしない
火災・感電・故障の原因となります。



本製品のフロントパネルなど機器を開けない
内部に電圧の高い部分があります。感電のおそれがあります。



お子様に操作させない
感電、やけど、火災のおそれがあります。



本製品の上に乗ったり、座ったり、ぶらさがったり、物を置かない
機器が変形・脱落し、けが・感電・故障のおそれがあります。



充放電コネクタの金属接点に触れない
高い電圧が加わり感電のおそれがあります。



充放電ケーブルを踏む、上に物を置く、ひきずるなどしない
ケーブルが損傷し、火災や感電のおそれがあります。



本製品の近くに可燃性ガスや引火物を近くに置かない（60 cm 以内）
電気部品のスパークで漏れたガスや引火物などに引火するおそれがあります。



煙が出る、変なにおいがする場合は、本製品には近づかず、室内リモコンの各種設定画面上の「運転停止」をタッチし、分電盤の蓄電システム用ブレーカを「OFF」、切替スイッチを「系統」にする
そのまま使用すると、火災の原因となります。すみやかに販売会社にご連絡ください。



蓄電池に高圧、大容量の電気が蓄えられているので、取り扱いに注意する
分電盤の蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしても感電や傷害を負うおそれがあります。十分注意してください。



植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器（ICD）を使用している方は、充電中、給電中の本製品に近づかない
機器本体からの電磁波が、ペースメーカーおよび ICD の動作に一時的な影響を与える場合があります。



充放電コネクタを車両に接続する場合は、ぬれないようにする
感電・故障のおそれがあります。



充放電コネクタをぬれた手で触らない
感電のおそれがあります。

 **注意**



非常時兼用コンセントでは、負荷によって使用できないものがある
ポンプやモーターなど起動時に大きな電力を必要とするものは使用しないでください。



アース工事を行う (C種接地工事 接地抵抗500Ω以内)
アースが不完全な場合、感電のおそれがあります。アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。アース工事については必ずお買い上げの販売会社にご相談ください。



シンナー、ベンジン、アルコールなどの薬品を含んだ布でふかない
製品の変色原因となります。



本システムの近くでテレビやラジオ、無線などを使用しない
テレビの画面が乱れる、ラジオ、無線に雑音が入ることがあります。受信している電波が弱い場所では、電磁障害を受けるおそれがあります。



吸排気口を塞いだり吸排気口付近に荷物を置いたりしない
温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性があります。



ご利用中に室内リモコンの電源スイッチを OFF にしない
蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池交換（有償）となる可能性があります。



室内リモコンをぬれた手でさわると、ぬれた布でふくなどしない
感電の原因となることがあります。



本製品の近くで殺虫剤などの可燃性ガスを使用しない
引火し、やけど・火災の原因となることがあります。



日差しの強い日や氷点下の日は、充放電コネクタおよび本体を素手でさわらない
やけどや凍傷の原因となります。



廃棄処理・リサイクルについて
使用後、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。廃棄費用はお客様負担となります。



取扱説明書を熟読する
ご使用される前には取扱説明書や製品の注意書きをよくお読みになり、正しくご使用ください。



非常時兼用コンセントに接続する機器 (AC100V) は、消費電力 2500W を目安に接続する
機器の故障原因となることがあります。



本システムや太陽光発電パネルの配線などから発生する電氣的雑音が、近隣のアマチュア無線通信やラジオなどの受信に影響を与えることがあります。



点検コードが連続的に表示されている状態のまま放置しない
蓄電池が充電されないため使用できなくなり、電池交換（有償）となる可能性があります。



ソフトウェアの更新が室内リモコンの画面に表示されたら、必ずすぐに更新する
ソフトウェアの更新にはインターネットへの接続が必要です。



落雪などでパワーコンディショナ吸排気口が塞がらないよう設置状況により防雪・雪囲いなどの処置を行う
温度上昇により蓄電システムが自動停止する可能性があります。



蓄電池ユニットの周りに毛布など置かないようにし、離隔距離を確保する
蓄電池が高温になり、動作が停止する、または寿命が短くなる可能性があります。



車両に接続しない場合、充放電コネクタは V2H スタンドに正しく格納する
破損のおそれがあります。



植物などが本体の吸排気口から内部に侵入しないように、日常点検を行う
温度上昇により本体の自動停止、または破損の可能性がります。

取り扱い上のお願い

共通

■ 次のような場所には取り付けない

- 標高 2000 m より高いところ
- 岩礁隣接地域
- 重塩害地域
- 揮発性、可燃性、腐食性およびその他の有害ガスのあるところ
- 振動、衝撃の影響が大きいところ
- 油蒸気のあるところ
- 浸水のおそれがあるところ
- 電界の影響が大きいところ
- 風通しが悪いところ
- 販売会社で決められていないところ
- 結露および氷結のあるところ
- 次の温度範囲以外のところでは、動作を停止します。
温度：- 20℃～+ 40℃
(温度範囲に戻ると、自動復帰します)

- 建物の屋根等から雪庇、つらら等が落下するところ
- 積雪がある地域

下記の対策を行うことで、取り付けが可能となります。

- ・ 雪囲いや、雪が積もったり、吹き込んだりしない場所への設置等、積雪への対応を行ってください。
 - ・ 雪囲いを設置する場合は、V2H スタンドの離隔距離を必ず守ってください。
- 特に、V2H スタンドの吸排気口を塞がないようにしてください。
- 離隔距離 (5 ページ)、吸排気口 (7 ページ)を確認してください。

※ 万が一、吸排気口が積雪で塞がってしまった場合は、除雪してください。



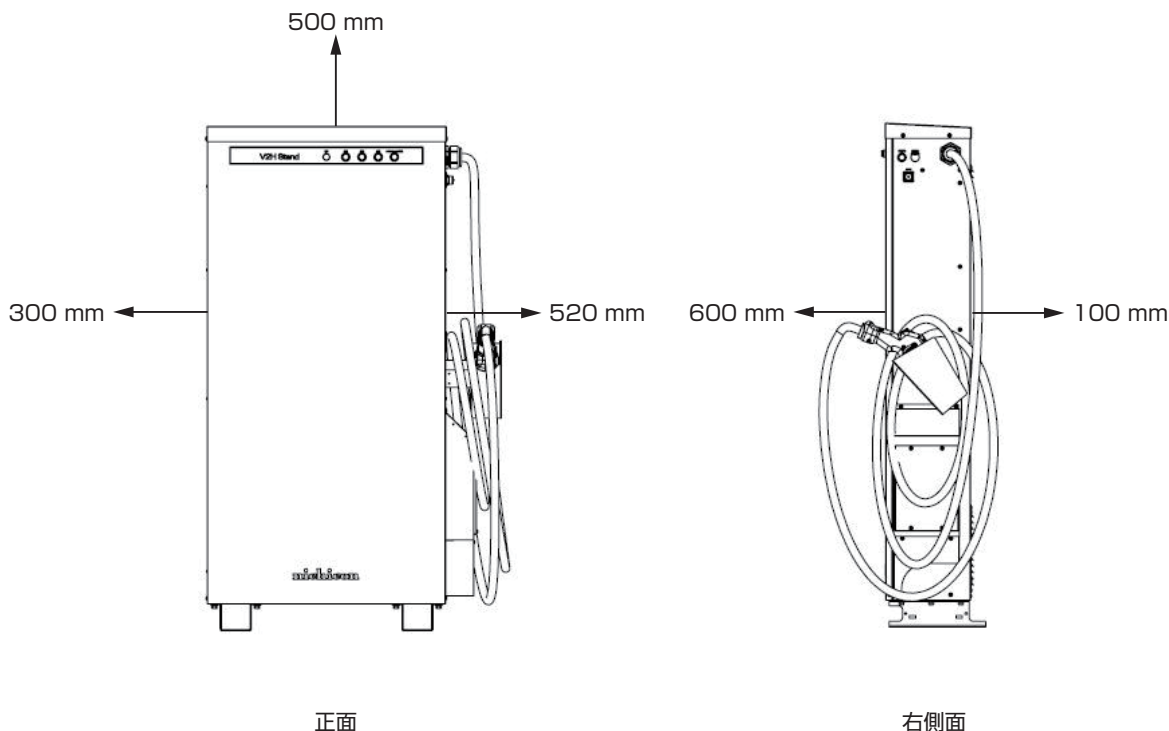
V2H スタンドの離隔距離

以下の離隔距離を確保してください。

V2H スタンドが高温になり動作を停止する、またはメンテナンス時に作業スペースが取れない場合があります。

<最低離隔距離>

- 左 : 300 mm
- 右 : 520 mm
- 上 : 500 mm
- 前 : 600 mm
- 背面 : 100 mm



塩害の影響による設置可否について

V2H スタンドが設置可能な場所を下表のように定めています。

V2H スタンドは、「沖縄・離島以外の地域、かつ、重塩害以外の場所」であれば設置可能です。

地域による区分 塩害レベルによる区分	沖縄・離島	沖縄・離島以外の地域
重塩害	×	×
重塩害以外	×	○

○：設置可、×：設置不可

地域による区分について

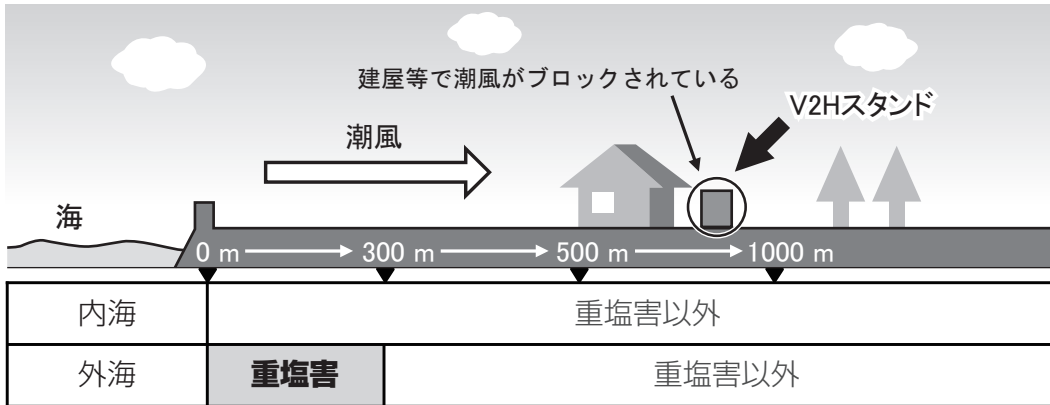
本書は、地域を「沖縄・離島」と「沖縄・離島以外の地域」で区分しています。

・離島：本土から離れ、四方を海で囲まれている島 ※内海に浮かぶ島、淡路島は除く。

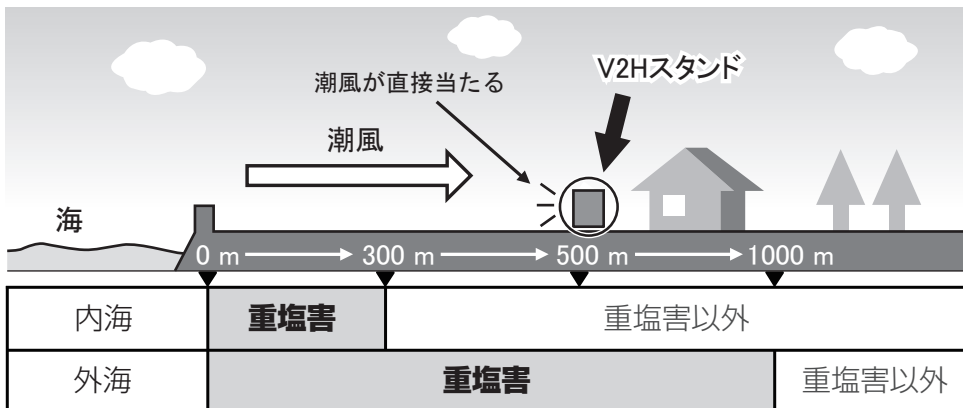
塩害レベルによる区分について

本書は、塩害レベルを下記のように「重塩害」と「重塩害以外」で区分しています。

● 直接潮風は当たらないが、その雰囲気内にある場所



● 直接潮風が当たる場所



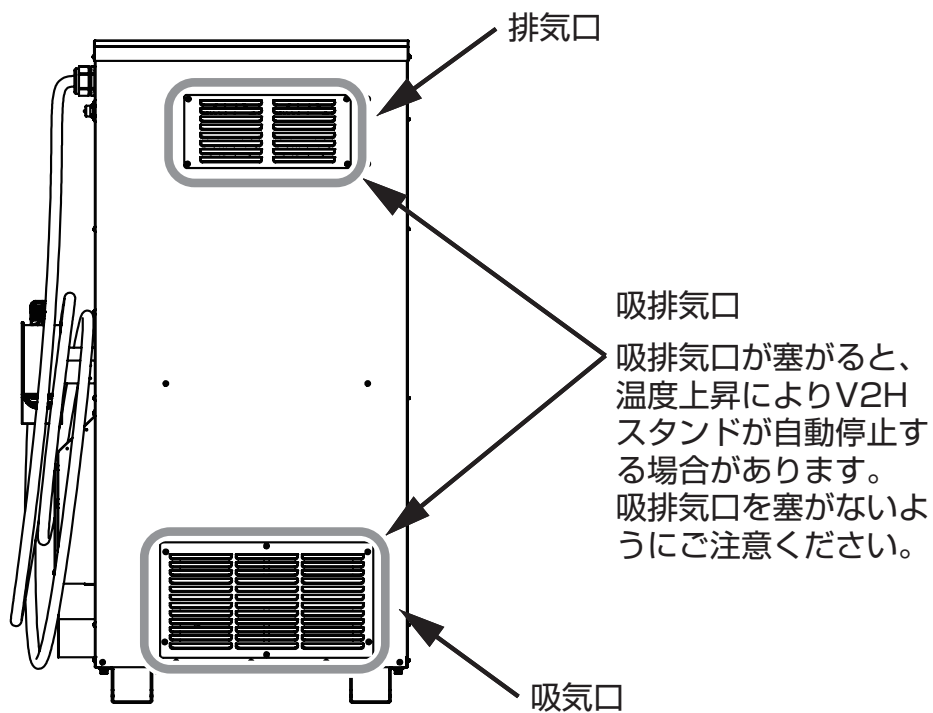
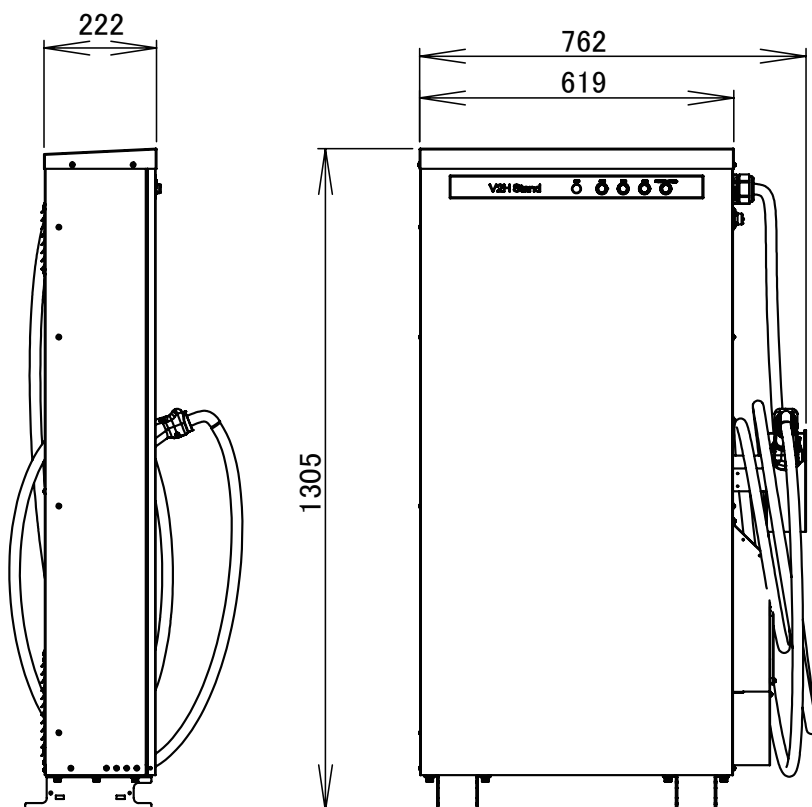
※内海：瀬戸内海、東京湾、伊勢湾

外海：内海以外の海

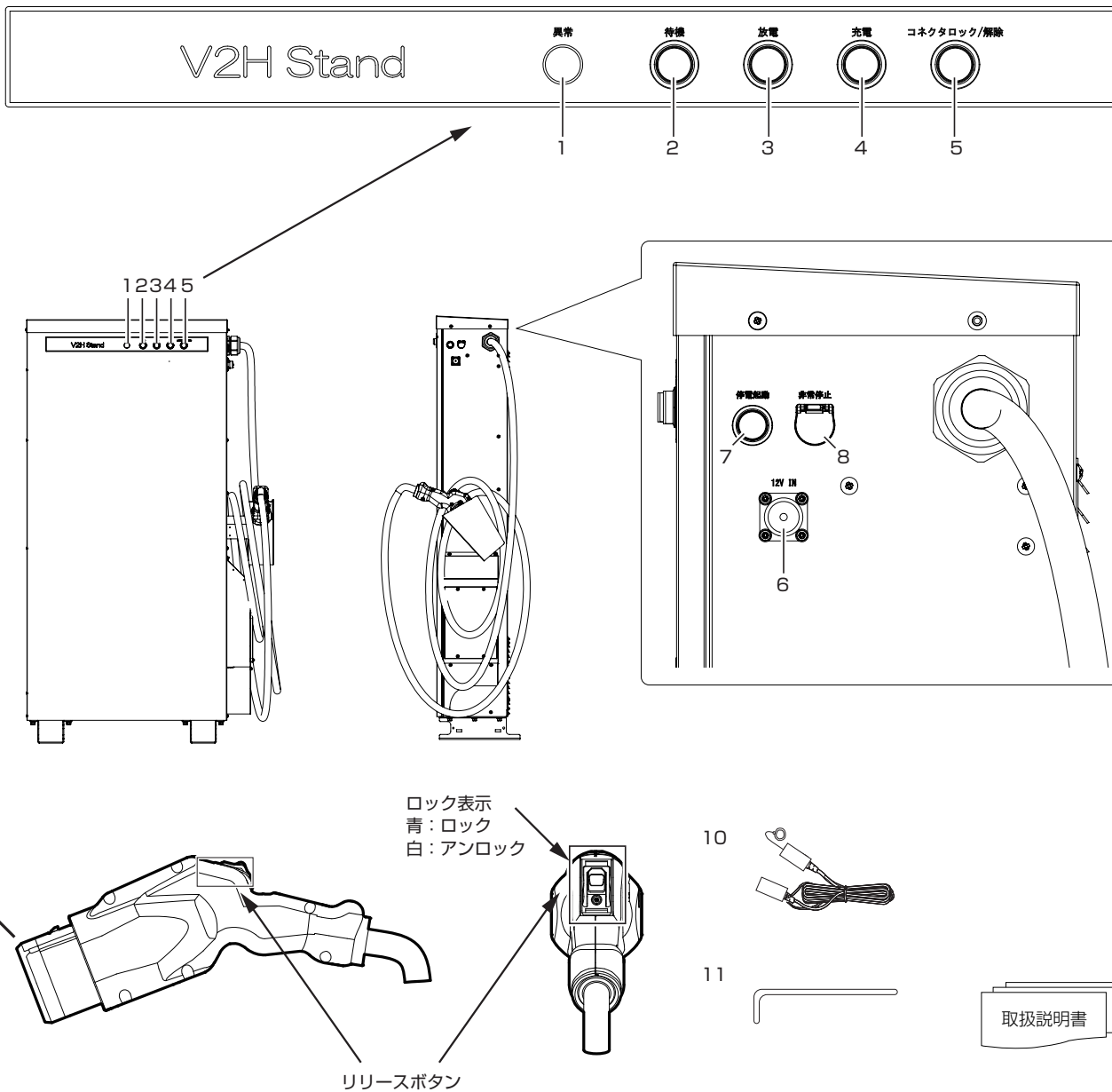
外形寸法図 / 各部の名称

■ V2H スタンド

単位：mm



次ページへ続く



1. **異常表示**
V2H スタンドが異常時、点灯します。
2. **待機ボタン**
放電、充電の停止を行います。
3. **放電ボタン**
放電操作を行います。放電中：青色点灯
4. **充電ボタン**
充電操作を行います。充電中：橙色点灯
5. **コネクタロック / 解除ボタン**
充放電コネクタのロック、解除を行います。
6. **12V IN**
停電時に車両から本システムを起動する場合に必要な車両と V2H スタンド間を接続する 12V 電源ケーブルの接続口です。

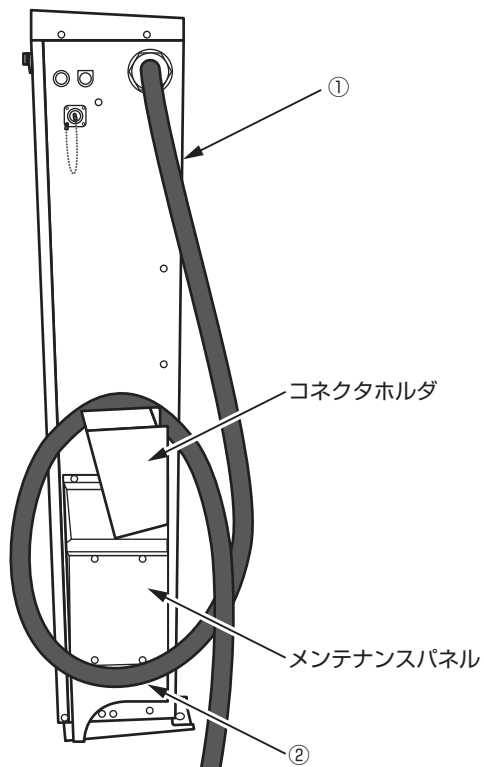
7. **停電起動ボタン**
停電時にシステムが完全に停止している場合の起動操作を行います。車両と V2H スタンドを 12V 電源ケーブルで接続する必要があります。
8. **非常停止ボタン**
非常時に充電・放電動作を緊急停止します。
9. **充放電コネクタ (ケーブルを含む)**
V2H スタンドと車両を接続します。

以下は付属品です。なくさないように保管してください。

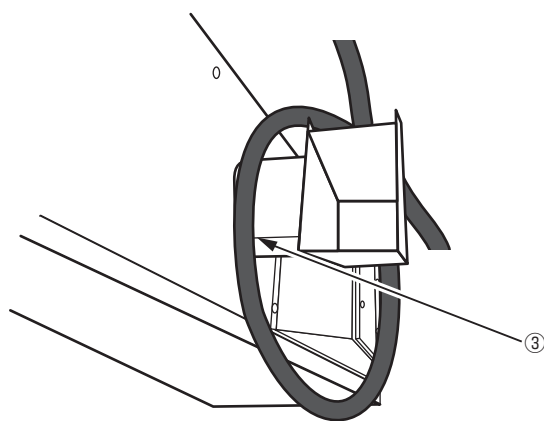
10. **12V 電源ケーブル**
停電時に車両と V2H スタンド間を接続するケーブルです。
11. **充放電コネクタ緊急離脱工具 (取扱説明書付)**
充放電コネクタが取り外せなくなった緊急時に使用します。

充放電コネクタ収納方法（推奨）

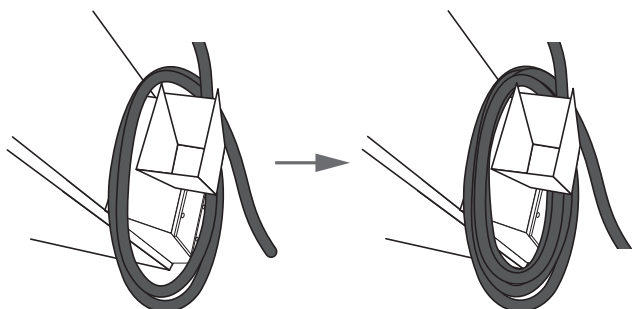
- ① コネクタホルダの後ろにケーブルをまわします。
- ② メンテナンスパネル下の付近でケーブルを折り返します。



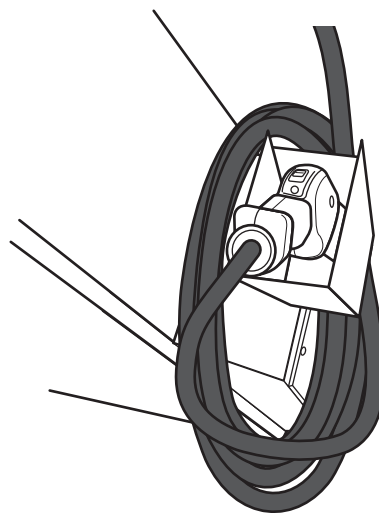
- ③ コネクタホルダの一番左奥で折り返します。



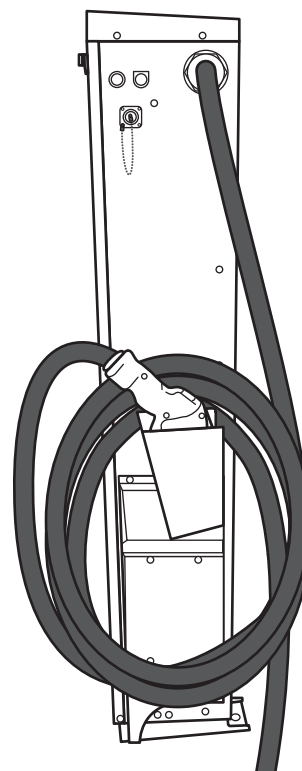
- ④ 1 周目と同じ箇所で折り返します。
- ⑤ 同様に合計 4 周巻きます。



- ⑥ 最後に充放電コネクタをコネクタホルダに差し込みます。



- ⑦ 収納が完了しました。



もくじ

安全上のご注意	2
取り扱い上のお願い	5
外形寸法図 / 各部の名称	7
充放電コネクタ収納方法 (推奨)	9

1 V2Hシステムをご利用の場合 15

もしもの安心、いつもの節電	15
室内リモコン各部の名称とはたらき	19
室内リモコンのホーム画面について	19
室内リモコンの表示について	20
車両との接続方法	24
V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合	24
室内リモコンで行う場合	25
車両との切断方法	27
V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合	27
室内リモコンで行う場合	28
通常時の使い方	29
V2H スタンドの各運転モードについて (連系時)	29
タイマー動作モード	29
太陽光発電の余剰電力で充電する場合	30
手動運転モード	31
V2H スタンドの手動操作方法	33
V2H スタンドの運転モードを選ぶ	34
V2H スタンドの詳細設定について	36
充電タイマー設定	37
放電タイマー設定	39
太陽光余剰電力充電	41
V2H スタンド本体操作	41
車両放電下限値	42
非常時放電動作	43

非常時車両放電下限値	43
各グラフについて	44
グラフの表示方法	45
停電時の使い方（自立運転）.....	46
停電時の使い方（自立運転）.....	46
復電時の操作.....	46
停電時に利用できる運転モードについて	47
手動運転モード.....	47
停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法.....	48
停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 （例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）.....	50
こんなときは	52
ブザー音や異音について	52
ブザーが鳴ったとき	52
機器から発生する音について.....	52
動作がおかしいと感じたとき.....	52
アンペアブレーカが頻繁に落ちる場合	52
契約電力を変更する場合	52
非常時兼用コンセントのブレーカが頻繁に落ちる場合	52
停電時に非常時兼用コンセントが使用できない場合	52
100%まで充電できない場合.....	52
充放電時間が設定より短い場合.....	52
充放電できない場合	53
充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合.....	53
定格で充電できない場合	53
コネクタロック・解除を繰り返す場合	53
車両が満充電後、すぐに放電できない場合.....	53
停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合.....	53
停電時に充放電できない場合.....	53
充放電コネクタが取り出せなくなった場合.....	54
充放電コネクタが濡れてしまった場合	54
充放電コネクタが凍結してしまった場合	54
その他ご使用に関する操作方法等.....	56
停電時、安全を確認してから非常時兼用コンセントをご利用になりたい場合.....	56
各ブレーカを操作する場合（配置例）.....	57
蓄電システムを停止させる場合.....	58
蓄電システムを起動させる場合.....	60
風水害または地震などがおきたとき	61

点検コード (BExxx、BFxxx) が表示されたとき.....	62
-----------------------------------	----

2 蓄電池ユニット・V2H 連携システムをご利用の場合 64

もしもの安心、いつもの節電	64
----------------------------	-----------

室内リモコン各部の名称とはたらき	68
-------------------------------	-----------

室内リモコンのホーム画面について	68
------------------------	----

室内リモコンの表示について	70
---------------------	----

車両との接続方法	74
-----------------------	-----------

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合	74
-----------------------------	----

室内リモコンで行う場合	75
-------------------	----

車両との切断方法	77
-----------------------	-----------

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合	77
-----------------------------	----

室内リモコンで行う場合	78
-------------------	----

通常時の使い方	79
----------------------	-----------

V2H スタンドの各運転モードについて (連系時).....	79
--------------------------------	----

タイマー動作モード	79
-----------------	----

太陽光発電の余剰電力で充電する場合	80
-------------------------	----

手動運転モード	81
---------------	----

エレムーブモード	82
----------------	----

V2H スタンドの手動操作方法.....	83
----------------------	----

V2H スタンドの運転モードを選ぶ.....	84
------------------------	----

V2H スタンドの詳細設定について.....	86
------------------------	----

充電タイマー設定	87
----------------	----

放電タイマー設定	89
----------------	----

太陽光余剰電力充電	91
-----------------	----

V2H スタンド本体操作	91
--------------------	----

車両放電下限値	92
---------------	----

非常時放電動作	93
---------------	----

非常時車両放電下限値	93
------------------	----

非常時放電優先設定	94
-----------------	----

非常時充電優先設定	94
-----------------	----

蓄電池と車両の連携について	95
----------------------------	-----------

ケース 1：充放電時間帯が重複した場合	95
---------------------------	----

ケース 2：自動運転中に手動モードを選択した場合	95
--------------------------------	----

ケース 3：太陽光の余剰電力を充電するモードが重複した場合	95
-------------------------------------	----

各グラフについて	96
グラフの表示方法	97
停電時の使い方（自立運転）	98
停電時の使い方（自立運転）	98
復電時の操作	98
停電時に利用できる運転モードについて	99
手動運転モード	99
エレムーブモード	100
停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法	101
停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 （例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）	103
こんなときは	105
ブザー音や異音について	105
ブザーが鳴ったとき	105
機器から発生する音について	105
動作がおかしいと感じたとき	105
アンペアブレーカが頻繁に落ちる場合	105
契約電力を変更する場合	105
非常時兼用コンセントのブレーカが頻繁に落ちる場合	105
停電時に非常時兼用コンセントが使用できない場合	105
室内リモコンの画面が表示されない場合	105
充放電時間が設定より短い場合	105
100%まで充電できない場合	106
充放電できない場合	106
充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合	106
定格で充電できない場合	106
コネクタロック・解除を繰り返す場合	106
車両が満充電後、すぐに放電できない場合	106
停電時に蓄電池残量がゼロになってしまった場合	107
停電時に充放電できない場合	107
充放電コネクタが取り出せなくなった場合	107
充放電コネクタが濡れてしまった場合	107
充放電コネクタが凍結してしまった場合	107
その他ご使用に関する操作方法等	109
停電時、安全を確認してから非常時兼用コンセントをご利用になりたい場合	109
長期不在の場合（2 週間以上）	110
蓄電システムを停止させる場合	111
蓄電システムを起動させる場合	113

蓄電システムを廃棄する場合.....	114
風水害または地震などがおきたとき.....	114
点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき.....	115
蓄電池のメンテナンスモードについて.....	117
EV・PHEV に接続する際の注意点.....	119
日産自動車株式会社の EV に接続する際の注意点.....	119
三菱自動車株式会社の EV に接続する際の注意点.....	119
トヨタ自動車株式会社の FCV に接続する際の注意点.....	119
本田技研工業株式会社の FUEL CELL に接続する際の注意点.....	119
トヨタ自動車株式会社の PHV に接続する際の注意点.....	119
保証とアフターサービス.....	120
保証について.....	120
アフターサービスについて.....	120
設定の変更例.....	121
仕様.....	122
V2H スタンド：ESS-V1.....	122
増設設置の可能期間.....	123

1 V2H システムをご利用の場合

もしもの安心、いつもの節電

本製品は、住宅の屋根などに設置した太陽光パネルと蓄電池、そして V2H スタンドと車両を併用して、暮らしに必要な電気を供給する「トライブリッド蓄電システム[®]」です。

トライブリッド蓄電システム[®]

太陽光発電、蓄電池、車両の 3 つの電源を利用するシステムの総称で、ニチコンの登録商標です。

本書は、V2H スタンドの内容を記述します。

必ず別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

本書で用いる用語は下記のとおりです。

車両	：電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など、駆動用に蓄電池を備えた自動車
V2H システム	：車両の大容量蓄電池から電力を取りだし、分電盤を通じて家庭の電力として使用できる仕組み
外付け太陽光発電	：トライブリッド蓄電システムのパワーコンディショナに直接接続していない太陽光発電
太陽光発電システム	：トライブリッド蓄電システムと外付け太陽光発電を合わせた、住宅に設置された太陽光発電
充電	：太陽光発電の電力または系統から車両に電力を蓄えること
放電	：車両に蓄えている電力を本システムに接続している家庭内負荷へ供給すること
給電	：太陽光発電の電力、車両に蓄えられた電力を本システムから供給すること

メモ

外付け太陽光発電は、トライブリッド蓄電システムとは別の太陽光パワーコンディショナが必要です。

多彩な太陽光発電と連携。太陽光と V2H システムのパワーコンディショナを一体化

パワーコンディショナは太陽光発電だけでなく、車両との接続を可能にするトライブリッド機能を有しており、幅広いメーカーの太陽光パネルを直接接続することができます。

太陽光発電電力、車両をすべて直流で結ぶことで効率の良い電力利用ができます。

また、太陽光発電パネルで発電した直流電力を車両の充電に利用することができるため、効率のよい電力利用が可能です。また、余剰分が発生した場合は、交流変換し、電力会社に売電することもできる蓄電システムです。

※ ESS-T2 シリーズは、太陽光発電は別となるため、直流電力で車両と結ばれることはありません。ただし、交流に変換後、本システムに取り込み、車両へ充電することは可能です。

メモ

太陽光の発電電力に対してご家族の消費電力が大きい場合は、車両への充電電力が確保できないことがあります。

もしもの停電時も「安心」！

本システムは非常時に備えて電力をバックアップします。

突然の停電でも、非常時兼用コンセントに接続している家電製品は、車両の電力を利用することが可能です。

メモ

- 停電時には、電力供給が一瞬途切れます。非常時兼用コンセントに接続している家電製品の仕様によっては電源が切れますので、そのときは電源を入れ直してください。
- 生命に関わる機器やデスクトップパソコン等の電源が切れると困る機器は、非常時兼用コンセントに接続しないでください。
- 車両がないときは、太陽光発電している場合に限り、非常時兼用コンセントをご使用いただけます。

● 昼間の晴天時は、太陽光発電と車両の電力を併用して電力供給します。

● 雨や曇りの日、夜間の停電でも車両から電力を供給します。^{※1}

● AC100V で、消費電力 2500W を目安に家電製品をご使用できます。

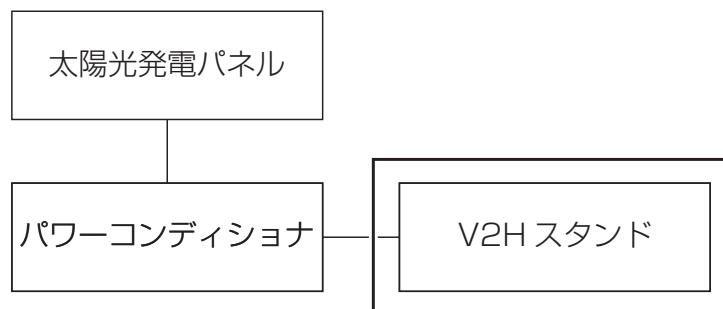
(定格出力：V2H スタンドのみのとき：最大約 3 kW、3 kW 以上太陽光発電しているとき^{※2}：最大約 3.0 kW)

※ 1：V2H スタンドを接続していないときは、車両からの電力供給はできません。

※ 2：ESS-T1 系の場合

いつもの生活では「節約」！

昼間の太陽光発電電力を夜間に活用することで、エネルギーの自給自足に貢献します。
割安な深夜電力時間帯に充電、昼間の電力使用量ピーク時間帯に放電すれば、電気料金の節約になります。
日常のご使用には、ご家庭の環境やお好みに合わせた運転モードを選ぶことができます。



※ V2H スタンド以外の項目は、パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

本書の範囲

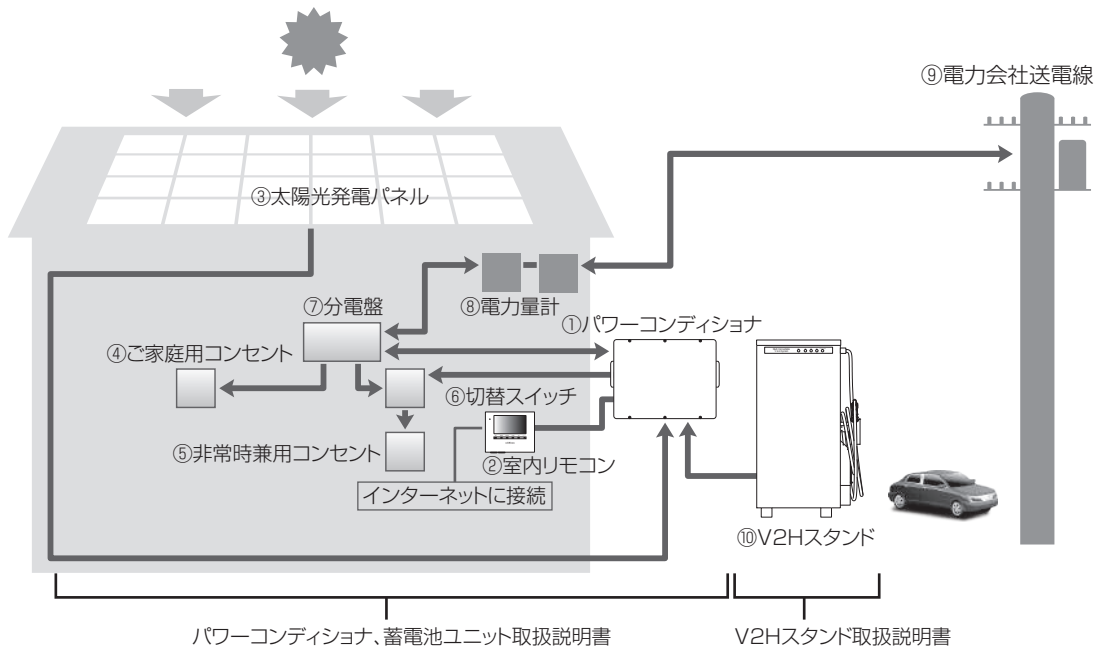
■ 安心の 10 年保証

V2H スタンドは、10 年間の保証付きで、万が一のときも安心してご利用いただけます。
詳しくは保証書をご確認ください

📝 メモ

- 室内リモコンは 5 年保証となります。
- パワーコンディショナは 15 年保証となります。

構成例 (ESS-T1 系)



1. パワーコンディショナ

太陽光パネルの直接接続を可能にする太陽光発電用パワーコンディショナ、蓄電池ユニット用パワーコンディショナ機能を内蔵しています。最大 3 系統の太陽光発電回路を直接接続できます。

太陽光発電またはシステムの電力を車両に充電することができます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります。(売電)

2. 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

3. 太陽光発電パネル

太陽光パワーコンディショナに直接接続し、太陽光を受けて発電します。

4. ご家庭用コンセント

一般負荷用の電源コンセントです。通常時は本システムから電気を給電することができます。

5. 非常時兼用コンセント

停電時、本システムから電気を給電することができます。通常時も利用可能です。

6. 切替スイッチ

非常時兼用コンセントへの電力供給元を、本システムと系統とで切り替えるスイッチです。

7. 分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、分岐ブレーカおよび本蓄電システム用ブレーカを内蔵しています。

8. 電力量計

買電用と売電用の 2 種類があり、電力会社から購入した電力(買電)と、電力会社に売る余剰電力(売電)を計量します。

9. 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入(買電)し、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります(売電)。

10. V2H スタンド

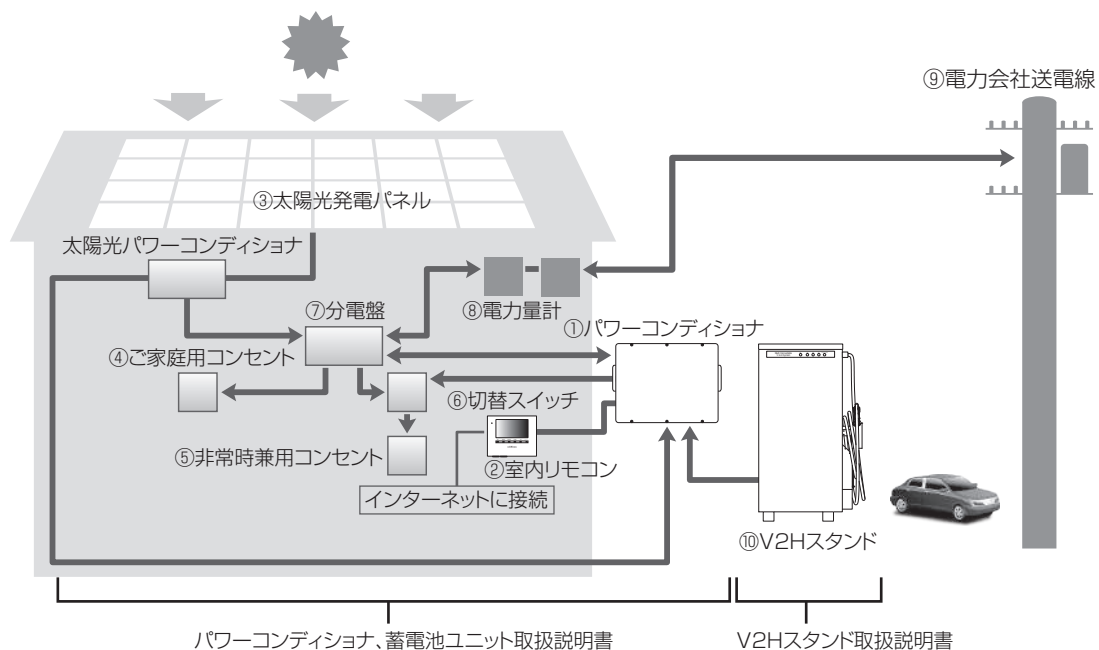
パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

※充電：太陽光発電の電力または系統から蓄電池に電力を蓄えること。

※放電：蓄電池に蓄えている電力を供給すること。

※給電：太陽光発電の電力、蓄電池に蓄えられた電力をご家庭に供給すること。

構成例 (ESS-T2 系)



1. パワーコンディショナ

本システムとは別の太陽光パワーコンディショナを接続することができます。
太陽光発電または系統の電力を車両に充電することができます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。

2. 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

3. 太陽光発電パネル

太陽光パワーコンディショナに直接接続し、太陽光を受けて発電します。

4. ご家庭用コンセント

一般負荷用の電源コンセントです。通常時は本システムから電気を給電することができます。

5. 非常時兼用コンセント

停電時、本システムから電気を給電することができます。通常時も利用可能です。

6. 切替スイッチ

非常時兼用コンセントへの電力供給元を、本システムと系統とで切り替えるスイッチです。

7. 分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、分岐ブレーカおよび本蓄電システム用ブレーカを内蔵しています。

8. 電力量計

買電用と売電用の2種類があり、電力会社から購入した電力（買電）と、電力会社に売る余剰電力（売電）を計量します。

9. 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入（買電）し、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります（売電）。

10. V2H スタンド

パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

※充電：太陽光発電の電力または系統から蓄電池に電力を蓄えること。

※放電：蓄電池に蓄えている電力を供給すること。

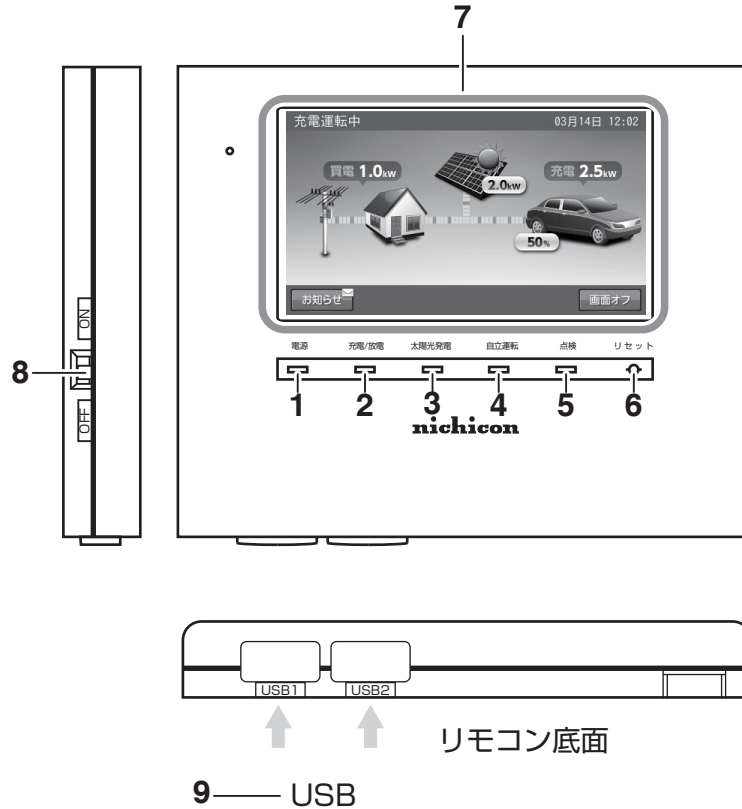
※給電：太陽光発電の電力、蓄電池に蓄えられた電力をご家庭に供給すること。

室内リモコン各部の名称とはたらき

室内リモコンのホーム画面について

本製品は、室内リモコンの画面にタッチしてさまざまな操作を行います。

※型番や外付け太陽光パワーコンディショナの接続状況により、画面構成が異なります。

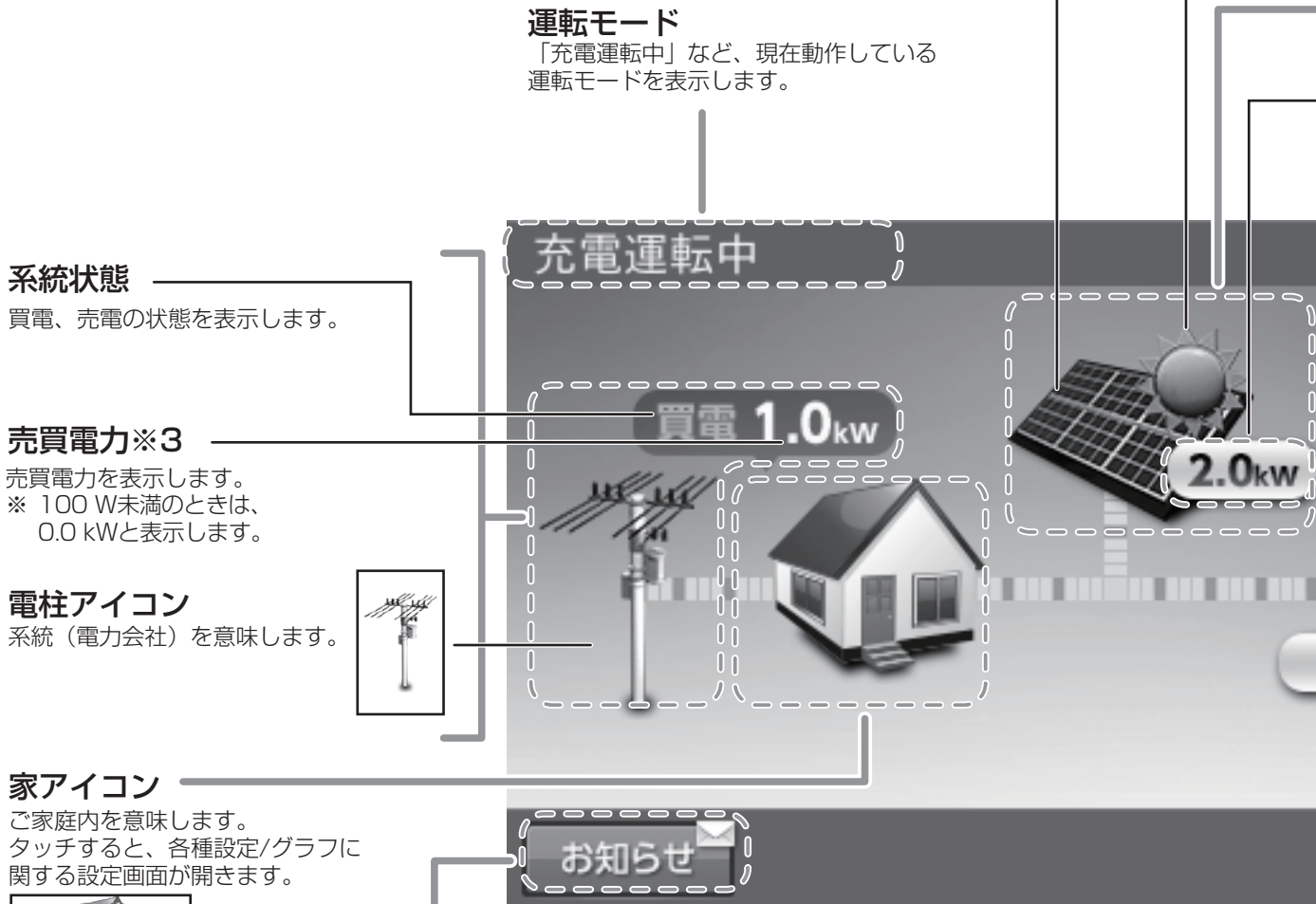


- | | |
|--|--|
| <p>1. 電源ランプ
室内リモコン ON 時に点灯します。</p> <p>2. 充電 / 放電ランプ
運転状態を表示します。
緑：充電 / 放電
消灯：待機 / 停止</p> <p>3. 太陽光発電ランプ
太陽光発電中に点灯します。</p> <p>4. 自立運転ランプ
自立運転中に点灯します。</p> | <p>5. 点検ランプ
点検コード発生中に点滅します。</p> <p>6. リセットボタン
室内リモコンのマイコンをリセットします。</p> <p>7. 画面
表示画面を兼ねたタッチパネルです。
充電・放電状態の表示や各運転モードを設定します。</p> <p>8. 電源スイッチ
室内リモコンの電源を ON/OFF します。</p> <p>9. USB
通常使いません。
無線 LAN 利用時には、無線 LAN 子機を接続します。</p> |
|--|--|

メモ

- 点検ランプが点滅しているときは、室内リモコンの画面に点検コードが表示されます。「点検コードが表示されたとき」に従って処置してください。
- 蓄電システム運転中に、電源スイッチを「OFF」にしないでください。蓄電システムを停止したいときは、「蓄電システムを停止させる場合」の操作を行ってください。

室内リモコンの表示について



運転モード

「充電運転中」など、現在動作している運転モードを表示します。

系統状態

買電、売電の状態を表示します。

売買電力※3

売買電力を表示します。
※ 100 W未満のときは、0.0 kWと表示します。

電柱アイコン

系統（電力会社）を意味します。

家アイコン

ご家庭内を意味します。
タッチすると、各種設定/グラフに関する設定画面が開きます。



お知らせボタン

タッチすると、お知らせリストが表示されます。

表示あり

未読のお知らせリストがあります。



表示なし

未読のお知らせリストはありません。



太陽光パネルアイコン

タッチすると、太陽光に関する設定画面が表示されます。

太陽アイコン

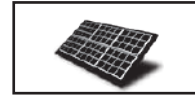
太陽表示あり

内部の太陽光発電または外付け太陽光発電電力が100 W程度より大きいときに表示します。



太陽表示なし

内部の太陽光発電または外付け太陽光発電電力が小さい、および発電していないときは表示しません。



発電電力※3

内部の太陽光発電電力を表示します。

合算時は、内部の太陽光発電電力と外付け太陽光発電電力を合計して表示します。



車両状態

放電：100 Wより大きい電力を車両から放電している場合

充電：車両の充電電力が100 W以上の場合

待機：充放電をしていない、または充放電電力が100 W未満の場合

表示なし：停止中

車両充放電電力※3

車両の充放電時の電力を表示します。

車両アイコン

コネクタロック状態

車両がカラー表示

タッチすると、V2Hスタンドに関する設定画面が表示されます。



コネクタ非ロック状態

車両がグレーアウト表示

タッチすると、V2Hスタンドに関するコネクタロック画面が表示されます。



車両蓄電池残量

車載蓄電池の残量を表示します。

※車両の値とずれることがあります。異常ではありません。

目安としてご利用ください。

※車両蓄電池残量は、0%表示できない車両があります。

※コネクタ非ロック状態のときは、表示しません。

画面オフボタン

タッチすると、画面がオフします。

画面オフ時は、液晶画面のどこかをタッチすると、画面表示が戻ります。

画面オフ

電圧上昇抑制アイコン

環境起因により電力会社の電圧が上昇し、抑制が働いています。
売電量が減ることがあります。



リモートアイコン

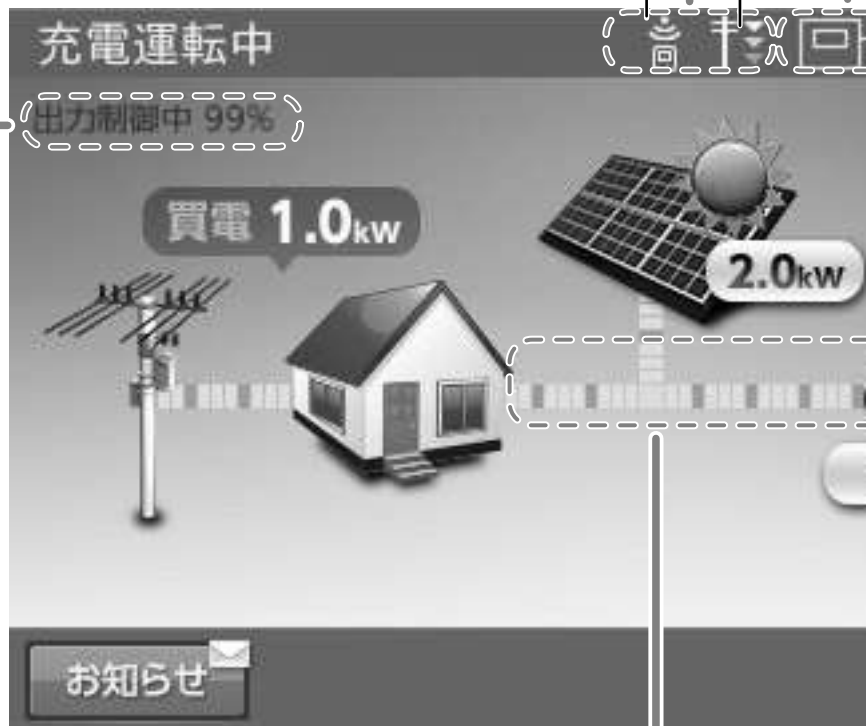
ECHONET Lite※1通信中です。



非表示：ECHONET Lite※1通信状態ではありません。

出力制御表示

遠隔出力制御ルールに基づいて、電力会社による太陽光出力コントロール中です。売電量が減ることがあります。



電力の流れ

各機器間の電力の流れのイメージを破線で表示します。

- ・ 破線非表示 : 100 W未満
- ・ 動きの遅い破線 : 100 W以上
- ・ 動きの速い破線 : 1 kW以上

※ 電力が小さい (100 W未満) ときでも、センサーの誤差などにより電力の流れが表示されることがあります。

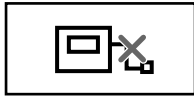
※1：「ECHONET Lite」「エコネットライト」は、エコネットコンソーシアムの登録商標です。

アンテナアイコン

室内リモコンと宅内ネットワークとの接続状況を示します。



有線LAN使用時に、ルーターと正常に接続している場合の表示です。
※ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。



有線LAN使用時に、ルーターと接続していない場合の表示です。



無線LAN使用時に、ルーターと正常に接続している場合の表示です。
※ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。
※ルーターとの電波強度は、4段階で表示します。



無線LAN使用時に、ルーターと接続していない場合の表示です。

非表示：ネットワーク設定が[使用しない]のときは表示しません。

03月14日 12:02

現在日時

室内リモコンに設定している現在日時を表示します。

※ネットワーク接続していないときは、
ご利用中に少しずつずれが発生しますので、
定期的に時刻を設定してください。

充電 2.5kW



50%

画面オフ

車両との接続方法

車両との接続は、車両が停止した状態で行います。

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）にします。

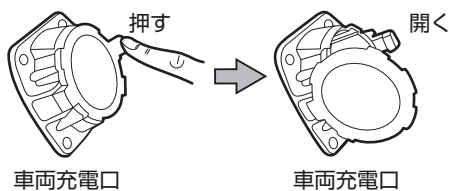
メモ

- POWER OFF の名称は、車種により異なる場合があります。車両の取扱説明書を確認してください。
- 車両の取扱説明書を確認してから、下記操作を行ってください。

コネクタロック / 解除は V2H スタンド正面の操作ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合

1 車両を準備する



車両充電口

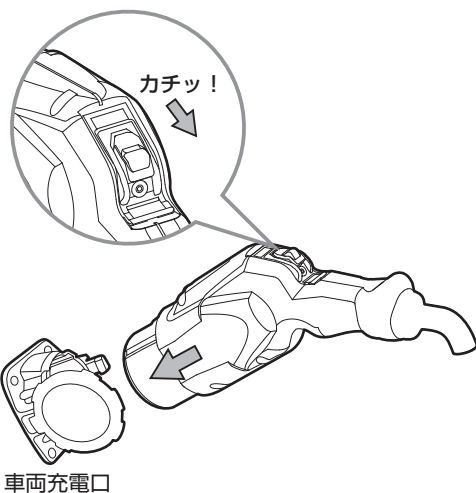
車両充電口

車両のシフトをパーキング（P 位置）にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから 充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する



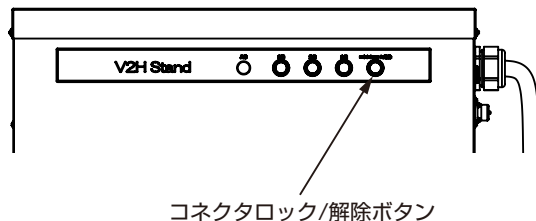
車両充電口

充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ！」と音がするまで押し込んでください。

メモ

充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。
車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 充放電コネクタをロックする



V2H スタンドの「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

メモ

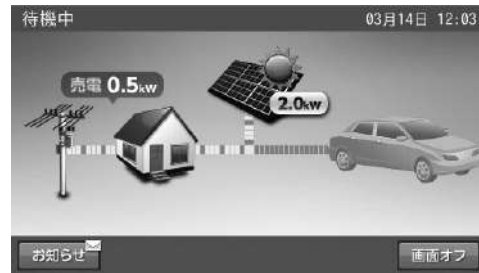
- 充放電コネクタがロックされると、「コネクタロック / 解除」ボタンが黄色く点灯します。
- 車両の蓄電池容量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、運転モードを選択していない状態であっても、自動的に 12% 程度まで充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は待機状態となりますので、運転モード選択等の操作を行ってください。
12% になる前でも運転モードの選択は可能です。
- コネクタロックを行うタイミングによっては、コネクタロックを失敗する場合があります。その場合は、再度「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

室内リモコンで行う場合

1 充放電コネクタを車両に接続する

「V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合」(24ページ) 手順 1～3 を行ってください。

2 コネクタロックを確認する

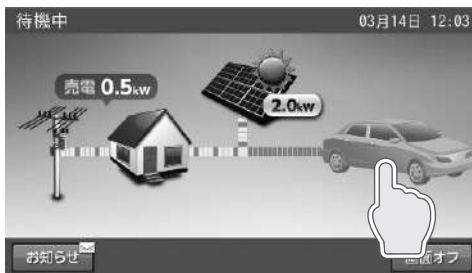


「車両アイコン」がグレーであることを確認してください。

赤色：コネクタロック状態

グレー色：コネクタ非ロック状態

3 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

4 「コネクタロック」をタッチする



メモ

コネクタロックが完了している場合は、上図の画面ではなく「充電」や「放電」、その他アイコンがある画面を表示します。

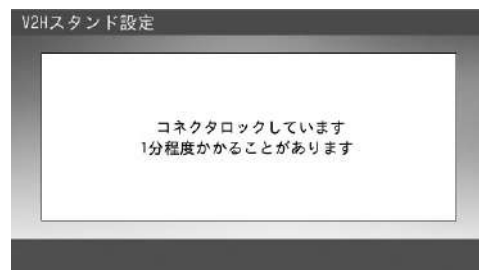
5 「はい」をタッチする



コネクタロックを行います。

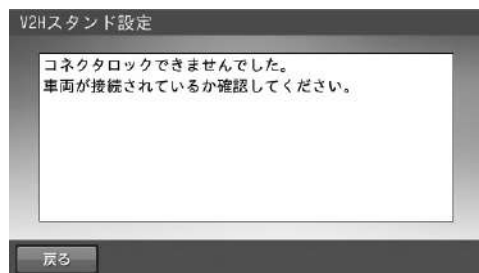
メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- 車両の蓄電池容量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、運転モードを選択していない状態であっても、自動的に 12% 程度まで充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は待機状態となりますので、運転モード選択等の操作を行ってください。12%になる前でも運転モードの選択は可能です。



コネクタロックに失敗した場合

下図の画面を表示します。

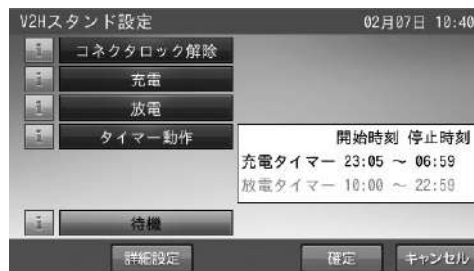


メモ

- 「戻る」をタッチすると、「V2Hスタンド設定」画面に戻ります。
- 充放電コネクタが車両に正しく接続していない場合があります。
- コネクタロックを行うタイミングによっては、コネクタロックを失敗する場合があります。その場合は、再度「コネクタロック」をタッチしてください。

コネクタロックに成功した場合

下図の画面を表示します。



メモ

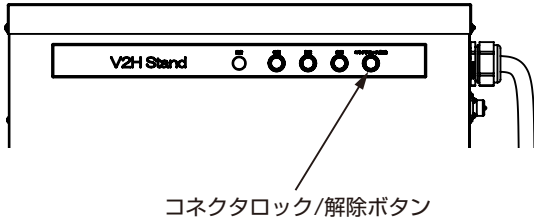
- V2Hスタンドを操作できるようになります。
- 「キャンセル」をタッチすると、ホーム画面に戻ります。

車両との切断方法

コネクタロック / 解除は V2H スタンド正面の操作ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合

1 充放電コネクタのロックを解除する



V2H スタンドの「コネクタロック / 解除」ボタンを押します。

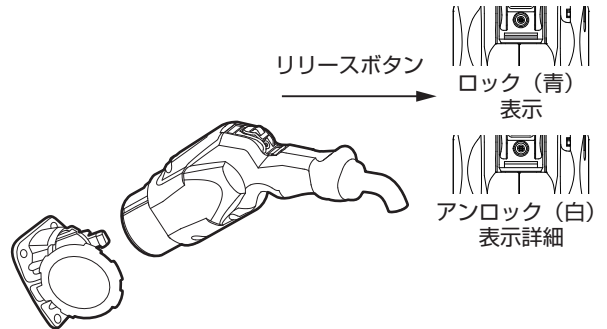
充放電コネクタのロックが解除されると、「コネクタロック / 解除」ボタンが消灯します。

同時に「待機」ボタンも消灯します。

メモ

- 「コネクタロック / 解除」ボタンが黄色く点灯している場合のみ、ロックの解除が必要です。
- 充放電中であっても、「コネクタロック / 解除」ボタンを押すと充放電を停止してコネクタロックを解除します。

2 車両から充放電コネクタを取り外す



車両充電口

ロック / アンロック表示が青になっていないことを確認します。

充放電コネクタの「リリース」ボタンを押しながら、充放電コネクタを引き抜きます。

メモ

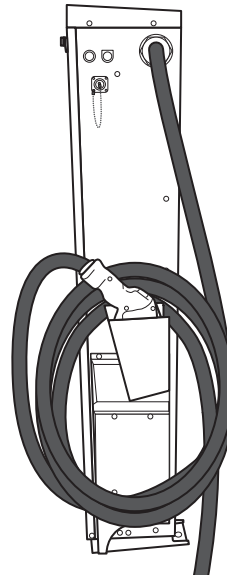
- 充電・放電中は充放電コネクタを外さないでください。
- 充放電コネクタを外す場合は、「充電」、「放電」ボタンが消灯していることを確認してから行ってください。

3 V2H スタンドに充放電コネクタを収納する



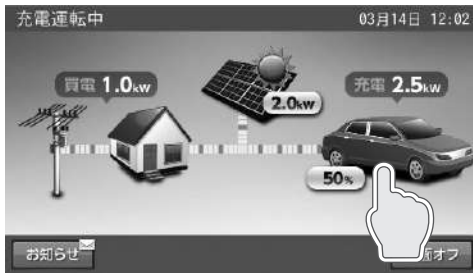
充放電コネクタのケーブルを右図のように巻き付け、充放電コネクタを V2H スタンドに戻します。

「充放電コネクタ収納方法 (推奨)」(9 ページ) を参照してください。



室内リモコンで行う場合

1 「車両アイコン」をタッチする

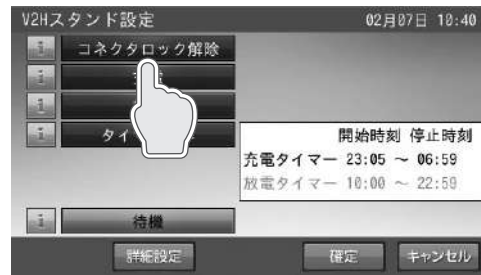


「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

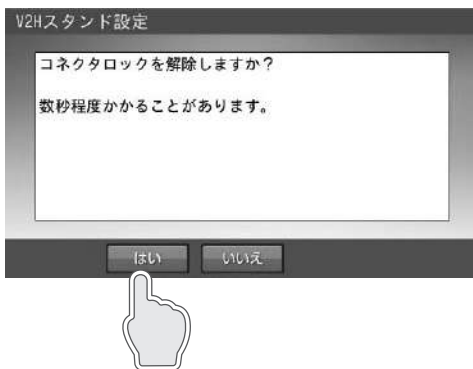
メモ

V2H スタンドでコネクタロック解除を行う場合は、本操作は不要です。

2 「コネクタロック解除」をタッチする



3 「はい」をタッチする



ホーム画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、コネクタロックを解除せず前の画面に戻ります。
- ホーム画面上の「車両」アイコンがコネクタ非ロック状態のグレーになるまで、数秒程度かかる場合があります。

通常時の使い方

V2H スタンドの各運転モードについて（連系時）

重要

本製品に引き込める電力は、最大 6.9 kW です。非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が大きい場合、車両への充電電力が 2 kW 前後に制限される場合があります。

タイマー動作をご利用の場合は、待機状態であっても、車両と V2H スタンド間の通信状態維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。車両の消費電力を抑えたい場合は、コネクタロックを解除する、または手動運転をご利用ください。ただし、万が一停電が発生すると蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」（48 ページ）、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）」（50 ページ）に従って、蓄電システムを起動してください。

メモ

コネクタロック解除状態では操作できません。

放電中の動作について

太陽光発電システムと異なり、電力会社との取り決めにより、送電線へ電力を逆流させないように放電中に微量電力を買電します。

メモ

ご家庭の使用電力が 100 W 未満のとき、およびご家庭の使用電力と太陽光発電電力が均等になる場合は、室内リモコンの表示が放電と待機で繰り返し切り替わることがあります。

タイマー動作モード

設定した時間帯に車両からの放電および車両へ充電を行うモードです。

メモ

タイマー動作中に V2H スタンドの手動モードを選択すると、タイマー動作はキャンセルされるため、再度タイマー動作させる必要があります。

重要

- タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも、車両と V2H スタンド間の通信維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。
- 充電完了後も上記消費電力により、徐々に車両の蓄電池残量が減ります。

タイマー充電

設定した時間帯に、太陽光発電電力および電力会社の電力を利用して、車両への充電を行うモードです。

優先的に太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。太陽光発電電力が車両への充電電力を上回っている場合は、家庭内負荷へ電力を供給します。更に太陽光発電電力が車両への充電と家庭内負荷への給電との合計電力を上回った場合は、上回った電力を売電します。太陽光発電電力が車両への充電電力に対して不足している場合は、不足分を系統から補います。

メモ

- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が 1 kW を超える場合には、定格で充電できないことがあります。
- 車両ごとに定められた「充電上限値」があり、その値までの充電になります。車両ごとに定められた「充電上限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で充電できない場合があります。

タイマー放電

設定した時間帯に、車両から家庭内負荷へ放電を行うモードです。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きいときは放電は行いません。

メモ

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で放電できない場合があります。
- 設定に関わらず、車両の蓄電池残量が 10% に達すると、自動的に車両との通信を遮断し、車両側の消費電力を抑制します。

次ページへ続く

重要

放電を停止する車両の蓄電池残量について

車両は室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」

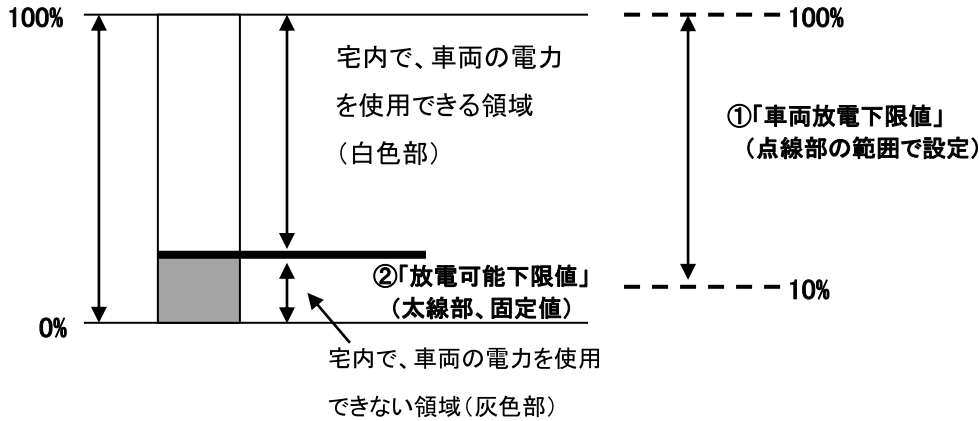
- 停電時または走行に備え残しておく車両の蓄電池容量
- お客様にて設定可能（10%～100%まで10%刻み）

②車両ごとに定められた「放電可能下限値」

- 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池容量
- 車両により定められており変更不可
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。

http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、室内リモコンで①の「車両放電下限値」を 10% に設定した場合でも、i-MiEV の②「放電可能下限値」30% に達すると放電を止めます。

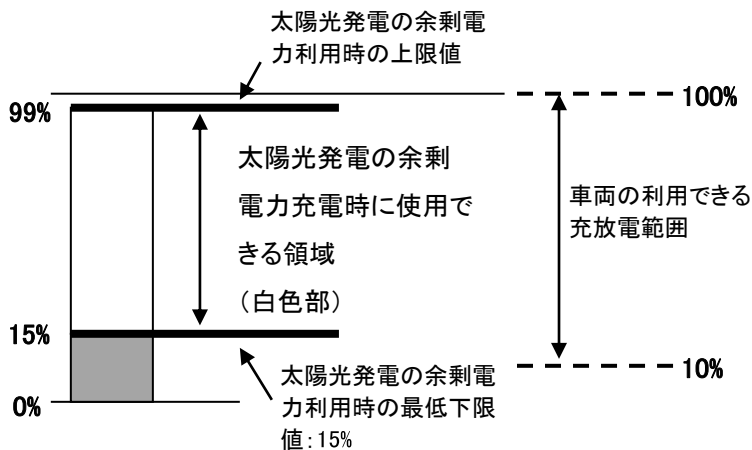
太陽光発電の余剰電力で充電する場合

太陽光発電電力の余剰電力があれば車両へ充電し、不足すれば放電するように動作させるには下記の操作を行ってください。

- ①「V2H スタンド詳細設定」の「太陽光余剰電力充電」を「する」に設定します。(41 ページ)
- ②タイマー放電の放電時間帯（放電開始時刻、停止時刻）を太陽光が発電している時間帯に設定します。(39 ページ)
- ③「タイマー動作」ボタンをタッチします。

メモ

- 外付け太陽光発電の余剰電力で充電することはできません。(ESS-T1 系)
 - 充電は車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電することが可能です。
 - 放電は室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」近く、または 15% の 3 つの中で下限値のもっとも高い値まで放電します。
- 例：10%～100%の範囲で利用できる車両では、室内リモコンで車両放電下限値を 10% と設定した場合、15%～99%の範囲で動作します。



※「放電可能下限値」を下回った場合、車両によっては充電できないことがあります。その場合、「車両放電下限値」を「放電可能下限値」より上の値に設定してください。

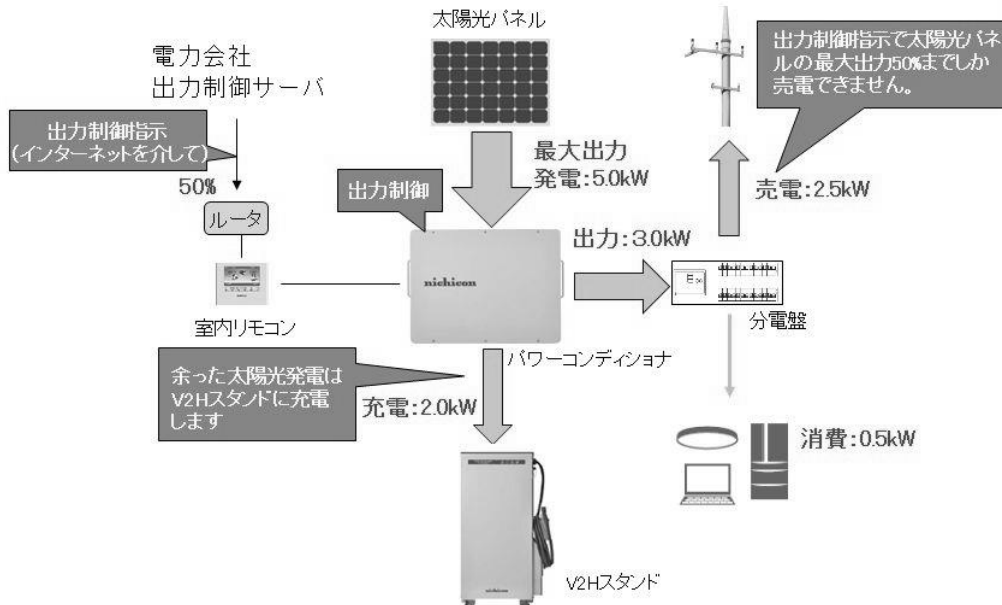
次ページへ続く

※太陽光発電の電圧上昇や遠隔出力抑制について (ESS-T1 系)

システムの様々な状況による電圧上昇抑制や電力会社による出力制御要請により、太陽光発電の余剰電力の一部を売電できない場合があります。

出力制御により売電できない発電電力は、タイマー動作で太陽光余剰電力充電「しない」の設定時に、放電時間内で車両が充電できる状態であれば自動的に売電できない余剰電力の充電を行います。その場合は、太陽光余剰電力充電「する」の設定のときと同様の動作となります。ただし、車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電したときは、車両との通信を遮断するため、出力抑制による余剰電力を充電することはできません。

例：電力会社からの出力制御指示が 50% の場合の電力の流れ



手動運転モード

重要

手動運転完了後は、車両との通信を遮断するため、停電が発生しても自動的に停電動作を行うことができません。

充電

時間帯に関係なく、太陽光発電電力および電力会社の電力を利用して車両への充電を行うモードです。

優先的に太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。太陽光発電電力が車両への充電電力を上回っている場合は、家庭内負荷へ電力を供給します。更に太陽光発電電力が車両への充電と家庭内負荷への給電との合計電力を上回った場合は、上回った電力を売電します。太陽光発電電力が車両への充電電力に対して不足している場合は、不足分を系統から補います。

車両が満充電になり次第、充電動作を終了します。動作終了後は「待機モード」と同じ状態となります。

メモ

- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が 1 kW を超えるときには、定格で充電できない場合があります。
- 車両ごとに定められた「充電上限値」があり、その値までの充電になります。車両ごとに定められた「充電上限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で充電できない場合があります。

重要

充電完了後は「待機モード」と同じ状態となり、万が一停電が発生すると蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(48 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 (例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(50 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。充電完了後も停電時に備えたい場合は、「タイマー動作」をご利用ください。

放電

時間帯に関係なく、車両から家庭内負荷へ放電を行うモードです。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きい場合は、放電は行いません。動作終了後は「待機モード」と同じ状態となります。

※室内リモコンで設定する「車両放電下限値」で放電を停止した場合は、待機状態となり車両との通信状態を維持します。

メモ

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。(42 ページ)
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。(42 ページ)
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で放電できない場合があります。
- 設定に関わらず、車両の蓄電池残量が 10% に達すると、自動的に車両との通信を遮断し、車両側の消費電力を抑制します。

重要

放電終了後は「待機モード」と同じ状態となり、万が一停電が発生すると蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(48 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(50 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

待機

時間帯に関係なく、車両の充放電を行わないモードです。

V2H スタンドの手動操作方法

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）にします。
手動運転モードの「充電」、「放電」、「待機」は、下記操作を行うことにより動作させることができます。

1 車両と接続する

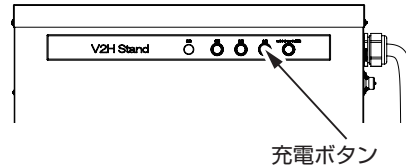
「車両との接続方法」に従い、充放電コネクタを車両に接続します。
「コネクタロック/解除」ボタンが黄色く点灯していることを確認します。

メモ

コネクタロック状態でないと、以降の操作は行えません。

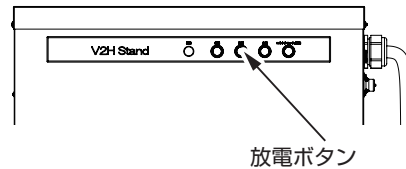
2 充電または放電を開始する

- 充電を行う場合



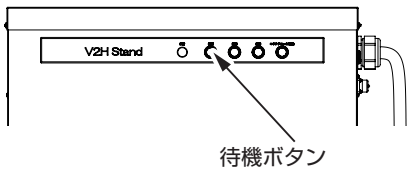
V2H スタンドの「充電」ボタンを押します。
「充電」ボタンが橙色に点灯し、充電を開始します。
同時に「待機」ボタンが消灯します。

- 放電を行う場合



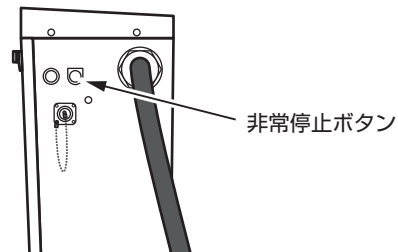
V2H スタンドの「放電」ボタンを押します。
「放電」ボタンが青色に点灯し、放電を開始します。
同時に「待機」ボタンが消灯します。

3 充電または放電を止める



V2H スタンドの「待機」ボタンを押します。
橙色（充電時）、または青（放電時）に点灯していたボタンが消灯し、待機状態になります。待機ボタンは緑色点灯となります。
「コネクタロック/解除」ボタンを押すことでも同様に充放電を停止しますが、コネクタロックを解除するため、すべてのボタンが消灯します。

※非常時停止する場合



ボタンカバーを開けて「非常停止」ボタンを押してください。
非常停止を解除する場合は、「非常停止」ボタンを押す原因が解消したことを確認してから、再度「非常停止」ボタンを押してください。

V2H スタンドの運転モードを選ぶ

「車両アイコン」がカラーで表示されている場合のみ、車両充放電設定の内容を確認、変更できます。V2H スタンドが接続されていないときは、この設定はできません（「車両アイコン」が表示されません）。また、「車両アイコン」がグレーアウト表示になっている場合は、コネクタロックを行ってください。

重要

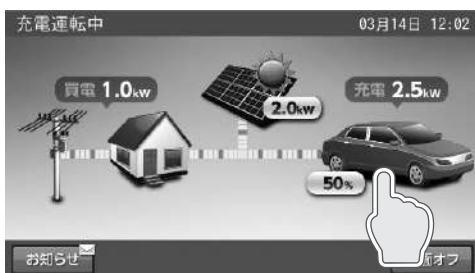
タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも車両と V2H スタンド間の通信維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。

- 下記モードを選択することができます。

	設定できるモード
手動運転モード	充電
	放電
	待機
タイマー動作モード	充電
	放電

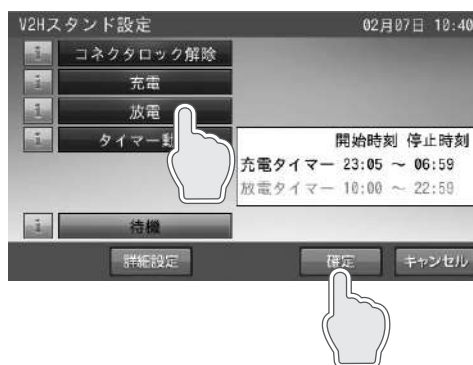
各運転モードの詳細は、29 ページを参照してください。

1 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

2 運転モードを選択する



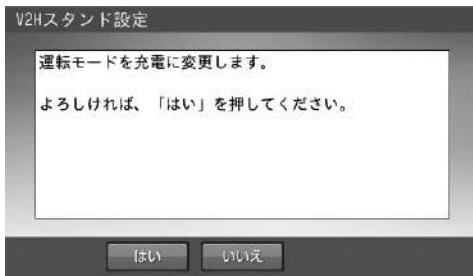
運転モード選択後、「確定」をタッチします。

メモ

- コネクタロックが解除状態の場合は、各運転モードのボタンは表示されません。
- 「タイマー動作」を選択した場合は、画面右の充放電タイマー開始時刻および停止時刻で動作します。
- 「充電タイマー」、「放電タイマー」の文字が黒字の場合はタイマー設定が有効です。グレーアウトの場合は無効状態です。
- 充電タイマー、放電タイマーの設定は 37、39 ページを参照してください。

3 設定を確定する

例：「充電」を選択した場合



「はい」をタッチすると、運転モードを開始してホーム画面に戻ります。

メモ

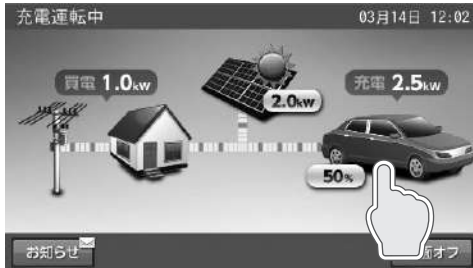
- 「いいえ」をタッチすると、「V2H スタンド設定」画面に戻ります。
- コネクタロックを解除すると V2H スタンドの動作はすべてキャンセルされるため、コネクタロック時に再度モードの選択が必要となります。
- タイマー動作中に手動モードを選択すると、タイマー動作はキャンセルされます。タイマー動作させたい場合は、再度「タイマー動作」ボタンをタッチしてください。

V2H スタンドの詳細設定について

タイマー動作の充放電時間帯などの設定を行います。

本設定は、コネクタロック解除状態でも設定できます。また、コネクタロックを解除しても、次回利用時に前回と同じ設定で問題なければ再度設定する必要はありません。

1 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

2 「詳細設定」をタッチする



「V2H スタンド詳細設定」画面に切り替えます。

3 設定を変更する



変更したい項目をタッチします。

各項目については、以下のページを参照してください。

- 充電タイマー設定：37 ページ
- 放電タイマー設定：39 ページ
- 太陽光余剰電力充電：41 ページ
- V2H スタンド本体操作：41 ページ
- 車両放電下限値：42 ページ
- 非常時放電動作：43 ページ
- 非常時車両放電下限値：43 ページ



変更後、「確定」をタッチします。

「V2H スタンド設定」画面に戻ります。

メモ

変更した場合は、必ず「確定」をタッチしてください。各項目を選択しても、「確定」をタッチしないと設定した動作を行いません。

充電タイマー設定

タイマー動作モードの充電時間を設定できます。

タイマー設定時間外に万が一停電になった場合は、「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(48 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(50 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

重要

●車両電池容量 10 kWh 以上の場合

車両の蓄電池保護のため、10 分間の停止時間が必要です。充電時間と放電時間の合計は 23 時間 50 分以内に設定してください。

●車両電池容量 10 kWh 未満の場合(例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

車両の蓄電池保護のため、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。

※車両電池容量 10 kWh 未満の車両が接続した後に、車両電池容量 10 kWh 以上の車両を接続する場合は、必ず充放電時間帯の設定を見直してください。充放電時間帯の設定は、自動では変更されません。

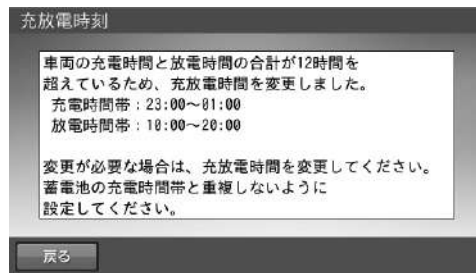
※手動運転モードおよび停電時利用の場合は、12 時間の制限はありません。

出荷時

- 充電開始時刻：23:00
- 充電停止時刻：7:00

※ 電池容量 10 kWh 未満の車両接続時(コネクタロック)時にタイマー充放電時間が 12 時間を超えていた場合は、充放電時刻は自動で変更されます。

- 充電開始時刻：23:00
- 充電停止時刻：1:00



1 「する」をタッチする



「充電タイマー設定」画面に切り替わります。

メモ

タイマー運転時に充電動作させたくない場合は、「しない」をタッチしてください。

2 充電開始時刻、停止時刻を変更する



開始時刻、停止時刻の時刻部分をタッチすると、「充電時刻」画面(下図)に切り替わります。



数字キーをタッチすると、新しい時刻が入力されます。

← / →をタッチすると、カーソルが移動します。

それぞれの時刻を設定後、「決定」をタッチします。

メモ

「キャンセル」をタッチすると、入力した値は反映せずに「充電タイマー設定」画面に戻ります。

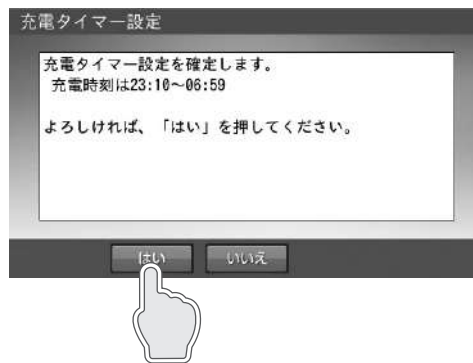
次ページへ続く

3 「確定」をタッチする



設定を変更します。

例



「はい」をタッチすると、「V2H スタンド詳細設定」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、「充電タイマー設定」画面に戻ります。
- 設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(36 ページ)

重要

充電時刻内に満充電にならない場合があります。

- 深夜電力時間が短い電力プランの利用 (例: スマートライフプラン^{※1})
- 車両の蓄電池残量が少ない状態からの充電開始
- 充電時刻内にご家庭の消費電力が大きい
- 充電時刻が適切に設定できない。(例: 開始時刻が遅い、停止時刻が早い)

※ 1: 東京電力エナジーパートナー株式会社 電力プラン

放電タイマー設定

タイマー動作モードの放電時間を設定できます。

タイマー設定時間外に万が一停電になった場合は、「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(48 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(50 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

重要

●車両電池容量 10 kWh 以上の場合

車両の蓄電池保護のため、10 分間の停止時間が必要です。充電時間と放電時間の合計は 23 時間 50 分以内に設定してください。

●車両電池容量 10 kWh 未満の場合(例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

車両の蓄電池保護のため、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。

※車両電池容量 10 kWh 未満の車両が接続した後に、車両電池容量 10 kWh 以上の車両を接続する場合は、必ず充放電時間帯の設定を見直してください。充放電時間帯の設定は、自動では変更されません。

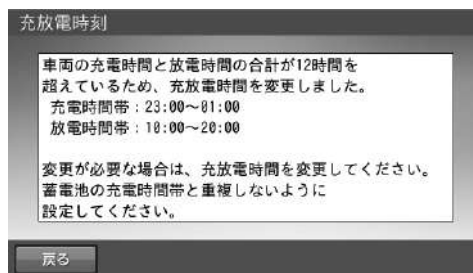
※手動運転モードおよび停電時利用の場合は、12 時間の制限はありません。

出荷時

- 放電開始時刻：7:10
- 放電停止時刻：22:59

※ 電池容量 10 kWh 未満の車両接続時(コネクタロック)時にタイマー充放電時間が 12 時間を超えていた場合は、充放電時刻は自動で変更されます。

- 放電開始時刻：10:00
- 放電停止時刻：20:00



1 「する」をタッチする



「放電タイマー設定」画面に切り替わります。

メモ

タイマー運転時に放電動作させたくない場合は、「しない」をタッチしてください。

2 放電開始時刻、停止時刻を変更する



開始時刻、停止時刻の時刻部分をタッチすると、「放電時刻」画面(下図)に切り替わります。



数字キーをタッチすると、新しい時刻が入力されます。
← / → をタッチすると、カーソルが移動します。
それぞれの時刻を設定後、「決定」をタッチします。

メモ

「キャンセル」をタッチすると、入力した値は反映せずに「放電タイマー設定」画面に戻ります。

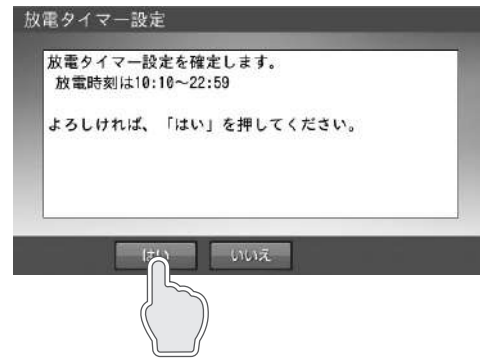
次ページへ続く

3 「確定」をタッチする



設定を変更します。

例



設定内容に問題がなければ、「はい」をタッチすると、「V2H スタンド詳細設定」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、「放電タイマー設定」画面に戻ります。
- 設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(36 ページ)

以降の項目も、設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(36 ページ)

太陽光余剰電力充電

太陽光発電電力の余剰電力で充電を行うための設定です。本設定を行うことで、タイマー動作の放電時間帯に太陽光の余剰電力を車両に充電します。

1 「する」をタッチする



タイマー動作中に太陽光の余剰電力を車両へ充電する場合は、「する」を選択します。

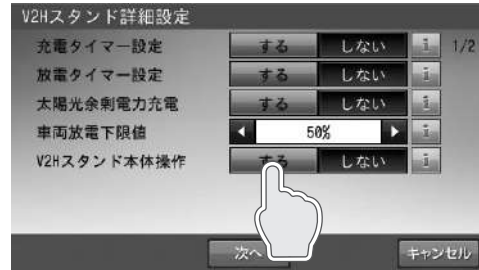
メモ

- 車両ごとに定められた「充電上限値」に達した場合は、太陽光の余剰電力があっても充電できません。
- 「しない」を選択すると、太陽光の余剰電力を車両へ充電することはありません。
- 外付け太陽光発電の余剰電力を充電することはできません。(ESS-T1系)
- 充電は、車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電することが可能です。
- 放電は室内リモコンで設定する「車両放電下限値」あるいは車両ごとに定められた「放電可能下限値」近く、または15%の3つの中で、下限値のもっとも高い値まで放電します。

V2H スタンド本体操作

V2H スタンド本体で操作できなくさせる設定です。長期ご不在時など、第三者の無断使用を防止する場合などに便利な機能です。お客様の用途にあわせて設定してください。

1 「する」をタッチする



V2H スタンド本体での操作を有効とする場合は、「する」を選択してください。

「しない」を選択すると、V2H スタンド本体で充放電操作を行うことができなくなります。

車両放電下限値

車両から放電を行う場合に、指定残量までで放電を止めるように制限します。

1 車両放電下限値を選択する



◀ / ▶ をタッチすることで、設定を変更します。

- 設定値：
10%、20%、30%、40%、50%、60%、
70%、80%、90%、100%

メモ

- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回る設定をした場合は、機能しません。
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限值が高い方が優先となります。
(例: 「車両放電下限値」が 30%、放電可能下限値が 40% の場合、40% まで放電を行います。)

重要

タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも、車両と V2H スタンド間の通信維持のため車両の蓄電池より電力を消費します。そのため、車両放電下限値を設定しても、車両放電下限値を下回る場合があります。

重要

放電を停止する車両の蓄電池残量について

車両は室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」(「非常時車両放電下限値」)

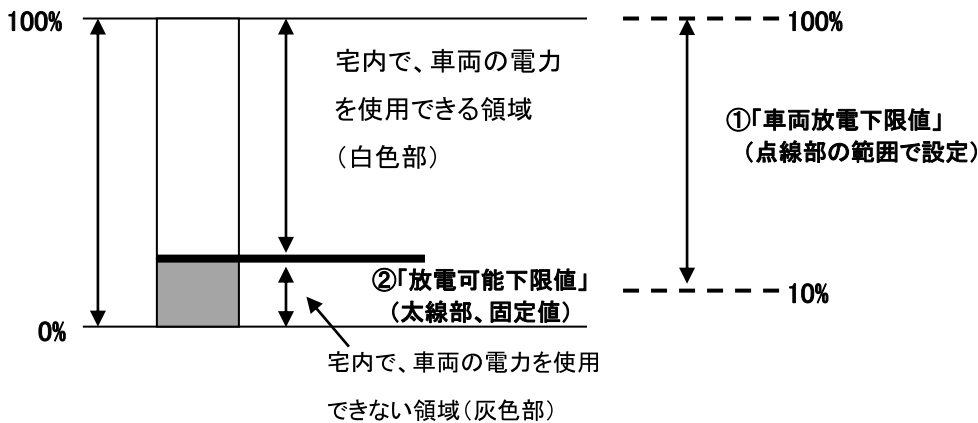
- 停電時または走行に備え残しておく、車両の蓄電池容量
- お客様にて設定可能 (10% ~ 100% まで 10% 刻み)

②車両ごとに定められた「放電可能下限値」

- 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池容量
- 車両により定められており、変更不可
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。

http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限值が高い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、室内リモコンで①の「車両放電下限値」を 10% に設定した場合でも、i-MiEV の②「放電可能下限値」30% に達すると放電を止めます。

以降、非常時（停電時）の設定内容になります。

非常時放電動作

非常時に車両からの放電を許可するか設定できます。

1 「する」または「しない」をタッチする



「する」：非常時（停電時）に車両から放電を行います。
「しない」：非常時（停電時）に車両からの放電は行いません。

通常は停電時に車両の電力が利用できるように、「する」に設定してください。

重要

「しない」を選択すると、復電するか、太陽光が発電するまで非常時兼用コンセントを利用することができません。通常は「する」を選択してください。

非常時車両放電下限値

非常時に車両から放電する場合に、指定残量までで放電を止めるように制限します。

1 非常時車両放電下限値を選択する



非常時（停電時）であっても、車両蓄電池の残量がゼロになって走行できなくなならないように、使用を指定の残量まで制限することができます。

放電中に指定の車両蓄電池残量になると、放電を停止します。

◀ / ▶ をタッチすることで、設定を変更します。

- 設定値：
10%、20%、30%、40%、50%、60%、
70%、80%、90%、100%

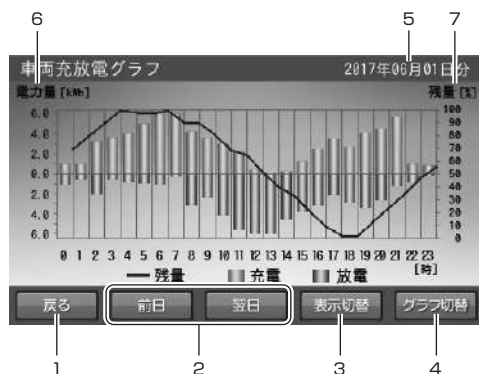
メモ

- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回る設定をした場合は、機能しません。
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」、両方下限値があるときは下限値が高い方が優先となります。（例：「非常時車両放電下限値」が30%、放電可能下限値が40%の場合、40%まで放電を行います。）「放電を停止する車両の蓄電池残量について」（42 ページ）を参照してください。

各グラフについて

別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」で説明している「発電 / 売買電グラフ」に加えて、「車両充放電グラフ」を表示することができます。「発電 / 売買電グラフ」は、別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

車両の充放電電力量 (kWh) および車両蓄電池の残量 (%) (日別) グラフを表示します。



車両充放電グラフ

1. 「戻る」ボタン：
「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。
2. 「前日」 / 「翌日」ボタン：
表示しているグラフの前日 / 翌日のグラフを表示します。
3. 「表示切替」ボタン：
「日別」 → 「月別」 → 「年別」 → 「日別」の順に切り替わります。
4. 「グラフ切替」ボタン：
「発電 / 売買電グラフ」 → 「車両充放電グラフ」の順に切り替わります。

5. 日付表示：
表示しているグラフの日付を表示します。日付を変更したい場合は、ここをタッチしてください。「日付入力画面」に切り替わります。
6. 電力量 [kWh]
● 充電電力量：棒グラフ（オレンジ）で上側に棒の長さで表示します。
● 放電電力量：棒グラフ（緑色）で下側に棒の長さで表示します。
7. 車両蓄電池残量表示：車両蓄電池残量を折れ線グラフで表示します。

メモ

- 本システムの設置時から現在までの過去最大 10 年間のグラフを表示し、10 年を超えると古い日付のデータから削除されます。
- グラフおよび表示量は目安です。測定条件などの違いにより、他の機器 (HEMS など) と異なる場合があります。
- 室内リモコンの電源を切っている間は、データが保存されないため表示できません。
- 日時設定を変更したときは、変更時間帯を含むデータが正しいデータではなくなります。HEMS などとの時刻同期により日時設定が変更されたときも同様です。

各グラフ画面の「グラフ切替」をタッチすると、グラフが切り替わります。

例：「発電 / 売買電グラフ」から「車両充放電グラフ」への切り替え

<発電 / 売買電グラフ>



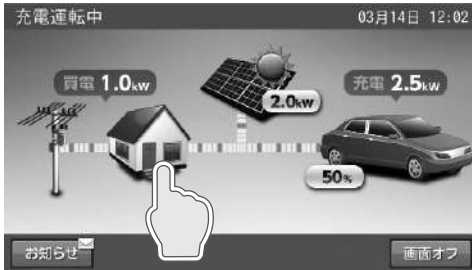
<車両充放電グラフ>



グラフの表示方法

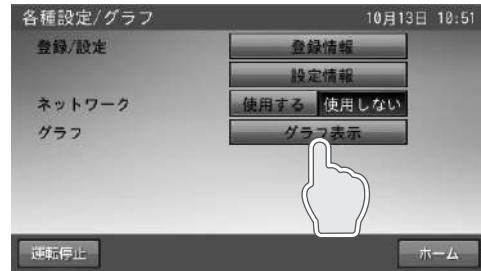
< グラフを表示する >

1 「家アイコン」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に切り替えます。

2 「グラフ表示」をタッチする



「発電 / 売買電グラフ」画面に切り替えます。

メモ

- 前回、最後に表示したグラフを表示します。
- 室内リモコン上の現在時刻までのデータを表示します。

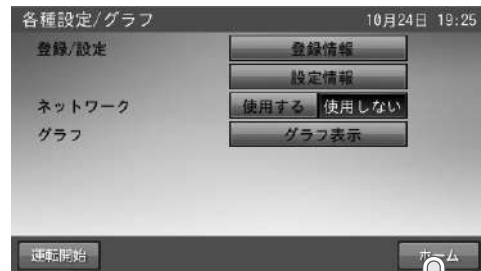
< ホーム画面に戻る場合 >

3 「戻る」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に切り替えます。

4 「ホーム」をタッチする



ホーム画面に戻ります。

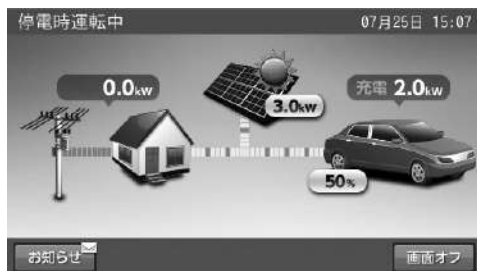
停電時の使い方（自立運転）

停電時の使い方（自立運転）

停電時の室内リモコンの表示は、画面左上に「停電時運転中」と表示されます。

- 太陽光が発電していない場合に、車両をコネクタロックしていない、または充放電時間ではなかった場合は、車両から本システムを起動する必要があります。（48、50 ページ）
- 「非常時放電動作」を「する」に設定していない場合は、車両からの起動および放電はできません。（43 ページ）

例：停電時運転中のホーム画面



分電盤の切替スイッチが「蓄電」側になっていることをご確認ください。

切替スイッチを「蓄電」側でご利用いただいた場合は、停電時、自動的に非常時兼用コンセントに電気が供給されます。

停電時の家電製品の利用について

非常時兼用コンセントの消費電力（目安）は 2500 W です。（100 V のみ使用可）

（V2H スタンド 出力：最大 3.0 kVA、太陽光が 3 kW 以上発電している場合※：最大 3.0 kVA）

※：ESS-T1 系の場合

電気の使い過ぎや使用中の家電製品の特性により、非常時兼用コンセントで機器の出力を超える電力を使用すると、室内リモコンにメッセージを表示して、非常時兼用コンセントへの給電を停止します。

下記の家電製品は非常時兼用コンセントへの接続を避ける、または注意してください。

途中で電源が切れると困る家電製品	突入電流が大きい家電製品	消費電力が大きい家電製品
接続禁止	動作しない場合がある	動作しない場合がある
医療機器、デスクトップ型パソコンなど	掃除機、遠赤外線ヒーター、洗濯機、ポンプなど	電子レンジ、電気ストーブなど

- 途中で電源が切れると困る家電製品は接続しないでください。
- 突入電流が大きい家電製品は一部動作しない場合があります。
- 消費電力が大きい家電製品を利用する場合は、動作させる前に他に接続している家電製品を減らすなど、非常時兼用コンセントの定格を超えないように工夫してください。
- もし安全装置が作動してしまった場合は、室内リモコンのメッセージに従って接続している家電製品の数を減らし、システムを再起動してください。
- 200 V の家電製品（エアコンや IH クッキングヒーター）は使用できません。

復電時の操作

- 復電前にコネクタロックしていた場合には、復電後コネクタロックの状態を確認してください。車両の蓄電池残量によっては、停電時にコネクタロックを解除する場合があります。解除されている場合は、必要に応じてコネクタロックを行ってください。
- 電力会社との協議で定められている時間内（最大 5 分）は、復電しても停電時の動作となります。復電後、電力会社との協議で定められた時間を経過しても停電時にモードを変更した場合は、その動作を継続します。停電時にモードを変更していない場合は、停電前のモードで動作を行います。

停電時に利用できる運転モードについて

※停電時、太陽光発電がある場合に、車両の蓄電池容量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、強制的に 12% まで充電を行います。その場合ご家庭には一切給電することができません。

停電時には、通常時と異なり「タイマー動作モード」を利用することはできません。

その他のモードは利用することができます。

- 下記モードを選択することができます。

	設定できるモード
手動運転モード	充電
	放電
	待機

停電時の V2H スタンド設定画面



手動運転モード

充電

太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。

非常時兼用コンセントへの給電は一切行いません。太陽光発電電力がない場合は、充電することはできません。

※ ESS-T1 系では、外付け太陽光発電電力を充電することはできません。

※ ESS-T2 系では、外付け太陽光発電の自立出力の範囲で利用することができます。

放電

車両から家庭内負荷へ放電および太陽光余剰電力を充電するモードです。

太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きい場合は、車両からの放電は行わず、太陽光の発電電力を家庭内負荷へ給電します。余剰電力は車両へ充電します。通常はこちらのモードをご利用ください。

停電時、車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った状態で接続する場合、充電が開始できないことがあります。太陽光が十分発電していることを確認してから、「コネクタロック」を行い、運転モードを「充電」に設定してください。

※ ESS-T2 系では、家庭内負荷が外付け太陽光の自立出力を超える場合には、車両からの放電に切り替わります。

メモ

- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
(例：「非常時車両放電下限値」が 30%、「放電可能下限値」が 40% の場合、40% まで放電を行います。)
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」に達すると放電ができなくなるため、蓄電システムは停止します。
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

待機

車両の充放電を行わないモードです。

※太陽光発電電力がない場合、蓄電システムは停止します。

停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法

停電時、太陽光発電電力がない場合で、車両がコネクタロックしていないとき、または、コネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、蓄電システムが停止します。

その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

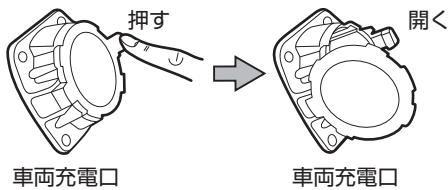
車両の蓄電池残量が下限値^{*1}より残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し、下記の操作を行って、本システムを起動してください。

車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回っている場合は、起動できません。

下記の操作により、起動させたときでも車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回った場合は、蓄電システムが停止します。

※ 1 下限値：室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」

1 車両を準備する



車両のシフトをパーキング（P 位置）にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

※コネクタロック作業は不要です。

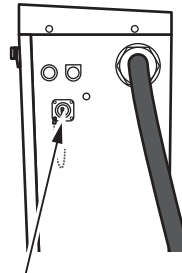
4 車両の電源ソケットに付属品の 12V 電源ケーブルを接続し、車両の ACC（アクセサリ）を ON にする

車両のドアは閉じた状態として、窓から 12V 電源ケーブルを外に出してください。

メモ

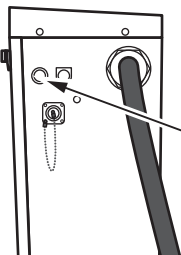
ソケット位置および接続については、車両の取扱説明書を確認してください。

5 V2H スタンド右側面の 12V IN に 12V 電源ケーブルを接続する



12V IN

6 V2H スタンドの「停電起動」ボタンを押す



停電起動ボタン

7 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

重要

車両の消費電力が多くなり、車両蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

メモ

放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっていることを再度確認してください。

重要

車両の蓄電池残量が下限値を下回っている場合は、起動できません。その場合は、太陽光発電の電力で起動できます。

※下記の設定を実施すると、V2H スタンドで「放電」ボタンを操作しなくても自動的に放電を行います。

- 「設定情報」の「停電時出力」が「自動」であること
- 「V2H スタンド詳細設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 (例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

※下記の操作により本システムを起動できる車種は限られています。(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)
停電時、太陽光発電電力がない場合で、車両がコネクタロックしていないとき、または、コネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、蓄電システムが停止します。

その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

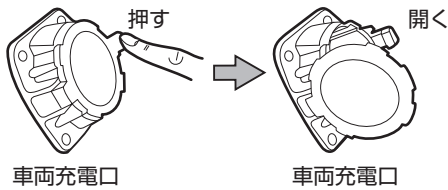
車両の蓄電池残量が下限値^{*1}より残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し、下記の操作を行って、本システムを起動してください。

車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回っている場合は、起動できません。

下記の操作により、起動させたときでも車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回った場合は、蓄電システムが停止します。

※ 1 下限値：室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」

1 車両を準備する



車両のシフトをパーキング (P 位置) にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する

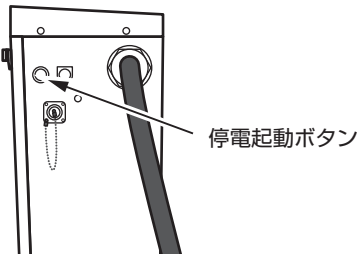


充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

※コネクタロック作業は不要です。

4 車両の ACC(アクセサリ) を ON にする

5 V2H スタンドの「停電起動」ボタンを押す



6 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

重要

車両の消費電力が多くなり、車両蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

本操作で起動できない車種は、車両の電源ソケットを利用した方法で起動してください。

メモ

放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっていることを再度確認してください。

重要

車両の蓄電池残量が下限値を下回っている場合は、起動できません。その場合は、太陽光発電の電力で起動できます。

※下記の設定を実施すると、V2H スタンドで「放電」ボタンを操作しなくても自動的に放電を行います。

- 「設定情報」の「停電時出力」が「自動」であること
- 「V2H スタンド詳細設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



こんなときは

ブザー音や異音について

ブザーが鳴ったとき

ブザーが鳴ったときは、室内リモコンの画面に表示されたメッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき」（62 ページ）の処置に従ってください。

機器から発生する音について

以下の音は本製品の異常ではありません。

ジージー音	
チリチリ音	製品内部の回路が動作するときに発生する音です。
チャリチャリ音	
カチャ音	製品内部の機械部分が動作するときに発生する音です。 (運転開始時と、停止時に発生します)
ブーン音	ファンの音です。

メモ

聴覚感覚が高い方にとって、運転時の高周波音は不快に感じる場合がありますが異常ではありません。

動作がおかしいと感じたとき

アンペアブレーカが頻繁に落ちる場合

お買い上げの販売会社へご連絡ください。

契約電力を変更する場合

アンペアブレーカの容量を変更する場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

非常時兼用コンセントのブレーカが頻繁に落ちる場合

接続している家電製品を減らしてください。

停電時に非常時兼用コンセントが使用できない場合

- ブレーカが落ちていないか確認してください。ブレーカが落ちている場合は、ブレーカを上げてください。
- 室内リモコンに点検コードが表示されている場合は、メッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき」（62 ページ）の処置に従ってください。
- 切替スイッチが「蓄電」側であることを確認してください。「系統」側の場合は、「蓄電」側に変更してください。
- 車両が停電動作に移行していない場合、「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」（48 ページ）、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）」（50 ページ）に従って、システムを起動してください。
- 「停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合」（53 ページ）を参照してください。太陽光発電がなく、車両の蓄電池残量がゼロの場合は、非常時兼用コンセントを利用することはできません。
- 上記要因でない場合、故障の可能性があります。お買い上げの販売会社へご連絡ください。

100%まで充電できない場合

- 充電時間帯に他の家電製品（電気温水器、床暖房など）を多く使っているとき、電力契約によっては充電できる電力が不足して車両の「充電上限値」まで充電できないことがあります。その場合は、電力契約の見直しなど、お買い上げの販売会社にご相談ください。
深夜電力時間が短い電力プラン（例：スマートライフプラン^{*1}）をご利用いただいている場合は、注意が必要です。
 - 充電時間が短いときは、車両の「充電上限値」までできないことがあります。「V2H スタンドの詳細設定について 充電タイマー設定」を参照してください。
 - 最大充電電力設定を低く設定している場合があります。別冊「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」の「各種設定項目 最大充電電力設定」を確認してください。
- ※ 1：東京電力エナジーパートナー株式会社 電力プラン

充放電時間が設定より短い場合

接続している車両の電池容量をご確認ください。車両電池容量が 10 kWh 未満の車両を接続している場合は、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）

次ページへ続く

充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下のときは、放電ができません。充電を行ってください。
※室内リモコンで設定する「車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。
- 車両の蓄電池残量が車両ごとの「充電上限値」付近の場合は充電できません。
- コネクタロック状態になっていない場合は充放電できません。コネクタロックを行ってください。
- コネクタロック後、「タイマー動作」ボタンをタッチしていないときは、「タイマー動作」は行いません。コネクタロックを解除した場合は、次回コネクタロック時に再度「タイマー動作」ボタンをタッチしてください。
- 「タイマー動作」の設定時刻、「蓄電池ユニットの充放電時刻」が適切に設定されていないときは、意図した時刻に充放電ができない場合があります。
(車両電池容量が 10kWh 未満の車両接続時は、充電時間と放電時間の合計が 12 時間以内に制限されます。)
- 太陽光が充電中の場合、車両から放電することはできません。

充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合

車両によっては、車両との接続の取り決めにより充電・放電操作を行ってから動作するまでに数秒かかる場合があります。

定格で充電できない場合

- 車両の蓄電池の残量（電圧）によっては、定格で充電できない場合があります。また、太陽光の余剰電力を充電しているときに定格充電できない場合は、売電を行います。
- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が 1 kW を超えるときには、定格で充電できない場合があります。

コネクタロック・解除を繰り返す場合

三菱自動車工業製 i-MiEV シリーズの場合、お使いいただいている家電製品の合計が約 200 W 以下の状態が約 15 分経過すると、車両側で放電を停止することがあります。その場合は自動的に復帰を行いますが、電力の使用状況が変わらないときは放電を停止します。

車両が満充電後、すぐに放電できない場合

車両によっては、満充電後すぐには放電できない場合があります。一度コネクタロックが解除することがありますが、自動的にコネクタロックを行い、放電を開始します。

停電時に車両の蓄電池残量が下限値を下回った場合

夜間など太陽光発電電力がない状態で停電になり、停電時に車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った場合は、蓄電システムが停止します。その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

●太陽光発電電力が得られる場合

夜間時に備えるために充電を優先する場合は、「停電時に利用できる運転モードについて」(47 ページ) に従い「充電」に設定してください

メモ

- 停電時の「充電」は、非常時兼用コンセントには一切電気が供給されません。非常時兼用コンセントへの給電を優先したい場合は、「放電」を選択してください。
- ESS-T2 系は、外付け太陽光パワーコンディショナを自立運転に切り替える必要があります。ただし、車両によっては、外付け太陽光パワーコンディショナから充電できない場合があります。

●太陽光発電電力が得られない場合

復電するまで、本システムを利用することはできません。

復電後、下記点検コードを発報した場合には、お客様にて「非表示」をタッチして点検コード画面を閉じ、以下の操作を行ってください。

- 点検コード「BF517」が表示された場合：現在日時を設定してください。

①「非表示」をタッチして、点検コード画面を閉じます。

②日時設定を行ってください。

停電時に充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下の場合、放電ができません。

※室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。

- 「非常時放電動作」が「しない」になっている場合、停電時に車両からの放電はできません。「する」に設定してください。

充放電コネクタが取り出せなくなった場合

- 再度室内リモコン、V2H スタンド両方でコネクタロックの解除を行ってください。どちらかのみコネクタロックを解除できた場合は、その旨をお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 一度充電または放電を実施してください。実施することで取り外せる場合があります。
 - ・ V2H スタンドにて、「充電」ボタンまたは「放電」ボタンを押してください。
 - ・ V2H スタンドにて、「待機」ボタンを押した後に、「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

症状が変わらない場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

充放電コネクタが濡れてしまった場合

布などで水分を拭き取ってください。そのままにしておくと、感電の原因となります。

充放電コネクタが凍結してしまった場合

冬季中、充放電コネクタが凍結し、抜けなくなることがあります。その場合は無理に抜こうとせずに、充電・給電を停止し、ぬるま湯をかける、もしくはドライヤーの風をあてて解冻してください。付着した水分は乾いた布で拭き取ってください。

緊急離脱について

緊急の場合は、付属の「充放電コネクタ緊急離脱工具」を使用して充放電コネクタを取り外すことができます。

- 緊急離脱を行った場合は、充放電コネクタは利用できなくなるため、必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 保証期間中であっても、不具合以外の要因で緊急離脱を行った場合のサービス対応費用はお客様ご負担となります。

重要

充放電コネクタ緊急離脱工具の入った袋に取扱説明書が同封されています。

“開封前に必ずお読みください”として下記を明示しています。開封された場合は下記内容に同意されたものとみなします。

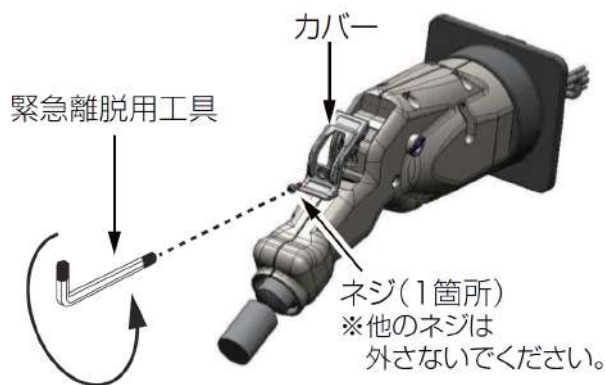
- 緊急離脱を行った充放電コネクタは使用できなくなります。
- 緊急離脱を行った場合は弊社による点検と内部スイッチ機能の回復が必要となります。
- 本書の「安全のために必ずお守りください」を作業前に必ずお読みください。
- 本書の記載内容を熟読し、手順に従って作業を行ってください。

緊急離脱の手順

作業前に以下を確認してください。

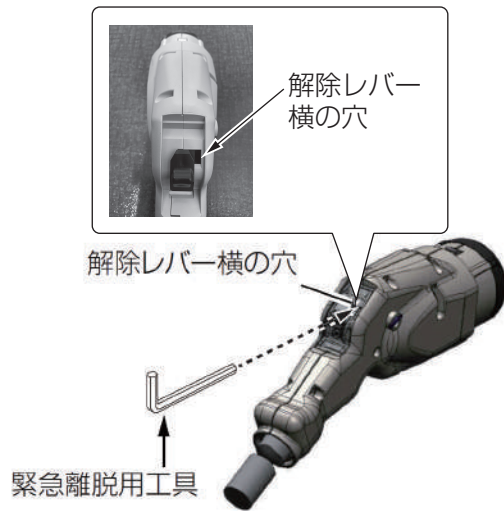
- 充放電が停止していること
- V2H スタンドのランプがすべて消灯していること
- 12V 電源ケーブルが接続されていないこと

1. 充放電コネクタ緊急離脱工具を使用してグリップのネジを外し、カバーを外してください。



2. カバーを外した後、解除レバーの横の穴に充放電コネクタ緊急離脱工具を挿し込んでください。

- 奥まで挿し込まないと取り出しができない場合があります。



3. 充放電コネクタ緊急離脱工具を下げながら、充放電コネクタをゆっくりと充電口から引き抜いてください。

- 本工具を使用した場合は、充放電コネクタは利用できません。取り外し完了後は必ず販売会社にご連絡ください。



その他ご使用に関する操作方法等

停電時、安全を確認してから非常時兼用コンセントをご利用になりたい場合

下記に従って操作を行ってください。

切替スイッチが「系統」側のままの場合は停電時、非常時兼用コンセントには電気が供給されませんので、「蓄電」側に切り替えてください。

※夜間等太陽光発電電力がない場合は、項目4の画面は表示せず、蓄電システムは起動しません。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(48 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(50 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

1 「手動」をタッチする



「設定情報」で「停電時出力」の設定を「手動」にします。「確定」をタッチします。

2 「する」をタッチする

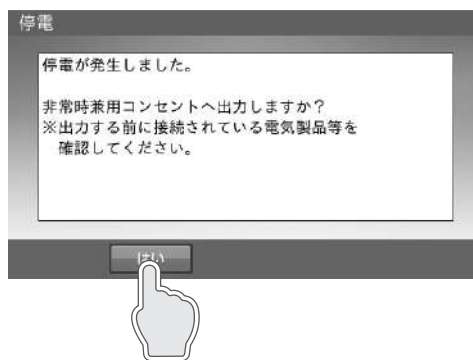


- 「する」: 非常時(停電時)に車両から放電を行います。
- 「しない」: 非常時(停電時)に車両からの放電は行いません。

3 安全を確認する

停電が発生したら、配線、非常時兼用コンセントに接続されている家電製品などが安全であることを確認します。

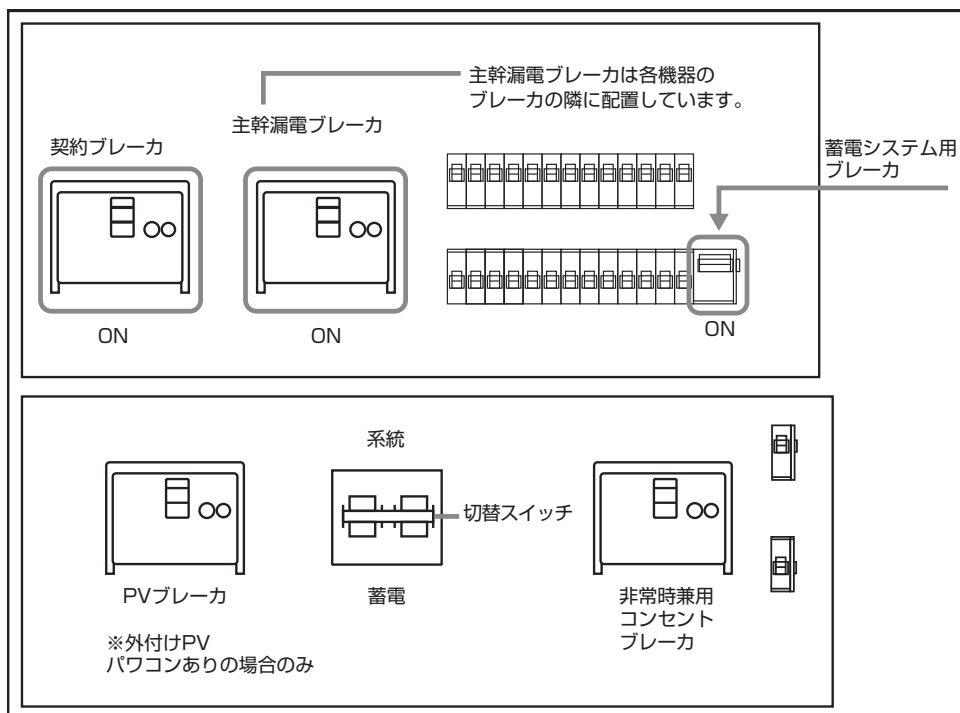
4 「はい」をタッチする



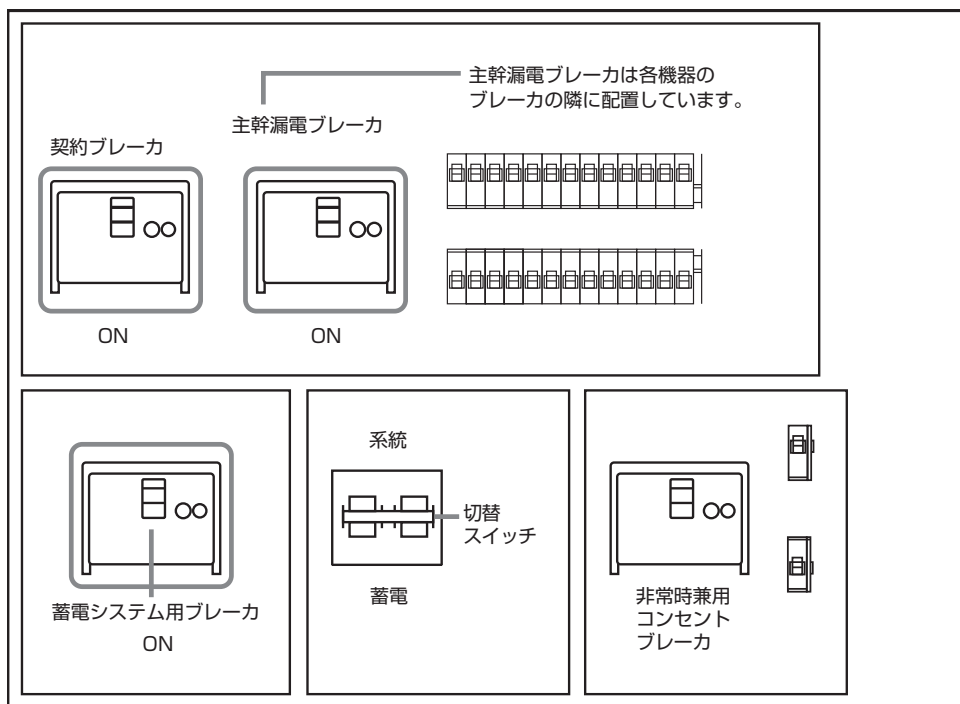
前の画面に戻り、非常時兼用コンセントに電気が供給されます。

各ブレーカを操作する場合（配置例）

分電盤、ブレーカ配置例 1



分電盤、ブレーカ配置例 2



メモ

非常時兼用コンセントに接続している家電製品含め家電製品に電気を供給したくない場合は、住宅用分電盤内の個々のブレーカを「OFF」に、「切替スイッチ」を「蓄電」側から「系統」側に切り替えてください。

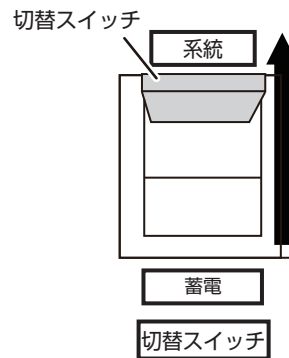
蓄電システムを停止させる場合

風水害により水没のおそれがある場合等、蓄電システムを停止させる場合は、下記手順に従って蓄電システムを停止させてください。

1 運転停止前確認

切替スイッチの切り替え時、非常時兼用コンセントに接続された家電品への給電が一瞬遮断されますので、家電製品の電源を「OFF」にしてから切り替えを行ってください。

2 切替スイッチを「系統」側にする



スイッチを上へ操作して、「系統」側に切り替えます。1回の切り替えでは「中立」となるため、必ず2回切り替えてください。

メモ

蓄電システムが停止すると、非常時兼用コンセントには給電されません。必ず「系統」側に切り替えを行ってください。

3 家アイコンをタッチする



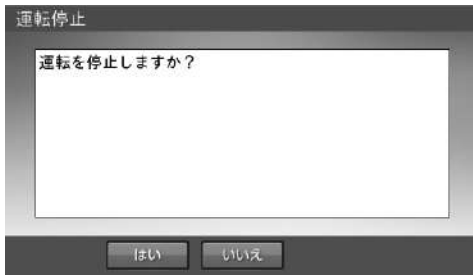
「各種設定 / グラフ」画面に切り替ります。

4 「運転停止」をタッチする



運転を停止します。

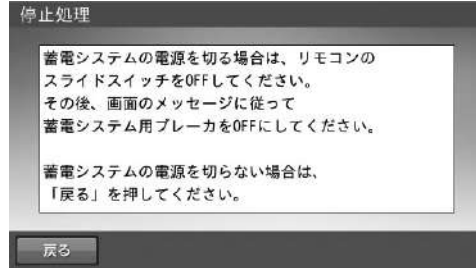
5 運転停止を確認した後「はい」をタッチする



メモ

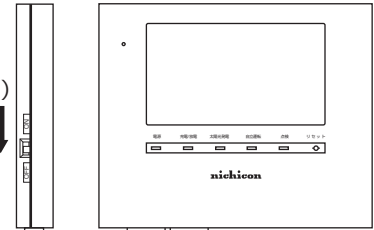
「いいえ」にタッチすると、前の画面に戻ります。

6 室内リモコンを OFF にする



電源スイッチ
(スライドスイッチ)

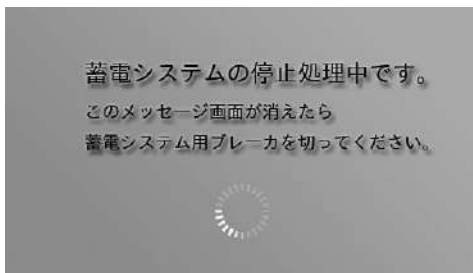
OFF ↓



メモ

蓄電システムを停止しない場合は、「戻る」にタッチしてください。「各種設定/グラフ」画面に戻ります。「運転開始」にタッチして、必ず運転状態にしてください。

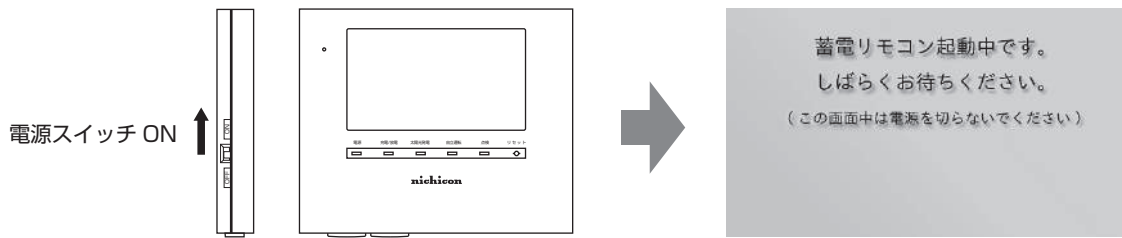
7 蓄電システム用ブレーカを OFF にする



「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にしてください。「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、57 ページを参照してください。

蓄電システムを起動させる場合

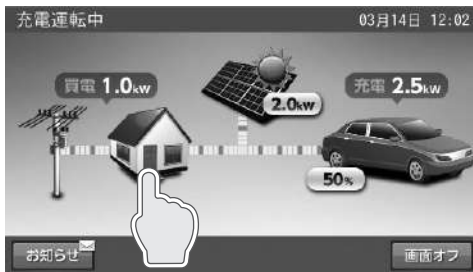
1 蓄電システム用ブレーカ・室内リモコンを ON にする



「蓄電システム用ブレーカ」を「ON」にしてください。
「蓄電システム用ブレーカ」の位置は57 ページを参照してください。

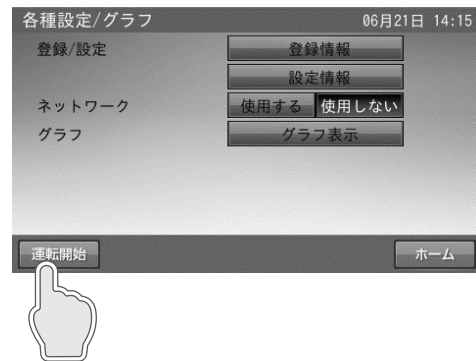
上記の画面表示中は、室内リモコンの電源を「OFF」にしないでください。

2 家アイコンをタッチする

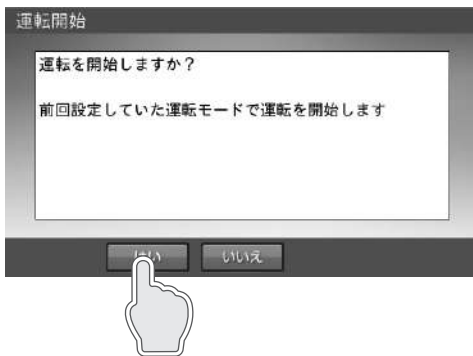


「各種設定 / グラフ」画面に切り替えます。

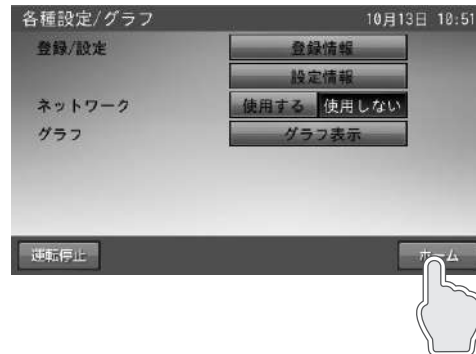
3 「運転開始」をタッチする



4 運転開始を確定した後「はい」をタッチする



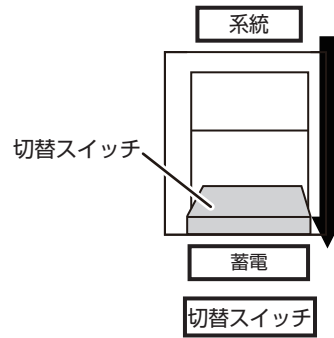
5 「ホーム」をタッチする



6 切替スイッチ操作前確認

切替スイッチの切り替え時、非常時兼用コンセントに接続された家電製品への給電が一瞬遮断されますので、家電製品の電源を「OFF」にしてから切り替えを行ってください。

7 切替スイッチを「蓄電」側にする



スイッチを下に操作して、「蓄電」側に切り替えます。1回の切り替えでは「中立」となるため、必ず2回切り替えてください。

メモ

切替スイッチが「システム」側のままの場合、停電時に非常時兼用コンセントが使いません。必ず「蓄電」側に切り替えを行ってください。

風水害または地震などがおきたとき

- 風水害の水没のおそれがあるときは、あらかじめ蓄電システムの運転を停止（58 ページ）させて、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしてください。
- 水没した場合は、蓄電システムを停止させた状態で、販売会社までご連絡ください。
- 地震により点検コードを発報している等の異常が発生した場合は、販売会社までご連絡ください。

メモ

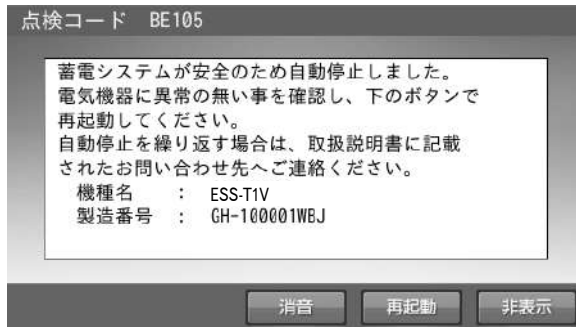
蓄電システム用ブレーカ「OFF」にした場合は、必ず切替スイッチを「システム」側にしてください。

点検コード (BExxx、BFxxx) が表示されたとき

点検コード「BExxx」、「BFxxx」は蓄電システムが何らかの原因で一時的に停止、または停止中をお知らせする点検コードです。上記「BExxx」、「BFxxx」の点検コードが表示されたときは、下表に従って処置してください。お買い上げの販売会社にご連絡いただく際は、画面に表示される機種名、製造番号、点検コードを合わせてご連絡ください。

「BExxx」の場合、コネクタロックは解除されるため、「再起動」ボタンで復帰させたときは、コネクタロックを再度行ってください。

例：点検コードの画面



- [再起動] をタッチすると、蓄電システムを再起動します。
- [非表示] をタッチすると、30 秒間点検コードを非表示にします。
- [消音] をタッチすると、ブザー音が止まります。

メモ

点検コードが出た状態で放置しないでください。
過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。

点検コードの内容と処置

点検コード	処置
充放電時刻重複 充放電時刻が重複または開始時刻と終了時刻が重複しているため、設定できません。	時間帯の重複がないように再設定してください。
点検コード BExxx 蓄電システムが安全のため、自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、再起動にタッチして蓄電システムを再起動してください。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
点検コード BE203 非常時兼用出力電力オーバー 非常時兼用コンセント / スイッチの接続機器が規定電力を超えたため、給電を停止しました。 接続機器を減らした後、再起動にタッチして蓄電システムを再起動してください。	掃除機、電子レンジ、ドライヤー、ヒーターなど、消費電力の大きい機器のご使用はお控えください。
点検コード BFxxx 蓄電システムが自動停止しました。 安全確認後、自動的に復帰します。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
点検コード BF517 日時設定をお願いします 停電のため、日時の設定がクリアされました。	メッセージに従い、日時設定を行ってください。
点検コード BF550 蓄電システムが自動停止しました。 安全確認後、自動的に復帰します。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

下記点検コードは、車両からの停止指示または車両の状態が充放電できる状態ではない場合に表示します。

下記点検コードを発報した場合は、処置に従ってください。

点検コード	処置
<p>BE787 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。</p> <p>放電時、放電未対応車両を接続</p>	<p>放電未対応の車両は放電できません。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで、復帰しますが、放電させないようにしてください。</p>
<p>BE788 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。</p> <p>車両シフトレバー位置がパーキングでない</p>	<p>シフトレバーをパーキングにしてください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで復帰します。</p>
<p>BE789 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。</p> <p>電池不適合車両接続</p>	<p>接続未対応の車両を接続しないでください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで、復帰しますが、接続しないようにしてください。</p>
<p>BE794 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。</p> <p>系統連系放電不可車両接続</p>	<p>接続未対応の車両を接続しないでください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで、復帰しますが、接続しないようにしてください。</p>
<p>BF796 蓄電システムが自動停止しました。安全確認後、自動的に復帰します。 自動停止を繰り返す場合は取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。</p> <p>車両側で異常検出（本製品の異常ではありません。）</p>	<p>自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。</p>
<p>BE796 蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンで再起動してください。</p> <p>BF796 を短時間中に複数回繰り返し替えると、発報します。</p>	<p>自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。</p>
<p>BC797 蓄電システムの確認が必要です。 繰り返しメッセージが出る場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。</p>	<p>車両によっては、充放電電力の低い状態が続く等、V2H スタンドに停止指示を送ります。 車両や機器の故障ではありませんが、自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。</p>

2 蓄電池ユニット・V2H 連携システムをご利用の場合

もしもの安心、いつもの節電

本製品は、住宅の屋根などに設置した太陽光パネルと蓄電池、そして V2H スタンドと車両を併用して、暮らしに必要な電気を供給する「トライブリッド蓄電システム[®]」です。

トライブリッド蓄電システム[®]

太陽光発電、蓄電池、車両の 3 つの電源を利用するシステムの総称で、ニチコンの登録商標です。

本書は、V2H スタンドの内容を記述します。

必ず別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

本書で用いる用語は下記のとおりです。

車両	：電気自動車やプラグインハイブリッド自動車など、駆動用に蓄電池を備えた自動車
V2H システム	：車両の大容量蓄電池から電力を取りだし、分電盤を通じて家庭の電力として使用できる仕組み
外付け太陽光発電	：トライブリッド蓄電システムのパワーコンディショナに直接接続していない太陽光発電
太陽光発電	：トライブリッド蓄電システムと外付け太陽光発電を合わせた、住宅に設置された太陽光発電
系統	：電力会社から購入する商用電力
充電	：太陽光発電の電力または系統から蓄電池および車両に電力を蓄えること
放電	：蓄電池または車両に蓄えている電力を本システムに接続している家庭内負荷へ供給すること
給電	：太陽光発電の電力、蓄電池または車両に蓄えられた電力を本システムから供給すること

メモ

外付け太陽光発電は、トライブリッド蓄電システムとは別の太陽光パワーコンディショナが必要です。

多彩な太陽光発電と連携。蓄電池と太陽光と V2H システムのパワーコンディショナを一体化

パワーコンディショナは太陽光発電だけでなく、蓄電池、車両との接続を可能にするトライブリッド機能を有しており、幅広いメーカーの太陽光パネルを直接接続することができます。

太陽光発電電力、蓄電池、車両をすべて直流で結ぶことで効率の良い電力利用ができます。

また、太陽光発電パネルで発電した直流電力を直接蓄電池ユニットおよび車両の充電に利用することができるため、効率のよい電力利用が可能です。また、余剰分が発生した場合は、交流変換し、電力会社に売電することもできる蓄電システムです。

※ ESS-T2 シリーズは、太陽光発電は別となるため、直流電力で車両と結ばれることはありません。ただし、交流に変換後、本システムに取り込み、車両へ充電することは可能です。

昼間、太陽光発電電力を夜間、車両に簡単移動する「エレムーブ[™]」！

昼間、車両が本システムに接続していない場合は、太陽光発電の余剰電力を一旦、蓄電池に充電して（グリーンモード）、夜間、接続した車両に簡単に電力移動（エレムーブ）することができます。

メモ

- 太陽光の発電電力およびご家庭の消費電力によっては、蓄電池や車両への充電電力が確保できない場合があります。
- エレムーブ動作中は、本システムから家庭内への給電が一切できませんので、電力料金時間帯などに注意してお使いください。

もしもの停電時も「安心」！

本システムは非常時に備えて電力をバックアップします。

突然の停電でも、非常時兼用コンセントに接続している家電製品は、そのままご利用いただけます。

メモ

- 停電時には、電力供給が一瞬途切れます。非常時兼用コンセントに接続している家電製品の仕様によっては電源が切れますので、そのときは電源を入れ直してください。
- 生命に関わる機器やデスクトップパソコン等電源が切れると困る機器は、非常時兼用コンセントに接続しないでください。

- 昼間の晴天時は、太陽光発電と蓄電池を併用して電力供給します。^{*1}

- 雨や曇りの日、夜間の停電でも電力を蓄えていた蓄電池から電力を供給します。

- 車両を V2H スタンドに接続することで、車両から電力供給を行うことができます。^{*1}

- AC100V で、消費電力 2500W を目安に家電製品をご使用できます。

（定格出力：蓄電池のみのとき：最大 2.0 kW、3 kW 以上太陽光発電しているとき^{*2}：最大 3.0 kW）

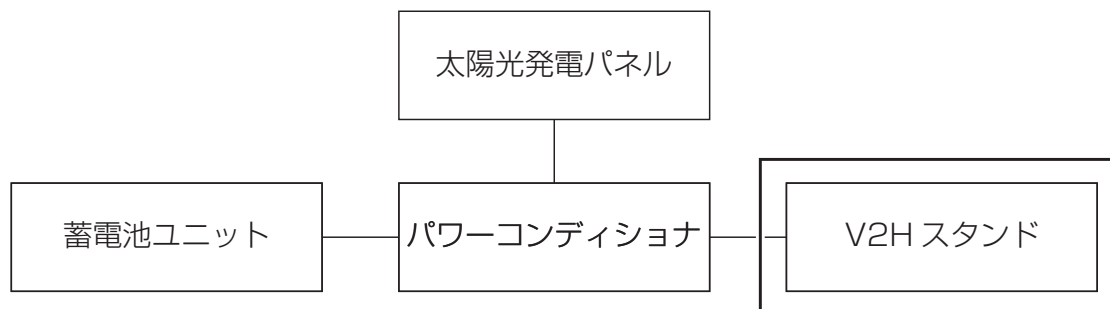
※ 1：V2H スタンドを接続していない場合は、車両からの電力供給はできません。（74 ページ）

※ 2：ESS-T1 系の場合

次ページへ続く

いつもの生活では「節約」！

昼間の太陽光発電電力を夜間に活用することで、エネルギーの自給自足に貢献します。
 割安な深夜電力時間帯に充電、昼間の電力使用量ピーク時間帯に放電すれば、電気料金の節約になります。
 日常のご使用には、ご家庭の環境やお好みに合わせた運転モードを選ぶことができます。



※ V2H スタンド以外の項目は、パワーコンディショナ同梱のパワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書を参照してください。

本書の範囲

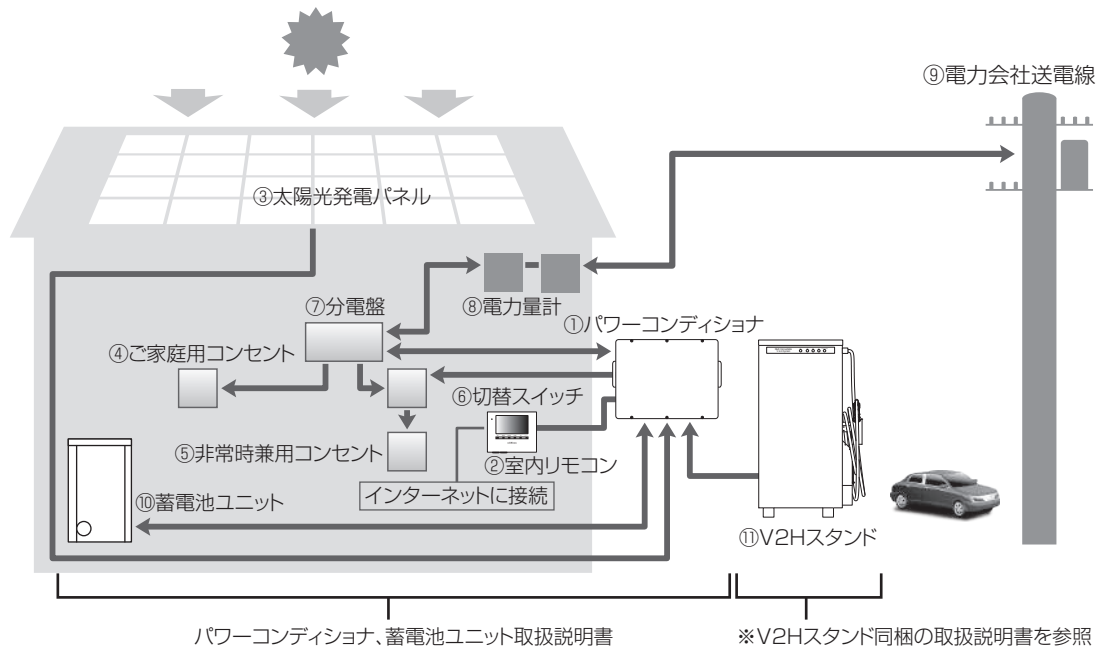
■ 安心の 10 年保証

V2H スタンドは、10 年間の保証付きで、万が一のときも安心してご利用いただけます。
 詳しくは保証書をご確認ください

📝 メモ

- 室内リモコンは 5 年保証となります。
- パワーコンディショナは 15 年、蓄電池ユニットは 10 年保証となります。

構成例 (ESS-T1 系)



1. パワーコンディショナ

太陽光パネルの直接接続を可能にする太陽光発電用パワーコンディショナ、蓄電池ユニット用パワーコンディショナ機能を内蔵しています。最大3系統の太陽光発電回路を直接接続できます。

太陽光発電または系統の電力を車両に充電することができます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります。(売電)

2. 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

3. 太陽光発電パネル

パワーコンディショナに直接接続し、太陽光を受けて発電します。

4. ご家庭用コンセント

一般負荷用の電源コンセントです。通常時は本システムから電気を給電することができます。

5. 非常時兼用コンセント

停電時、本システムから電気を給電することができます。通常時も利用可能です。

6. 切替スイッチ

非常時兼用コンセントへの電力供給元を、本システムと系統とで切り替えるスイッチです。

7. 分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、分岐ブレーカおよび本蓄電システム用ブレーカを内蔵しています。

8. 電力量計

買電用と売電用の2種類があり、電力会社から購入した電力(買電)と、電力会社に売る余剰電力(売電)を計量します。

9. 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入(買電)し、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります(売電)。

10. 蓄電池ユニット

リチウムイオン蓄電池とそれを監視コントロールするバッテリーマネジメントシステムで構成されています。パワーコンディショナを介して電力を蓄える、または蓄えた電力を放電します。

11. V2Hスタンド

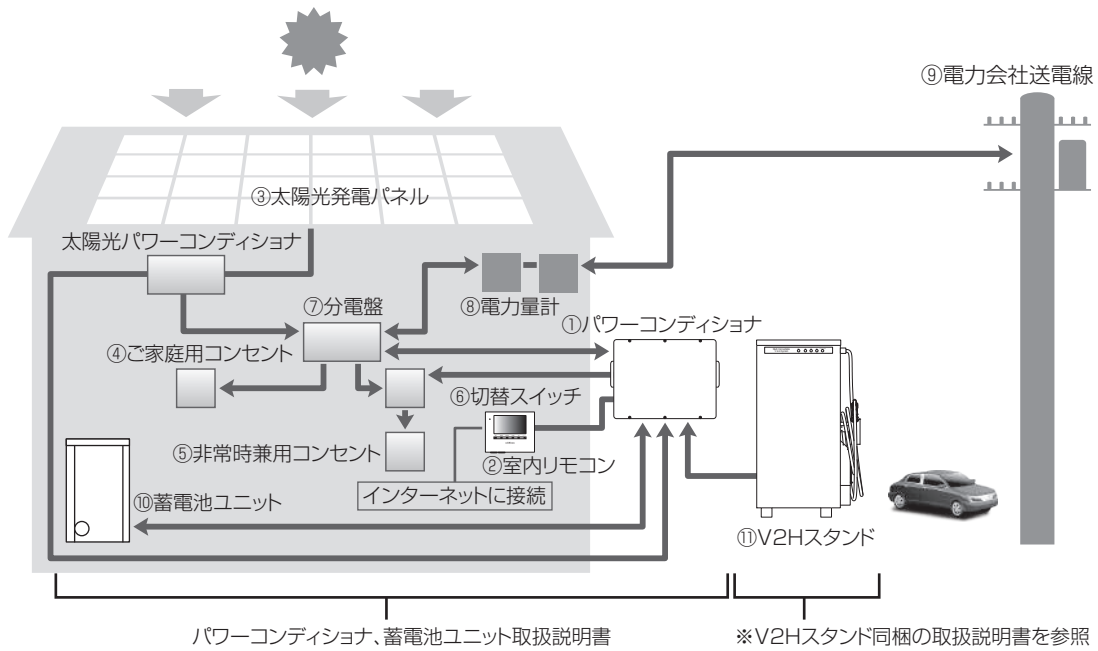
パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

※充電：太陽光発電の電力または系統から蓄電池に電力を蓄えること。

※放電：蓄電池に蓄えている電力を供給すること。

※給電：太陽光発電の電力、蓄電池に蓄えられた電力をご家庭に供給すること。

構成例 (ESS-T2 系)



1. パワーコンディショナ

本システムとは別の太陽光パワーコンディショナを接続することができます。

太陽光発電または系統の電力を蓄電池ユニット、車両に充電することができます。必要に応じて蓄えた電力を放電します。

2. 室内リモコン

表示画面を備えた操作パネルです。充電・放電状態の表示や各運転モードの設定が行えます。

3. 太陽光発電パネル

太陽光パワーコンディショナに直接接続し、太陽光を受けて発電します。

4. ご家庭用コンセント

一般負荷用の電源コンセントです。通常時は本システムから電気を給電することができます。

5. 非常時兼用コンセント

停電時、本システムから電気を給電することができます。通常時も利用可能です。

6. 切替スイッチ

非常時兼用コンセントへの電力供給元を、本システムと系統とで切り替えるスイッチです。

7. 分電盤

契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、分岐ブレーカおよび本蓄電システム用ブレーカを内蔵しています。

8. 電力量計

買電用と売電用の2種類があり、電力会社から購入した電力（買電）と、電力会社に売る余剰電力（売電）を計量します。

9. 電力会社送電線

不足電力を電力会社から購入（買電）し、太陽光発電による余剰電力を電力会社へ送ります（売電）。

10. 蓄電池ユニット

リチウムイオン蓄電池とそれを監視コントロールするバッテリーマネジメントシステムで構成されています。パワーコンディショナを介して電力を蓄える、または蓄えた電力を放電します。

11. V2H スタンド

パワーコンディショナを介して、車両への充電、車両からの放電を行うための接続機器です。

※充電：太陽光発電の電力または系統から蓄電池に電力を蓄えること。

※放電：蓄電池に蓄えている電力を供給すること。

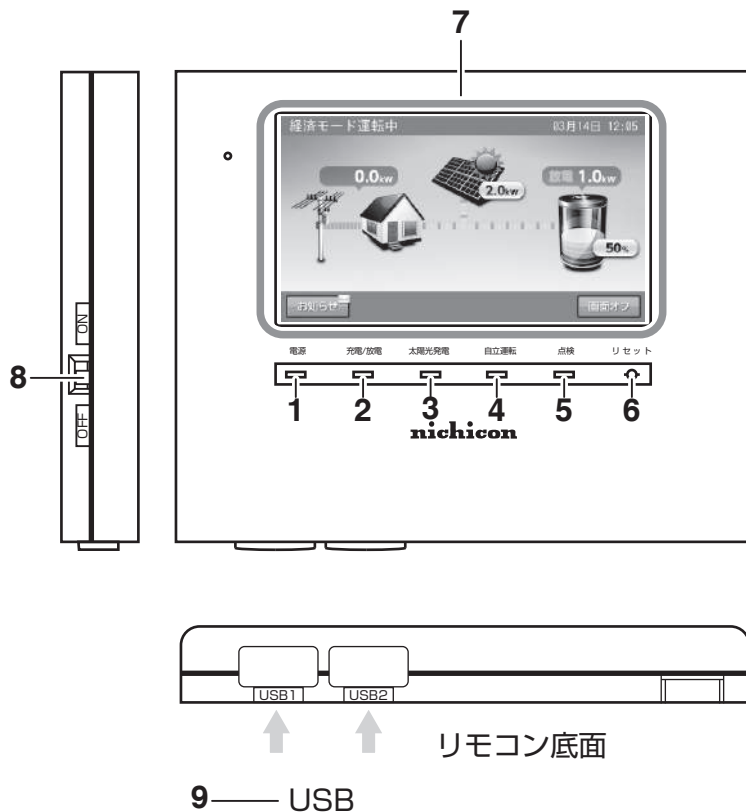
※給電：太陽光発電の電力、蓄電池に蓄えられた電力をご家庭に供給すること。

室内リモコン各部の名称とはたらき

室内リモコンのホーム画面について

本製品は、室内リモコンの画面にタッチしてさまざまな操作を行います。

※型番や外付け太陽光パワーコンディショナの接続状況により、画面構成が異なります。



1. **電源ランプ**
室内リモコン ON 時に点灯します。
2. **充電 / 放電ランプ**
運転状態を表示します。
緑：充電 / 放電
消灯：待機 / 停止
※蓄電池ユニットがなく、太陽光パネルしか接続していないときは、常に消灯します。
3. **太陽光発電ランプ**
太陽光発電中に点灯します。
4. **自立運転ランプ**
自立運転中に点灯します。
5. **点検ランプ**
点検コード発生中に点滅します。
6. **リセットボタン**
室内リモコンのマイコンをリセットします。
7. **画面**
表示画面を兼ねたタッチパネルです。
充電・放電状態の表示や各運転モードを設定します。
8. **電源スイッチ**
室内リモコンの電源を ON/OFF します。
9. **USB**
通常使いません。
無線 LAN 利用時には、無線 LAN 子機を接続します。

メモ

- 点検ランプが点滅しているときは、室内リモコンの画面に点検コードが表示されます。「点検コードが表示されたとき」に従って処置してください。
- 蓄電システム運転中に、電源スイッチを「OFF」にしないでください。蓄電システムを停止したいときは、「蓄電システムを停止させる場合」の操作を行ってください。

MEMO

室内リモコンの表示について

運転モード

「経済モード運転中」など、現在動作している運転モードを表示します。
蓄電池ユニットとV2Hスタンドを併設しているときは、V2Hスタンドの動作モードは表示しません。V2Hスタンド動作中は、「待機」と表示します。

系統状態

買電、売電の状態を表示します。

売買電力※3

売買電力を表示します。
※ 100 W未満のときは、0.0 kWと表示します。

電柱アイコン

系統（電力会社）を意味します。

家アイコン

ご家庭内を意味します。
タッチすると、各種設定/グラフに関する設定画面が開きます。



お知らせボタン

タッチすると、お知らせリストが表示されます。



☐ 表示あり
未読のお知らせリストがあります。



☐ 表示なし
未読のお知らせリストはありません。

経済モード運転中

売電 2.0kW

5.0kW

待機 0.0kW

80%

お知らせ

蓄電池充放電電力※3

蓄電池の充放電時の電力を表示します。
※ 100 W未満のときは、0.0 kWと表示します。

蓄電池状態

放電：100 Wより大きい電力を蓄電池から放電している場合
充電：100 Wより大きい電力を蓄電池に充電している場合
待機：充放電していない、または充放電電力が100 W未満のとき
表示なし：停止中



太陽光パネルアイコン

タッチすると、太陽光に関する設定画面が表示されます。

太陽アイコン

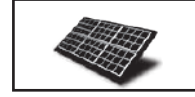
太陽表示あり

内部の太陽光発電または外付け太陽光発電電力が100 W程度より大きいときに表示します。



太陽表示なし

内部の太陽光発電または外付け太陽光発電電力が小さい、および発電していないときは表示しません。



発電電力※3

内部の太陽光発電電力を表示します。

合算時は、内部の太陽光発電電力と外付け太陽光発電電力を合計して表示します。



車両状態

放電：100 Wより大きい電力を車両から放電している場合

充電：100 Wより大きい電力を車両に充電している場合

待機：充放電をしていない、または充放電電力が100 W未満のとき

表示なし：停止中

車両充放電電力※3

車両の充放電時の電力を表示します。

車両アイコン

コネクタロック状態

車両がカラー表示

タッチすると、V2Hスタンドに関する設定画面が表示されます。



コネクタ非ロック状態

車両がグレーアウト表示

タッチすると、V2Hスタンドに関するコネクタロック画面が表示されます。



車両蓄電池残量

車載蓄電池の残量を表示します。

※車両の値とずれることがあります。異常ではありません。

目安としてご利用ください。

※車両蓄電池残量は、0%表示できない車両があります。

※コネクタ非ロック状態のときは、表示しません。

蓄電池残量単位【%】

電池の残量を表示します。

度使い切った電池がしばらくすると使えることがあるように、蓄電池特性によりしばらくすると表示が変わることがあります。目安としてご利用ください。

蓄電池アイコン

電時：緑、充電時：橙

機中および停止中、または充放電電力が100 Wより低いときは、直前の色を表示します。タッチすると蓄電池に関する設定画面が表示されます。

画面オフボタン

タッチすると、画面がオフします。

画面オフ時は、液晶画面のどこかを

タッチすると、画面表示が戻ります。



電圧上昇抑制アイコン

環境起因により電力会社の電圧が上昇し、抑制が働いています。売電量が減ることがあります。



リモートアイコン

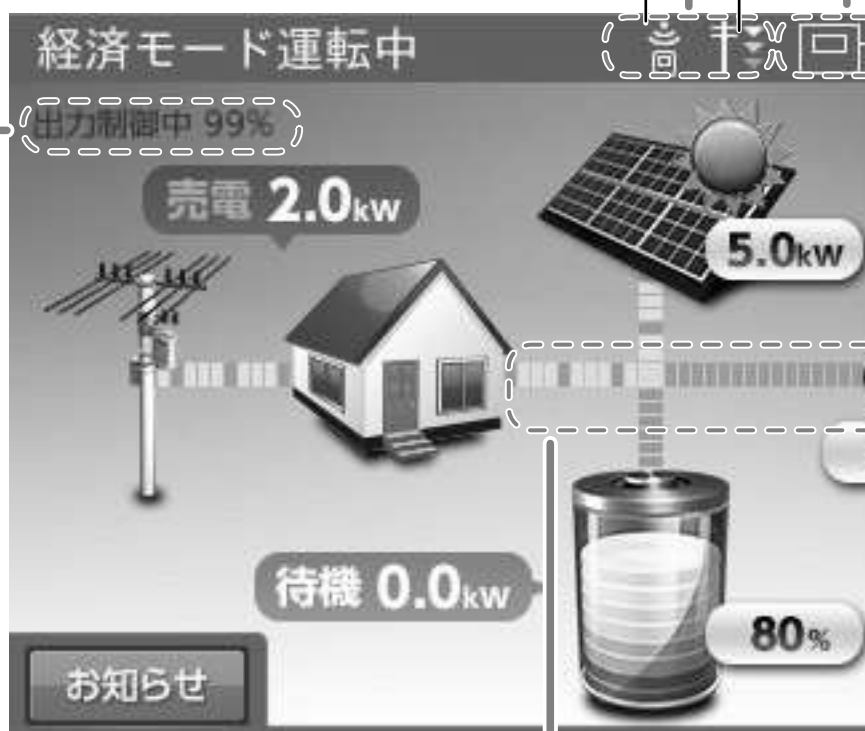
ECHONET Lite※1通信中です。



非表示：ECHONET Lite※1通信状態ではありません。

出力制御表示

遠隔出力制御ルールに基づいて、電力会社による太陽光出力コントロール中です。売電量が減ることがあります。



電力の流れ

各機器間の電力の流れのイメージを破線で表示します。

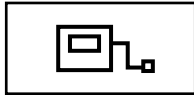
- ・破線非表示：100 W未満
- ・動きの遅い破線：100 W以上
- ・動きの速い破線：1 kW以上

※ 電力が小さい（100 W未満）ときでも、センサーの誤差などにより電力の流れが表示されることがあります。

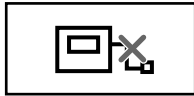
※1：「ECHONET Lite」「エコネットライト」は、エコネットコンソーシアムの登録商標です。

アンテナアイコン

室内リモコンと宅内ネットワークとの接続状況を示します。



有線LAN使用時に、ルーターと正常に接続している場合の表示です。
※ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。



有線LAN使用時に、ルーターと接続していない場合の表示です。



無線LAN使用時に、ルーターと正常に接続している場合の表示です。
※ルーターと接続していても、インターネットと接続しているとは限りません。
※ルーターとの電波強度は、4段階で表示します。



無線LAN使用時に、ルーターと接続していない場合の表示です。

非表示：ネットワーク設定が[使用しない]のときは表示しません。



現在日時

室内リモコンに設定している現在日時を表示します。

※ネットワーク接続していないときは、
ご利用中に少しずつずれが発生しますので、
定期的に時刻を設定してください。

車両との接続方法

車両との接続は、車両が停止した状態で行います。

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）にします。

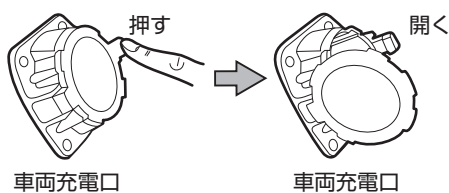
メモ

- POWER OFF の名称は、車種により異なる場合があります。車両の取扱説明書を確認してください。
- 車両の取扱説明書を確認してから、下記操作を行ってください。

コネクタロック / 解除は V2H スタンド正面の操作ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合

1 車両を準備する



車両充電口

車両充電口

車両のシフトをパーキング（P 位置）にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから 充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する



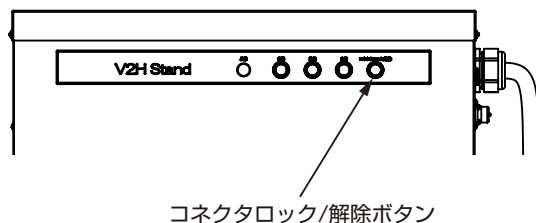
車両充電口

充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

メモ

充放電コネクタ接続中は、車両を移動しないでください。
車両の充電口や充放電コネクタが破損する可能性があります。

4 充放電コネクタをロックする



V2H スタンドの「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

メモ

- 充放電コネクタがロックされると、「コネクタロック / 解除」ボタンが黄色く点灯します。
- 車両の蓄電池容量が 10% を下回った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、運転モードを選択していない状態であっても、自動的に 12% 程度まで充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は待機状態となりますので、運転モード選択等の操作を行ってください。
12% になる前でも運転モードの選択は可能です。
- コネクタロックを行うタイミングによっては、コネクタロックを失敗する場合があります。その場合は、再度「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

室内リモコンで行う場合

1 充放電コネクタを車両に接続する

「V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合」（74 ページ）手順 1～3 を行ってください。

2 コネクタロックを確認する



「車両アイコン」がグレーであることを確認してください。

赤色：コネクタロック状態

グレー色：コネクタ非ロック状態

3 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

4 「コネクタロック」をタッチする



メモ

コネクタロックが完了している場合は、上図の画面ではなく「充電」や「放電」、その他アイコンがある画面を表示します。

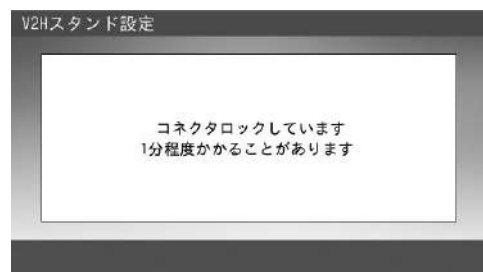
メモ

- 「いいえ」をタッチすると、前の画面に戻ります。
- 車両の蓄電池容量が 10% を下った状態でコネクタロックを行うと、車両の蓄電池保護のため、運転モードを選択していない状態であっても、自動的に 12% 程度まで充電を行います。12% 程度まで充電を行った後は待機状態となりますので、運転モード選択等の操作を行ってください。12%になる前でも運転モードの選択は可能です。

5 「はい」をタッチする

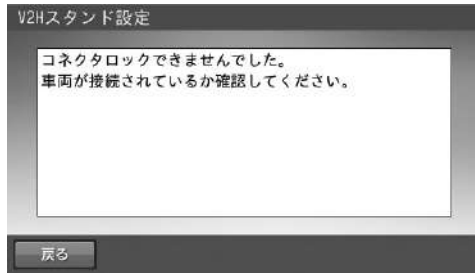


コネクタロックを行います。



コネクタロックに失敗した場合

下図の画面を表示します。

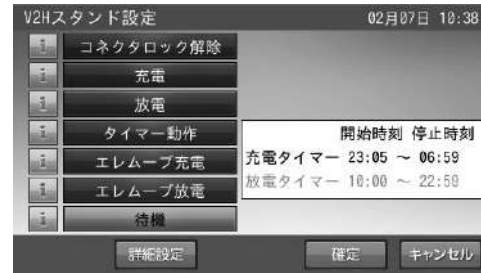


メモ

- 「戻る」をタッチすると、「V2Hスタンド設定」画面に戻ります。
- 充放電コネクタが車両に正しく接続していない場合があります。
- コネクタロックを行うタイミングによっては、コネクタロックを失敗する場合があります。その場合は、再度「コネクタロック」をタッチしてください。

コネクタロックに成功した場合

下図の画面を表示します。



メモ

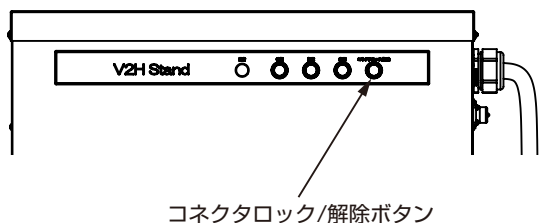
- V2H スタンドを操作できるようになります。
- 「キャンセル」をタッチすると、ホーム画面に戻ります。

車両との切断方法

コネクタロック / 解除は V2H スタンド正面の操作ボタンまたは室内リモコンで行うことが可能です。

V2H スタンドの正面操作ボタンで行う場合

1 充放電コネクタのロックを解除する



V2H スタンドの「コネクタロック / 解除」ボタンを押します。

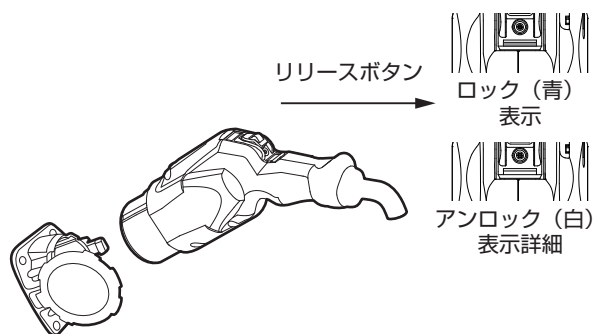
充放電コネクタのロックが解除されると、「コネクタロック / 解除」ボタンが消灯します。

同時に「待機」ボタンも消灯します。

メモ

- 「コネクタロック / 解除」ボタンが黄色く点灯している場合のみ、ロックの解除が必要です。
- 充放電中であっても、「コネクタロック / 解除」ボタンを押すと充放電を停止してコネクタロックを解除します。

2 車両から充放電コネクタを取り外す



車両充電口

ロック / アンロック表示が青になっていないことを確認します。

充放電コネクタの「リリース」ボタンを押しながら、充放電コネクタを引き抜きます。

メモ

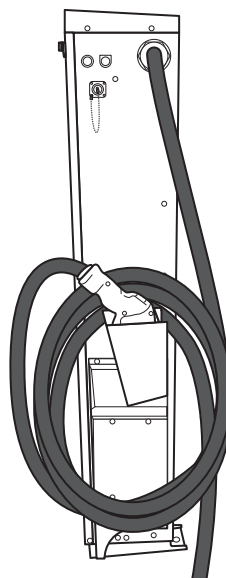
- 充電・放電中は充放電コネクタを外さないでください。
- 充放電コネクタを外す場合は、「充電」、「放電」ボタンが消灯していることを確認してから行ってください。

3 V2H スタンドに充放電コネクタを収納する



充放電コネクタのケーブルを右図のように巻き付け、充放電コネクタを V2H スタンドに戻します。

「充放電コネクタ収納方法 (推奨)」(9 ページ) を参照してください。



室内リモコンで行う場合

1 「車両アイコン」をタッチする

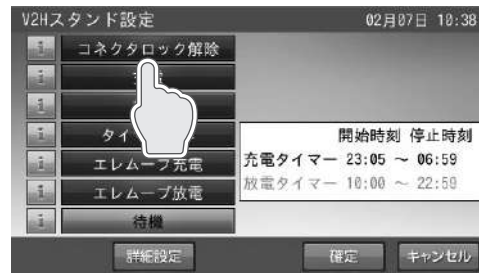


「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

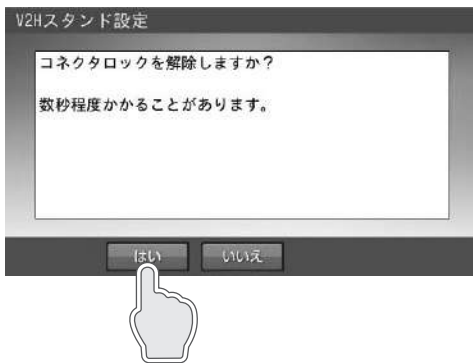
メモ

V2H スタンドでコネクタロック解除を行う場合は、本操作は不要です。

2 「コネクタロック解除」をタッチする



3 「はい」をタッチする



ホーム画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、コネクタロックを解除せず前の画面に戻ります。
- ホーム画面上の「車両」アイコンがコネクタ非ロック状態のグレーになるまで、数秒程度かかる場合があります。

通常時の使い方

V2H スタンドの各運転モードについて（連系時）

重要

本製品に引き込める電力は、最大 6.9 kW です。非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が大きい場合、車両への充電電力が 2 kW 前後に制限される場合があります。

タイマー動作、エレムープをご利用の場合は、待機状態であっても、車両と V2H スタンド間の通信状態維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。車両の消費電力を抑えたい場合は、コネクタロックを解除する、または手動運転をご利用ください。

ただし、万が一蓄電池残量がないときに停電が発生すると、蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」（101 ページ）、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）」（103 ページ）に従って、蓄電システムを起動してください。

メモ

コネクタロック解除状態では操作できません。

放電中の動作について

太陽光発電システムと異なり、電力会社との取り決めにより、送電線へ電力を逆流させないように放電中に微量電力を買電します。

メモ

ご家庭の使用電力が 100 W 未満のときおよびご家庭の使用電力と太陽光発電電力が均等になる場合は、室内リモコンの表示が放電と待機で繰り返し切り替わることがあります。

タイマー動作モード

設定した時間帯に車両からの放電および車両へ充電を行うモードです。

メモ

- タイマー動作中に V2H スタンドの手動モードを選択すると、タイマー動作はキャンセルされるため、再度タイマー動作させる必要があります。
- コネクタロックを解除すると、タイマー動作はキャンセルされます。再度タイマー動作を行う場合は、V2H スタンドと車両を接続して室内リモコンから設定してください。

重要

- タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも、車両と V2H スタンド間の通信維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。
- 充電完了後や放電停止後も上記消費電力により、徐々に車両の蓄電池残量が減ってしまいます。

タイマー充電

設定した時間帯に、太陽光発電電力および電力会社の電力を利用して、車両へ充電を行うモードです。

優先的に太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。太陽光発電電力が車両への充電電力を上回っている場合は、家庭内負荷へ電力を供給します。更に太陽光発電電力が車両への充電と家庭内負荷への給電との合計電力を上回った場合は、上回った電力を売電します。太陽光発電電力が車両への充電電力に対して不足している場合は、不足分を系統から補います。

メモ

- 蓄電池ユニットを設置している場合は、「充電時刻重複時優先設定」、「放電時刻重複時優先設定」に従って動作します。
- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が 1 kW を超える場合には、定格で充電できないことがあります。
- 車両ごとに定められた「充電上限値」があり、その値までの充電になります。車両ごとに定められた「充電上限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で充電できない場合があります。

タイマー放電

設定した時間帯に、車両から家庭内負荷へ放電を行うモードです。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きいときは放電は行いません。

メモ

- 蓄電池ユニットを設置している場合は、「充電時刻重複時優先設定」、「放電時刻重複時優先設定」に従って動作します。
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で放電できない場合があります。
- 設定に関わらず、車両の蓄電池残量が 10% に達すると、自動的に車両との通信を遮断し、車両側の消費電力を抑制します。

重要

放電を停止する車両の蓄電池残量について

車両は室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」

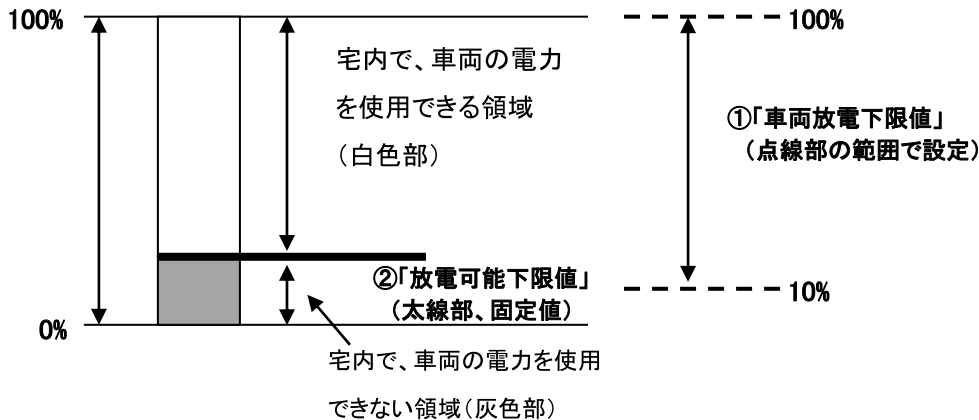
- 停電時または走行に備え残しておく車両の蓄電池容量
- お客様にて設定可能（10%～100%まで10%刻み）

②車両ごとに定められた「放電可能下限値」

- 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池容量
- 車両により定められており変更不可
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。

http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。



<例>

お客様が i-MiEV をお持ちのとき、室内リモコンで①の「車両放電下限値」を 10% に設定した場合でも、i-MiEV の②「放電可能下限値」30% に達すると放電を止めます。

太陽光発電の余剰電力で充電する場合

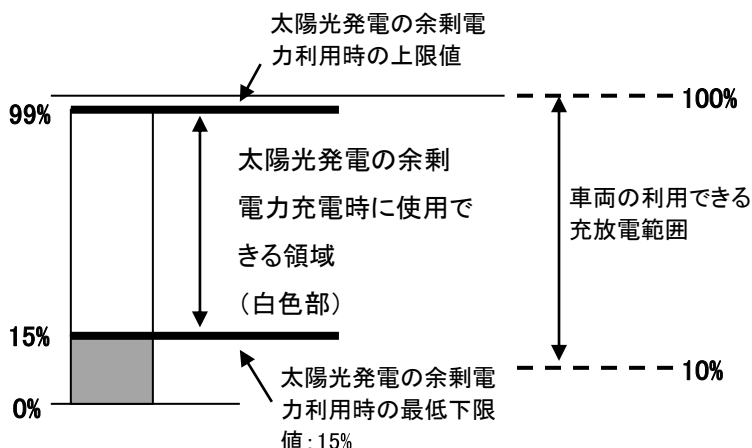
太陽光発電電力の余剰電力があれば車両へ充電し、不足すれば放電するように動作させるには下記の操作を行ってください。

- ①「V2H スタンド詳細設定」の「太陽光余剰電力充電」を「する」に設定します。(91 ページ)
- ②タイマー放電の放電時間帯（放電開始時刻、停止時刻）を太陽光が発電している時間帯に設定します。(89 ページ)
- ③「タイマー動作」ボタンをタッチします。

メモ

- 蓄電池ユニットを設置している場合は、「充電時刻重複時優先設定」、「放電時刻重複時優先設定」に従って動作します。
- 外付け太陽光発電の余剰電力を充電することはできません。(ESS-T1 系)
- 充電は車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電することが可能です。
- 放電は室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」近く、または 15% の 3 つの中で下限値のもっとも高い値まで放電します。

例：10%～100%の範囲で利用できる車両では、室内リモコンで車両放電下限値を 10% と設定した場合、15%～99%の範囲で動作します。



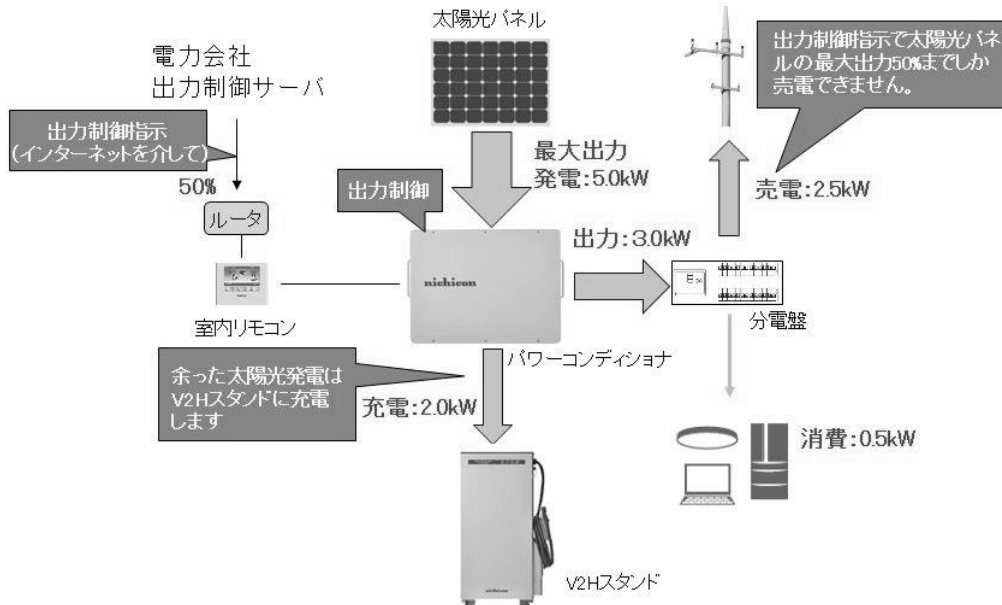
※「放電可能下限値」を下回った場合、車両によっては充電できないことがあります。その場合、「車両放電下限値」を「放電可能下限値」より上の値に設定してください

※太陽光発電の電圧上昇や遠隔出力抑制について (ESS-T1 系)

システムの様々な状況による電圧上昇抑制や電力会社による出力制御要請により、太陽光発電の余剰電力の一部を売電できない場合があります。

出力制御により売電できない発電電力は、タイマー動作で太陽光余剰電力充電「しない」の設定時に、放電時間内で車両が充電できる状態であれば自動的に売電できない余剰電力の充電を行います。その場合は、太陽光余剰電力充電「する」の設定のときと同様の動作となります。ただし、車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電したときは、車両との通信を遮断するため、出力抑制による余剰電力を充電することはできません。

例：電力会社からの出力制御指示が 50% の場合の電力の流れ



手動運転モード

重要

手動運転完了後は、車両との通信を遮断するため、蓄電池残量がない場合は、停電が発生しても自動的に停電動作を行うことができません。

充電

時間帯に関係なく、太陽光発電電力および電力会社の電力を利用して車両への充電を行うモードです。

優先的に太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。太陽光発電電力が車両への充電電力を上回っている場合は、家庭内負荷へ電力を供給します。更に太陽光発電電力が車両への充電と家庭内負荷への給電との合計電力を上回った場合は、上回った電力を売電します。太陽光発電電力が車両への充電電力に対して不足している場合は、不足分を系統から補います。車両が満充電になり次第、充電動作を終了します。動作終了後は「待機モード」と同じ状態となります。

メモ

- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が 1 kW を超えるときには、定格で充電できない場合があります。
- 車両ごとに定められた「充電上限値」があり、その値までの充電になります。車両ごとに定められた「充電上限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で充電できない場合があります。

重要

充電完了後は「待機モード」と同じ状態となり、万が一太陽光発電、蓄電池残量がないときに停電が発生すると蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(101 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(103 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。充電完了後も停電時に備えたい場合は、「タイマー動作」をご利用ください。

放電

時間帯に関係なく、車両から家庭内負荷へ放電を行うモードです。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きい場合は、放電は行いません。動作終了後は「待機モード」と同じ状態となります。

※室内リモコンで設定する「車両放電下限値」で放電を停止した場合は、待機状態となり車両との通信状態を維持します。

メモ

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。(92 ページ)
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。(92 ページ)
- 車両の種類または車両の蓄電池残量によっては、定格で放電できない場合があります。
- 設定に関わらず、車両の蓄電池残量が 10% に達すると、自動的に車両との通信を遮断し、車両側の消費電力を抑制します。

重要

放電終了後は「待機モード」と同じ状態となり、万が一蓄電池残量がないときに停電が発生すると、蓄電システムは停止します。「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(101 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 (例: トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(103 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

待機

時間帯に関係なく、車両の充放電を行わないモードです。

エレムーブモード

車両から蓄電池ユニットへ、蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

直接直流電力をシステム内で移動するため、交流に変換して行う場合より損失が少ないモードです。

エレムーブ運転が終了すると、エレムーブ運転直前の運転モードに戻ります。

※移動できる電力は最大 2 kW ですが、車両側の制御により 1.5 kW ~ 1.9 kW 程度になる場合があります。

※エレムーブ運転中は、家庭内へ一切電力供給できません。

メモ

- コネクタロック後、他のモードを選択せず「エレムーブ充電」または「エレムーブ放電」を選択した場合は、エレムーブ運転が終了すると、エレムーブモードを選択する前のタイマー動作に戻ります。なお、エレムーブモード選択前に手動モードを選択、またはモードを選択していない場合もタイマー動作で動作します。
- 太陽光が発電している場合は、太陽光の発電電力も移動に使われます。(ESS-T1 系の場合)
- エレムーブ動作中は、蓄電池ユニットのモード変更はできません。エレムーブ動作終了後、または V2H スタンドのモードを変更してから蓄電池ユニットのモードを変更してください。

エレムーブ充電

蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電するか、蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロになるまで、または非常時安心設定の値に達するまで電力を移動します。

メモ

屋間に蓄電池に蓄えた電力を「エレムーブ充電」を利用して車両に充電したい場合は、「タイマー動作」をタッチしてから「エレムーブ充電」をタッチする手順がおすすめです。「エレムーブ充電」を動作する前に「タイマー動作」を動作させることで、「エレムーブ充電」で車両が満充電にならない場合にも、引き続き「タイマー動作」にて、系統電力を利用して充電を行うことができます。

エレムーブ放電

車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

蓄電池ユニットの蓄電池が満充電になるか、室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」になるまで行います。

メモ

室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
例: 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」が 30%、車両ごとに定められた「放電可能下限値」が 40% の場合は、40% まで放電を行います。

V2H スタンドの手動操作方法

車両はパーキング状態で、メーターパネルが消えた状態（POWER OFF）にします。
手動運転モードの「充電」、「放電」、「待機」は、下記操作を行うことにより動作させることができます。

1 車両と接続する

「車両との接続方法」に従い、充放電コネクタを車両に接続します。

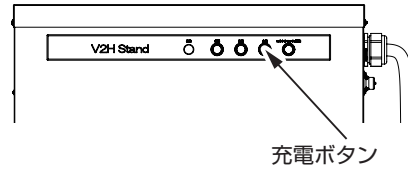
「コネクタロック/解除」ボタンが黄色く点灯していることを確認します。

メモ

コネクタロック状態でないと、以降の操作は行えません。

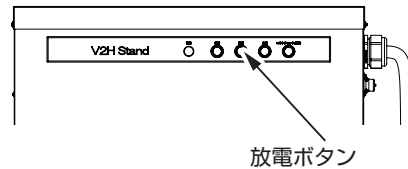
2 充電または放電を開始する

- 充電を行う場合



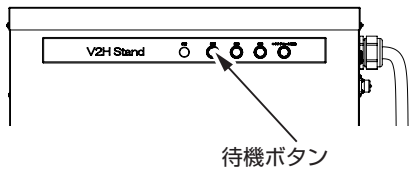
V2H スタンドの「充電」ボタンを押します。
「充電」ボタンが橙色に点灯し、充電を開始します。
同時に「待機」ボタンが消灯します。

- 放電を行う場合



V2H スタンドの「放電」ボタンを押します。
「放電」ボタンが青色に点灯し、放電を開始します。
同時に「待機」ボタンが消灯します。

3 充電または放電を止める

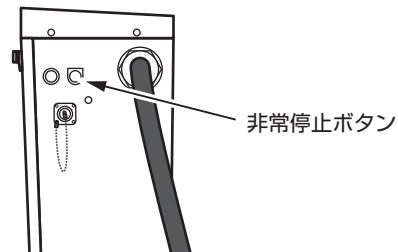


V2H スタンドの「待機」ボタンを押します。

橙色（充電時）、または青（放電時）に点灯していたボタンが消灯し、待機状態になります。待機ボタンは緑色点灯となります。

「コネクタロック/解除」ボタンを押すことでも同様に充放電を停止しますが、コネクタロックを解除するため、すべてのボタンが消灯します。

※非常時停止する場合



ボタンカバーを開けて「非常停止」ボタンを押してください。

非常停止を解除する場合は、「非常停止」ボタンを押す原因が解消したことを確認してから、再度「非常停止」ボタンを押してください。

V2H スタンドの運転モードを選ぶ

「車両アイコン」がカラーで表示されている場合のみ、車両充放電設定の内容を確認、変更できます。
V2H スタンドが接続されていないときは、この設定はできません（「車両アイコン」が表示されません）。
また、「車両アイコン」がグレーアウト表示になっている場合は、コネクタロックを行ってください。

重要

タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも車両と V2H スタンド間の通信維持のため、車両の蓄電池より電力を消費します。

- 下記モードを選択することができます。

	設定できるモード
手動運転モード	充電
	放電
	待機
タイマー動作モード	充電
	放電
エレムーブモード	エレムーブ充電
	エレムーブ放電

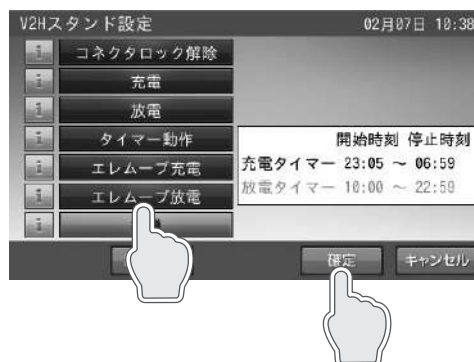
各運転モードの詳細は、79 ページを参照してください。

1 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

2 運転モードを選択する



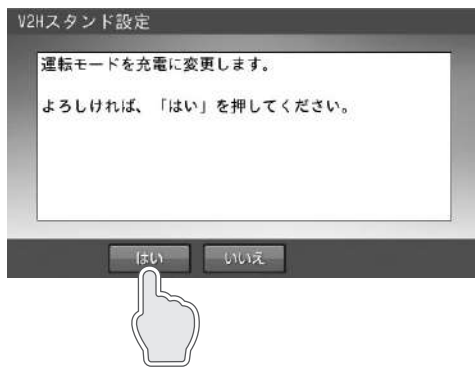
運転モード選択後、「確定」をタッチします。

メモ

- コネクタロックが解除状態の場合は、各運転モードのボタンは表示されません。
- 「タイマー動作」を選択した場合は、画面右の充放電タイマー開始時刻および停止時刻で動作します。
- 「充電タイマー」、「放電タイマー」の文字が黒字の場合はタイマー設定が有効です。グレーアウトの場合は無効状態です。
- 充電タイマー、放電タイマーの設定は 87、89 ページを参照してください。

3 設定を確定する

例：「充電」を選択した場合



「はい」をタッチすると、運転モードを開始してホーム画面に戻ります。

メモ

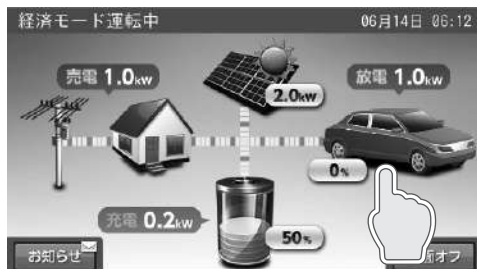
- 「いいえ」をタッチすると、「V2H スタンド設定」画面に戻ります。
- コネクタロックを解除するとV2Hスタンドの動作はすべてキャンセルされるため、コネクタロック時に再度モードの選択が必要となります。
- タイマー動作中に手動モードを選択すると、タイマー動作はキャンセルされます。タイマー動作させたい場合は、再度「タイマー動作」ボタンをタッチしてください。
- エレムープの操作は、毎回必要になります。動作終了後は、エレムープ操作前のモードに戻ります。
例：「タイマー動作」⇒「エレムープ充電」⇒「確定」の場合は、「エレムープ充電」終了後、「タイマー動作」に戻ります。
- エレムープ運転を止めたい場合は、エレムープ以外のモードを選択すると、選択したモードで動作します。

V2H スタンドの詳細設定について

タイマー動作の充放電時間帯などの設定を行います。

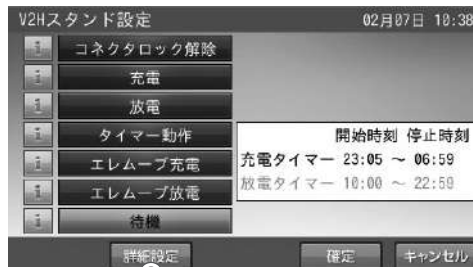
本設定は、コネクタロック解除状態でも設定できます。また、コネクタロックを解除しても、次回利用時に前回と同じ設定で問題なければ再度設定する必要はありません。

1 「車両アイコン」をタッチする



「V2H スタンド設定」画面に切り替えます。

2 「詳細設定」をタッチする



「V2H スタンド詳細設定」画面に切り替えます。

3 設定を変更する



変更したい項目をタッチします。

各項目については、以下のページを参照してください。

- 充電タイマー設定：87 ページ
- 放電タイマー設定：89 ページ
- 太陽光余剰電力充電：91 ページ
- V2H スタンド本体操作：91 ページ
- 車両放電下限値：92 ページ
- 非常時放電動作：93 ページ
- 非常時車両放電下限値：93 ページ
- 非常時放電優先設定：94 ページ
- 非常時充電優先設定：94 ページ



変更後、「確定」をタッチします。

「V2H スタンド設定」画面に戻ります。

メモ

変更した場合は、必ず「確定」をタッチしてください。各項目を選択しても、「確定」をタッチしないと設定した動作を行いません。

充電タイマー設定

タイマー動作モードの充電時間を設定できます。

タイマー設定時間外に万が一停電になった場合は、「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(101 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例:トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(103 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

また、充電タイマー動作時に蓄電池ユニットの放電時刻、充電時刻それぞれと重複した場合に、どちらを優先して動作させるか選択できます。

重要

●車両電池容量 10 kWh 以上の場合

車両の蓄電池保護のため、10 分間の停止時間が必要です。充電時間と放電時間の合計は 23 時間 50 分以内に設定してください。

●車両電池容量 10 kWh 未満の場合(例:トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

車両の蓄電池保護のため、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。

※車両電池容量 10 kWh 未満の車両が接続した後に、車両電池容量 10 kWh 以上の車両を接続する場合は、必ず充放電時間帯の設定を見直してください。充放電時間帯の設定は、自動では変更されません。

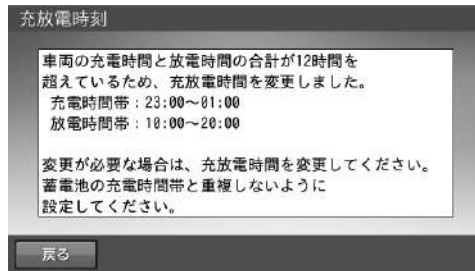
※手動運転モードおよび停電時利用の場合は、12 時間の制限はありません。

出荷時

- 充電開始時刻：23:00
- 充電時刻重複時優先設定：車両(蓄電池の充電時刻)
- 充電停止時刻：7:00
- 放電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の放電時刻)

※ 電池容量 10 kWh 未満の車両接続時(コネクタロック)時にタイマー充放電時間が 12 時間を超えていた場合は、充放電時刻は自動で変更されます。

- 充電開始時刻：23:00
- 充電時刻重複時優先設定：車両(蓄電池の充電時刻)
- 充電停止時刻：1:00
- 放電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の放電時刻)



1 「する」をタッチする

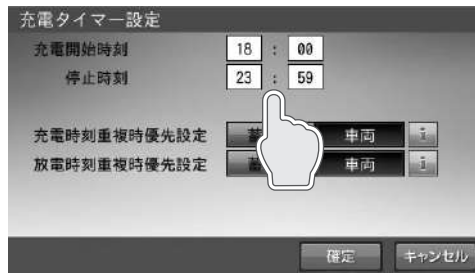


「充電タイマー設定」画面に切り替えます。

メモ

タイマー運転時に充電動作させたくない場合は、「しない」をタッチしてください。

2 充電開始時刻、停止時刻を変更する



開始時刻、停止時刻の時刻部分をタッチすると、「充電時刻」画面(下図)に切り替わります。



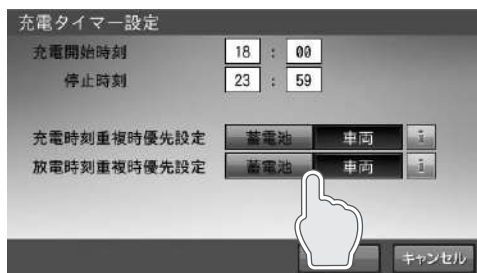
数字キーをタッチすると、新しい時刻が入力されます。← / →をタッチすると、カーソルが移動します。それぞれの時刻を設定後、「決定」をタッチします。

メモ

「キャンセル」をタッチすると、入力した値は反映せずに「充電タイマー設定」画面に戻ります。

次ページへ続く

3 充電時刻、放電時刻重複時優先設定を変更する



「充電時刻重複時優先設定」は、蓄電池ユニットの充電時間帯と車両への充電時間が重複した場合に、どちらを優先的に充電するかを設定できます。

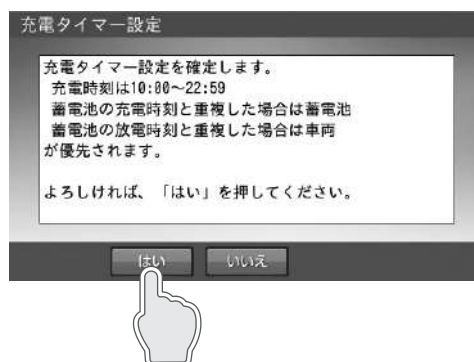
「放電時刻重複時優先設定」は、蓄電池ユニットの放電時間帯と車両からの放電時間が重複した場合に、どちらを優先的に放電するかを設定できます。

4 「確定」をタッチする



設定を変更します。

例



「はい」をタッチすると、「V2H スタンド詳細設定」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、「充電タイマー設定」画面に戻ります。
- 設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(86 ページ)

重要

充電時刻内に満充電にならない場合があります。

- 深夜電力時間が短い電力プランの利用 (例：スマートライフプラン※¹⁾)
- 車両の蓄電池残量が少ない状態からの充電開始
- 充電時刻内にご家庭の消費電力が大きい
- 充電時刻が適切に設定できない。(例：開始時刻が遅い、停止時刻が早い)

※ 1：東京電力エナジーパートナー株式会社 電力プラン

放電タイマー設定

タイマー動作モードの放電時間を設定できます。

タイマー設定時間外に万が一停電になった場合は、「停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法」(101 ページ)、「停電時に充放電コネクタを利用した起動方法(例:トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)」(103 ページ)に従って、蓄電システムを起動してください。

また、放電タイマー動作時と蓄電池ユニットの放電時刻、充電時刻それぞれと重複した場合に、どちらを優先して動作させるか選択できます。

重要

●車両電池容量 10 kWh 以上の場合

車両の蓄電池保護のため、10 分間の停止時間が必要です。充電時間と放電時間の合計は 23 時間 50 分以内に設定してください。

●車両電池容量 10 kWh 未満の場合(例:トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

車両の蓄電池保護のため、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。

※車両電池容量 10 kWh 未満の車両が接続した後に、車両電池容量 10 kWh 以上の車両を接続する場合は、必ず充放電時間帯の設定を見直してください。充放電時間帯の設定は、自動では変更されません。

※手動運転モードおよび停電時利用の場合は、12 時間の制限はありません。

出荷時

- 放電開始時刻：7:10
- 充電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の充電時刻)
- 放電停止時刻：22:59
- 放電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の放電時刻)

※ 電池容量 10 kWh 未満の車両接続時(コネクタロック)時にタイマー充放電時間が 12 時間を超えていた場合は、充放電時刻は自動で変更されます。

- 放電開始時刻：10:00
- 充電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の充電時刻)
- 放電停止時刻：20:00
- 放電時刻重複時優先設定：蓄電池(蓄電池の放電時刻)

1 「する」をタッチする

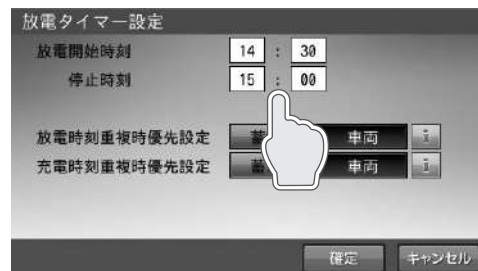
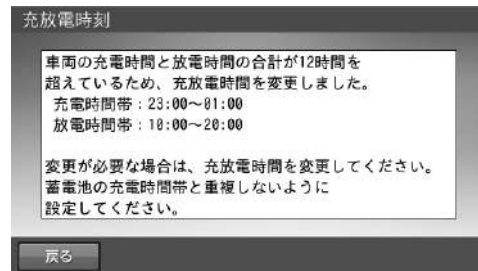


「放電タイマー設定」画面に切り替えます。

メモ

タイマー運転時に放電動作させたくない場合は、「しない」をタッチしてください。

2 放電開始時刻、停止時刻を変更する



開始時刻、停止時刻の時刻部分をタッチすると、「放電時刻」画面(下図)に切り替わります。



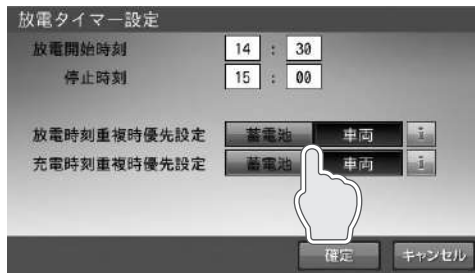
数字キーをタッチすると、新しい時刻が入力されます。← / → をタッチすると、カーソルが移動します。それぞれの時刻を設定後、「決定」をタッチします。

メモ

「キャンセル」をタッチすると、入力した値は反映せずに「放電タイマー設定」画面に戻ります。

次ページへ続く

3 放電時刻、放電時刻重複時優先設定を変更する



「放電時刻重複時優先設定」は、蓄電池ユニットの放電時間帯と車両からの放電時間が重複した場合に、どちらを優先的に放電するかを設定できます。

「充電時刻重複時優先設定」は、蓄電池ユニットの充電時間帯と車両への充電時間が重複した場合に、どちらを優先的に充電するかを設定できます。

4 「確定」をタッチする

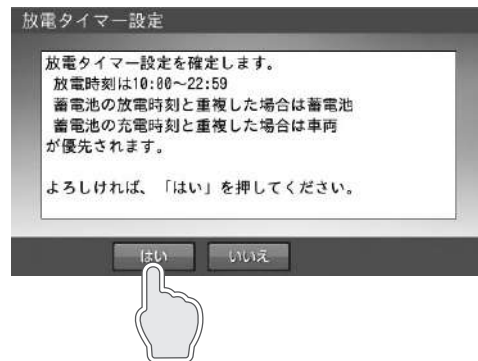


設定を確定します。

メモ

出荷時は、車両の走行用電力確保のため「蓄電池」としています。「車両」に変更した場合は、走行用電力を確保できない場合があるため、ご注意ください。

例



設定内容に問題なければ、「はい」をタッチすると、「V2H スタンド詳細設定」画面に戻ります。

メモ

- 「いいえ」をタッチすると、「放電タイマー設定」画面に戻ります。
- 設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(86 ページ)

以降の項目も、設定を変更した場合は、「V2H スタンド詳細設定」の2/2画面の「確定」をタッチしてください。(86 ページ)

太陽光余剰電力充電

太陽光発電電力の余剰電力で充電を行うための設定です。本設定を行うことで、タイマー動作の放電時間帯に太陽光の余剰電力を車両に充電します。

1 「する」をタッチする



タイマー動作中に太陽光の余剰電力を車両へ充電する場合は、「する」を選択します。

メモ

- 車両ごとに定められた「充電上限値」に達した場合は、太陽光の余剰電力があっても充電できません。
- 「しない」を選択すると、太陽光の余剰電力を車両へ充電することはありません。
- 外付け太陽光発電の余剰電力を充電することはできません。(ESS-T1系)
- 充電は、車両ごとに定められた「充電上限値」近くまで充電することが可能です。
- 放電は室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」近く、または15%の3つの下限値の中で最も高い値まで放電します。

重要

太陽光余剰電力充電を「する」に選択すると、蓄電池ユニットのモードが「グリーンモード」または「経済モード」に関わらず、車両への充電を優先します。

太陽光余剰電力の充電は車両に、放電は蓄電池ユニットを優先に動作させたい場合は、下記の設定を行ってください。

- 太陽光余剰電力充電：「する」
- 放電タイマーの放電時刻重複時優先設定：「蓄電池」

V2H スタンド本体操作

V2H スタンド本体で操作できなくさせる設定です。長期ご不在時など、第三者の無断使用を防止する場合などに便利な機能です。お客様の用途にあわせて設定してください。

1 「する」をタッチする



V2H スタンド本体での操作を有効とする場合は、「する」を選択してください。

「しない」を選択すると、V2H スタンド本体で充放電操作を行うことができなくなります。

車両放電下限値

車両から放電を行う場合に、指定残量までで放電を止めるように制限します。

1 車両放電下限値を選択する



◀ / ▶をタッチすることで、設定を変更します。

● 設定値：

10%、20%、30%、40%、50%、60%、
70%、80%、90%、100%

メモ

- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回る設定をした場合は、機能しません。
- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限值が高い方が優先となります。
(例:「車両放電下限値」が30%、「放電可能下限値」が40%の場合、40%まで放電を行います。)

重要

タイマー動作中は、充放電を行っていない場合でも、車両とV2Hスタンド間の通信維持のため車両の蓄電池より電力を消費します。そのため、車両放電下限値を設定しても、車両放電下限値を下回る場合があります。

重要

放電を停止する車両の蓄電池残量について

車両は室内リモコンで設定する①「車両放電下限値」、または車両ごとに決められた②「放電可能下限値」に達すると放電を停止します。

①室内リモコンで設定する「車両放電下限値」(非常時車両放電下限値)

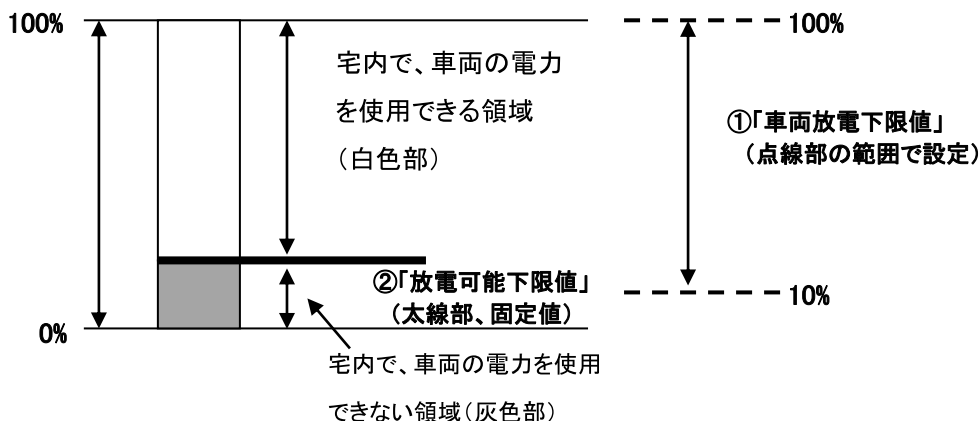
- 停電時または走行に備え残しておく、車両の蓄電池容量
- お客様にて設定可能(10%～100%まで10%刻み)

②車両ごとに定められた「放電可能下限値」

- 車両により定められた最低残しておかなければならない車両の蓄電池容量
- 車両により定められており、変更不可
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。

http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

- 室内リモコンで設定する「車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限值が高い方が優先となります。



<例>

お客様がi-MiEVをお持ちのとき、室内リモコンで①の「車両放電下限値」を10%に設定した場合でも、i-MiEVの②「放電可能下限値」30%に達すると放電を止めます。

以降、非常時（停電時）の設定内容になります。

非常時放電動作

非常時に車両からの放電を許可するか設定できます。

1 「する」または「しない」をタッチする



「する」：非常時（停電時）に車両から放電を行います。
「しない」：非常時（停電時）に車両からの放電は行いません。

通常は停電時に車両の電力が利用できるように、「する」に設定してください。

重要

「しない」を選択すると、蓄電池残量がゼロの場合など、車両から本システムを起動しなければならない場合も起動できず、復電するか、太陽光が発電するまで非常時兼用コンセントを利用することができません。

非常時車両放電下限値

非常時に車両から放電する場合に、指定残量までで放電を止めるように制限します。

1 非常時車両放電下限値を選択する



非常時（停電時）であっても、車両蓄電池の残量がゼロになって走行できなくなならないように、使用を指定の残量まで制限することができます。

放電中に指定の車両蓄電池残量になると、放電を停止します。

◀ / ▶をタッチすることで、設定を変更します。

- 設定値：10%、20%、30%、40%、50%、60%、70%、80%、90%、100%

メモ

- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回る設定をした場合は、機能しません。
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。（例：「非常時車両放電下限値」が30%、「放電可能下限値」が40%の場合、40%まで放電を行います。）「放電を停止する車両の蓄電池残量について」（92 ページ）を参照してください。

非常時放電優先設定

非常時（停電時）、家庭内へ電力供給を蓄電池ユニット / 車両どちらかを優先して利用するかを設定できます。

1 「蓄電池」または「車両」をタッチする



「蓄電池」：

蓄電池ユニットから優先して電力を供給します。蓄電池残量がゼロになると、車両から放電に切り替わります。

「車両」：

車両から電力を優先して供給します。車両の蓄電池残量がゼロ、または室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」に達すると、蓄電池ユニットから放電に切り替わります。

メモ

非常時放電動作を「しない」に設定した場合は、本設定は機能しません。

非常時充電優先設定

非常時（停電時）、太陽光発電電力を蓄電池ユニット / 車両どちらかを優先して充電するかを設定できます。

1 「蓄電池」または「車両」をタッチする



「蓄電池」：

蓄電池ユニットへ優先して充電します。蓄電池残量が100%になると、車両への充電に切り替わります。

「車両」：

車両へ優先して充電します。車両の蓄電池残量が100%、または車両の「充電上限値」に達すると、蓄電池ユニットへの充電に切り替わります。

車両ごとに定められた「充電上限値」はニチコンホームページを参照してください。

http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

蓄電池と車両の連携について

蓄電池ユニットと V2H スタンドを併用して利用する場合、基本的に下記ルールに従います。

A：蓄電池ユニット

B：V2H スタンドとした場合

①下記 V2H スタンドで設定した優先度に従う。

- タイマー動作：充放電時間帯が重複した場合の優先度を設定します。(88、90 ページ)
- 非常時放電優先設定：非常時（停電時）の放電の優先度を設定します。(94 ページ)
- 非常時充電優先設定：非常時（停電時）の充電の優先度を設定します。(94 ページ)

重要

- 停電時、蓄電池ユニットの非常時運転モードを「強制充電設定」にしている場合は、優先度の設定に関係なく、非常時兼用コンセントへの給電は行わず、蓄電池ユニットまたは車両への充電のみ行います。
- 停電時、V2H スタンドの運転モードを「充電」にしている場合は、優先度の設定に関係なく、非常時兼用コンセントへの給電および蓄電池ユニットへの充電は一切行わず、車両への充電のみ行います。

※停電時、蓄電池ユニットで「強制充電設定」、V2H スタンドで「充電」を選択した場合は、優先度に従い充電を行います。

②後に設定した方が優先となる。

A(B) 動作中に、後から B(A) のモードに変更した場合、設定したモードが優先される。

A(B) 動作中に、後から B(A) の別のモードを変更した場合、先に動作している A(B) は「待機」状態となり、B(A) の動作終了後、A(B) の動作となります。

- 自動運転モード同士の場合には、V2H スタンドで設定した優先度で動作します。
- A(B) が手動で「放電」モードで動作していた場合に、B(A) のモードを手動で「放電」モードにした場合は、どちらも手動の「放電」モードで動作し、V2H スタンドで設定した優先度で動作します。
- A(B) 動作中に B(A) のモードを「待機」モードに設定した場合は、A(B) の動作はモードを変更せず、動作を継続します。

※車両が手動充電モードの場合は、充電完了後、設定したモードに変わります。

③車両への太陽光の余剰電力充電は、車両が優先的に動作している場合に有効となる。

ケース 1：充放電時間帯が重複した場合

蓄電池ユニット：「経済モード」または「グリーンモード」

V2H スタンド：「タイマー動作」

⇒「放電タイマー」、「充電タイマー」で設定した「放電時刻重複時優先設定」、「充電時刻重複時優先設定」に従います。

ケース 2：自動運転中に手動モードを選択した場合

蓄電池ユニット：「経済モード」または「グリーンモード」運転中

V2H スタンド：「充電」または「放電」の手動モードを選択した場合

⇒蓄電池ユニットは「待機」状態となり、V2H スタンドの動作を行います。V2H スタンド動作終了後、蓄電池ユニットの動作を再開します。

ケース 3：太陽光の余剰電力を充電するモードが重複した場合

蓄電池ユニット：「グリーンモード」設定中（放電時間帯）

V2H スタンド：「タイマー動作」設定中（放電時間帯）、「放電タイマー設定」の「放電時刻重複時優先設定」が「車両」

⇒太陽光余剰電力が発生した場合は、車両に充電を行います。

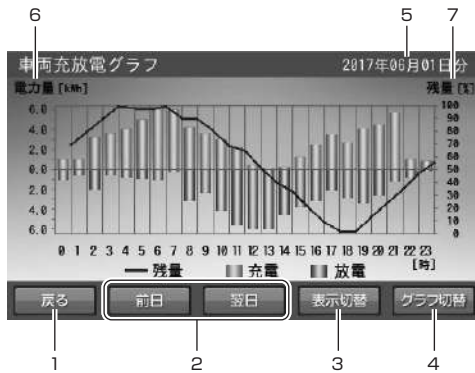
買電が発生する場合は、車両から放電を行います。

※太陽光余剰電力の充電は車両を優先し、放電は、蓄電池を優先的に利用したい場合には、「放電タイマー設定」の「放電時刻重複時優先設定」を「蓄電」にしてください。

各グラフについて

別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」で説明している「発電 / 売買電グラフ」「蓄電池充放電グラフ」に加えて、「車両充放電グラフ」を表示することができます。「発電 / 売買電グラフ」「蓄電池充放電グラフ」は、別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

車両充放電電力量 (kWh) および車両蓄電池の残量 (%) (日別) グラフを表示します。



車両充放電グラフ

1. 「戻る」ボタン：
「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。
2. 「前日」 / 「翌日」ボタン：
表示しているグラフの前日 / 翌日のグラフを表示します。
3. 「表示切替」ボタン：
「日別」 → 「月別」 → 「年別」 → 「日別」の順に切り替わります。
4. 「グラフ切替」ボタン：
「発電 / 売買電グラフ」 → 「蓄電池充放電グラフ」 → 「車両充放電グラフ」の順に切り替わります。

5. 日付表示：

表示しているグラフの日付を表示します。日付を変更したい場合は、ここをタッチしてください。「日付入力画面」に切り替わります。

6. 電力量 [kWh]

- 充電電力量：棒グラフ（オレンジ）で上側に棒の長さで表示します。
- 放電電力量：棒グラフ（緑色）で下側に棒の長さで表示します。

7. 車両蓄電池残量表示：車両蓄電池残量を折れ線グラフで表示します。

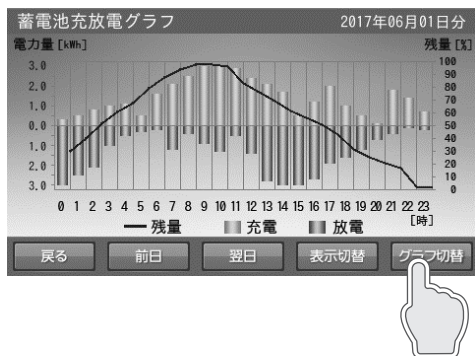
メモ

- 本システムの設置時から現在までの過去最大 10 年間のグラフを表示し、10 年を超えると古い日付のデータから削除されます。
- グラフおよび表示量は目安です。測定条件などの違いにより、他の機器（HEMS など）と異なる場合があります。
- 室内リモコンの電源を切っている間は、データが保存されないため表示できません。
- 日時設定を変更したときは、変更時間帯を含むデータが正しいデータではなくなります。HEMS などとの時刻同期により日時設定が変更されたときも同様です。

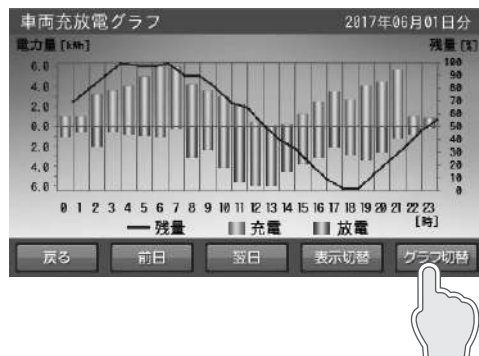
各グラフ画面の「グラフ切替」をタッチすると、グラフが切り替わります。

例：「蓄電池充放電グラフ」から「車両充放電グラフ」への切り替え

<蓄電池充放電グラフ>



<車両充放電グラフ>



グラフの表示方法

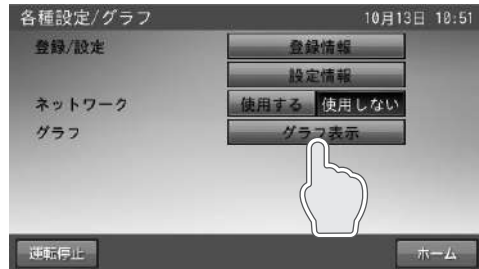
< グラフを表示する >

1 「家アイコン」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に切り替ります。

2 「グラフ表示」をタッチする



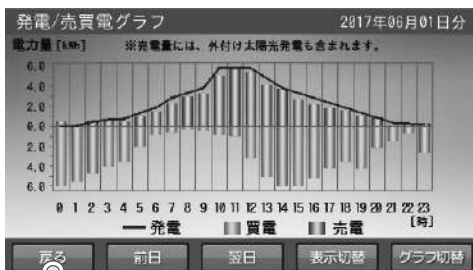
「発電 / 売買電グラフ」画面に切り替ります。

メモ

- 前回、最後に表示したグラフを表示します。
- 室内リモコン上の現在時刻までのデータを表示します。

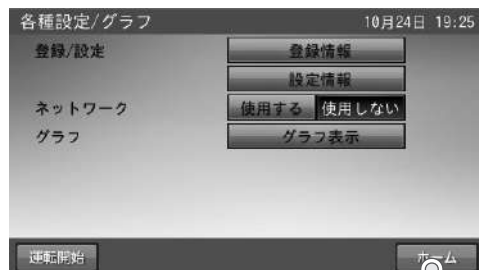
< ホーム画面に戻る場合 >

3 「戻る」をタッチする



「各種設定 / グラフ」画面に切り替ります。

4 「ホーム」をタッチする



ホーム画面に戻ります。

下記操作方法については、別冊の「パワーコンディション・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

- グラフ期間を変更する
- グラフの年、月、日を設定して変更する

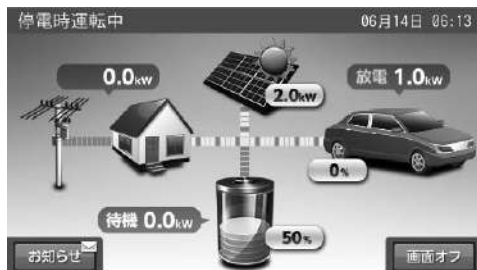
停電時の使い方（自立運転）

停電時の使い方（自立運転）

停電時の室内リモコンの表示は、画面左上に「停電時運転中」と表示されます。

- 停電時の操作はありません。
- 非常時兼用コンセントに自動的に給電されます。

例：停電時運転中のホーム画面



分電盤の切替スイッチが「蓄電」側になっていることをご確認ください。

切替スイッチを「蓄電」側でご利用いただいた場合は、停電時、自動的に非常時兼用コンセントに電気が供給されます。

■停電時の家電製品の利用について

非常時兼用コンセントの消費電力（目安）は 2500 W です。（100 V のみ使用可）

（蓄電池ユニット出力：最大 2.0 kVA、太陽光が 3 kW 以上発電している場合※：最大 3.0 kVA）

※：ESS-T1 系の場合

電気の使い過ぎや使用中の家電製品の特性により、非常時兼用コンセントで機器の出力を超える電力を使用すると、室内リモコンにメッセージを表示して、非常時兼用コンセントへの給電を停止します。

下記の家電製品は非常時兼用コンセントへの接続を避ける、または注意してください。

途中で電源が切れると困る家電製品	突入電流が大きい家電製品	消費電力が大きい家電製品
接続禁止	動作しない場合がある	動作しない場合がある
医療機器、デスクトップ型パソコンなど	掃除機、遠赤外線ヒーター、洗濯機、ポンプなど	電子レンジ、電気ストーブなど

- 途中で電源が切れると困る家電製品は接続しないでください。
- 突入電流が大きい家電製品は一部動作しない場合があります。
- 消費電力が大きい家電製品を利用する場合は、動作させる前に他に接続している家電製品を減らすなど、非常時兼用コンセントの定格を超えないように工夫してください。
- もし安全装置が作動してしまった場合は、室内リモコンのメッセージに従って接続している家電製品の数を減らし、システムを再起動してください。
- 200 V の家電製品（エアコンや IH クッキングヒーター）は使用できません。

<停電時にご利用できる家電製品の目安>（同時使用可能：非常時安心設定 70%の場合）

- LED 照明（10 W）：3 時間【30 Wh】
- 冷蔵庫（70 W）：15 時間【1050 Wh】
- テレビ（150 W）：0.5 時間【75 Wh】
- ルーター・TV ブースター等（10 W）：15 時間【150 Wh】
- 携帯電話（2 台 10 W）：1 時間【10 Wh】

※蓄電池の劣化（容量保証 10 年・50%）を見込んでいます。

※実際の使用環境・機器等によって、電力の使用可能時間が異なります。

※停電時は、事前に計画されたスイッチ、コンセントのみ電気が使えます。

※蓄電池ユニットがない場合は、太陽光が発電している時のみご利用できます。

復電時の操作

- 復電前にコネクタロックしていた場合には、復電後コネクタロックの状態を確認してください。車両の蓄電池残量によっては、停電時にコネクタロックを解除する場合があります。解除されている場合は、必要に応じてコネクタロックを行ってください。
- 電力会社との協議で定められている時間内（最大 5 分）は、復電しても停電時の動作となります。復電後、電力会社との協議で定められた時間を経過すると、本システムはエレムープ放電、エレムープ充電を除いて、通常時のモードで動作します。

停電時に利用できる運転モードについて

※停電時、太陽光発電がある場合に、車両の蓄電池容量が10%を下回った状態でコネクタロックを行うと、強制的に12%まで充電を行います。その場合ご家庭には一切給電することができません。

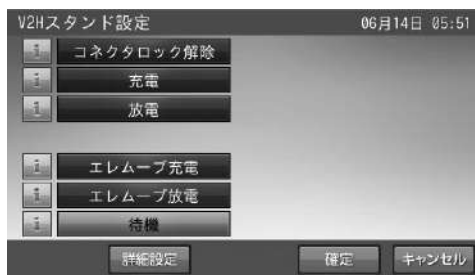
停電時には、通常時と異なり「タイマー動作モード」を利用することはできません。

その他のモードは利用することができます。

- 下記モードを選択することができます。

	設定できるモード
手動運転モード	充電
	放電
	待機
エレムーブモード	エレムーブ充電
	エレムーブ放電

停電時のV2Hスタンド設定画面



手動運転モード

充電

太陽光発電電力を利用して車両へ充電を行います。

非常時兼用コンセントへの給電は一切行いません。太陽光発電電力がない場合は、充電することはできません。

※ ESS-T1 系では、外付け太陽光発電電力を充電することはできません。

※ ESS-T2 系では、外付け太陽光発電の自立出力の範囲で利用することができます。

放電

車両から家庭内負荷へ放電および太陽光余剰電力を充電するモードです。

太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力に対して不足する場合は、不足分を車両から放電します。太陽光発電電力が家庭内負荷の消費電力より大きい場合は、車両からの放電は行わず、太陽光の発電電力を家庭内負荷へ給電します。余剰電力は車両へ充電します。通常はこちらのモードをご利用ください。

停電時、車両ごとに定められた「放電可能下限値」を下回った状態で接続する場合、充電が開始できないことがあります。太陽光が十分発電していることを確認してから、運転モードを「充電」に設定してください。

※ ESS-T2 系では、家庭内負荷が外付け太陽光の自立出力を超える場合には、車両からの放電に切り替わります。

メモ

- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
(例：「非常時車両放電下限値」が30%、「放電可能下限値」が40%の場合、40%まで放電を行います。)
- 車両ごとに定められた「放電可能下限値」はニチコンホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html

待機

車両の充放電を行わないモードです。

※太陽光発電、蓄電池残量がない場合、蓄電システムは停止します。

エレムーブモード

車両から蓄電池ユニットへ、蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

直接直流電力をシステム内に移動するため、交流に変換して行う場合より損失が少ないモードです。

エレムーブ運転が終了すると、エレムーブ運転直前の運転モードに戻ります。

※移動できる電力は最大 2 kW ですが、車両側の制御により 1.5 kW ~ 1.9 kW 程度になる場合があります。

メモ

- コネクタロック後、他のモードを選択せず「エレムーブ充電」または「エレムーブ放電」を選択した場合は、エレムーブ運転が終了すると「待機」状態となります。
- 太陽光が発電している場合は、太陽光の発電電力も移動に使われます。(ESS-T1 系)
- 外付け太陽光が発電しており、自立運転している場合は、その電力は重要負荷に利用されます。(ESS-T2 系)

重要

エレムーブ運転中は、家庭内へ一切電力供給ができません。

エレムーブ充電

蓄電池ユニットから車両へ電力を移動するモードです。

車両の蓄電池が「充電上限値」になるか、蓄電池ユニットの蓄電池残量がゼロになるまで、または非常時安心設定の値に達するまで電力を移動します。

メモ

- 車両ごとに定められた「充電上限値」があり、その値までの充電になります。
- 停電時にエレムーブ充電を設定した場合には、復電後もその動作を継続します。

エレムーブ放電

車両から蓄電池ユニットへ電力を移動するモードです。

蓄電池ユニットの蓄電池が満充電になるか、室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」になるまで行います。

メモ

- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」まで放電を行います。
- 室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、車両ごとに定められた「放電可能下限値」の下限値が高い方が優先となります。
- 停電時にエレムーブ放電を設定した場合には、復電後もその動作を継続します。

停電時に車両の電源ソケットを利用した起動方法

停電時、蓄電池の残量がなく太陽光発電電力もない場合で、車両がコネクタロックしていないとき、または、コネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、蓄電システムが停止します。

その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

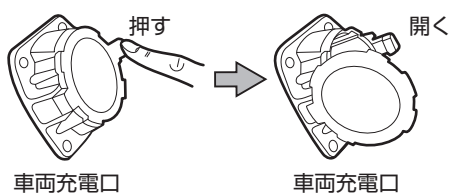
車両の蓄電池残量が下限値^{*1}より残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し、下記の操作を行って、本システムを起動してください。

車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回っている場合は、起動できません。

下記の操作により、起動させたときでも車両の蓄電池残量が下限値^{*1}を下回った場合は、蓄電システムが停止します。

※ 1 下限値：室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」

1 車両を準備する



車両のシフトをパーキング（P 位置）にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する



充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

※コネクタロック作業は不要です。

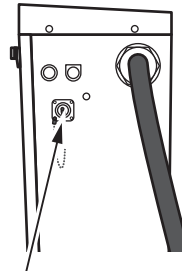
4 車両の電源ソケットに付属品の 12V 電源ケーブルを接続し、車両の ACC（アクセサリ）を ON にする

車両のドアは閉じた状態とし、窓から 12 V 電源ケーブルを外に出してください。

メモ

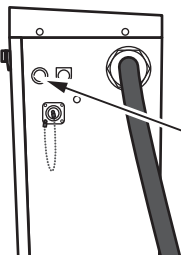
ソケット位置および接続については、車両の取扱説明書を確認してください。

5 V2H スタンド右側面の 12V IN に 12V 電源ケーブルを接続する



12V IN

6 V2H スタンドの「停電起動」ボタンを押す



停電起動ボタン

7 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

重要

車両の消費電力が多くなり、車両蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

メモ

放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっていることを再度確認してください。

重要

車両の蓄電池残量が下限値を下回っている場合は、起動できません。その場合は、太陽光発電の電力で起動できます。

※下記の設定を実施すると、V2H スタンドで「放電」ボタンを操作しなくても自動的に放電を行います。

- 「設定情報」の「停電時出力」が「自動」であること
- 「V2H スタンド詳細設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



停電時に充放電コネクタを利用した起動方法 (例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)

※下記の操作により本システムを起動できる車種は限られています。(例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種)
停電時、蓄電池の残量がなく太陽光発電電力もない場合で、車両がコネクタロックしていないとき、または、コネクタロックしているが充放電時間帯以外のときは、蓄電システムが停止します。

その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

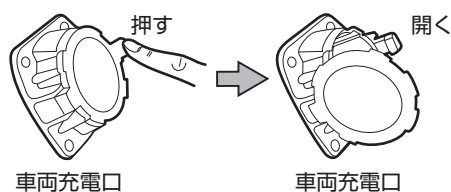
車両の蓄電池残量が下限値^{※1}より残っている場合は、充放電コネクタを車両に接続し、下記の操作を行って、本システムを起動してください。

車両の蓄電池残量が下限値^{※1}を下回っている場合は、起動できません。

下記の操作により、起動させたときでも車両の蓄電池残量が下限値^{※1}を下回った場合は、蓄電システムが停止します。

※1 下限値：室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」、または車両ごとに定められた「放電可能下限値」

1 車両を準備する



車両充電口

車両充電口

車両のシフトをパーキング (P 位置) にします。
「POWER OFF」にして車両の充電口を開きます。

2 V2H スタンドから充放電コネクタを取り出す



3 充放電コネクタを車両に接続する



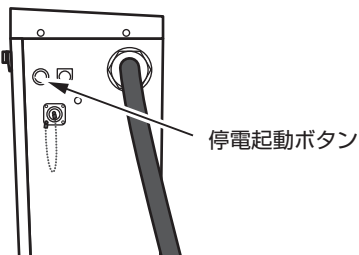
車両充電口

充放電コネクタを車両の充電口に差し込みます。
「カチッ!」と音がするまで押し込んでください。

※コネクタロック作業は不要です。

4 車両の ACC(アクセサリ) を ON にする

5 V2H スタンドの「停電起動」ボタンを押す



6 車両から放電状態を確認した段階で、車両の ACC（アクセサリ）を OFF にする

重要

車両の消費電力が多くなり、車両蓄電池が早く消費されてしまうため、放電確認後、車両の ACC（アクセサリ）を必ず「OFF」にしてください。

メモ

放電が始まらない場合は、車両の ACC（アクセサリ）が ON になっていることを再度確認してください。

重要

車両の蓄電池残量が下限値を下回っている場合は、起動できません。その場合は、太陽光発電の電力で起動できます。

※下記の設定を実施すると、V2H スタンドで「放電」ボタンを操作しなくても自動的に放電を行います。

- 「設定情報」の「停電時出力」が「自動」であること
- 「V2H スタンド詳細設定」の「非常時放電動作」が「する」であること



こんなときは

ブザー音や異音について

ブザーが鳴ったとき

ブザーが鳴ったときは、室内リモコンの画面に表示されたメッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき」（115 ページ）の処置に従ってください。

機器から発生する音について

以下の音は本製品の異常ではありません。

ジージー音	
チリチリ音	製品内部の回路が動作するときに発生する音です。
チャリチャリ音	
カチャ音	製品内部の機械部分が動作するときに発生する音です。 (運転開始時と、停止時に発生します)
ブーン音	ファンの音です。

メモ

聴覚感度が高い方にとって、運転時の高周波音は不快に感じる場合がありますが異常ではありません。

動作がおかしいと感じたとき

アンペアブレーカが頻繁に落ちる場合

お買い上げの販売会社へご連絡ください。

契約電力を変更する場合

アンペアブレーカの容量を変更する場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

非常時兼用コンセントのブレーカが頻繁に落ちる場合

接続している家電製品を減らしてください。

停電時に非常時兼用コンセントが使用できない場合

- ブレーカが落ちていないか確認してください。ブレーカが落ちている場合は、ブレーカを上げてください。
- 室内リモコンに点検コードが表示されている場合は、メッセージおよび「点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき」（115 ページ）の処置に従ってください。
- 切替スイッチが「蓄電」側であることを確認してください。「系統」側の場合は、「蓄電」側に変更してください。
- 「停電時に蓄電池残量がゼロになってしまった場合」（107 ページ）を参照してください。太陽光発電がなく、蓄電池残量がゼロの場合は、非常時兼用コンセントを利用することはできません。
- 上記要因でない場合、故障の可能性があります。お買い上げの販売会社へご連絡ください。

室内リモコンの画面が表示されない場合

室内リモコンが故障している可能性があります。お買い上げの販売会社へご連絡ください。

停電時、太陽光発電がなく、蓄電池残量がゼロの場合は、室内リモコンの画面は表示されません。

蓄電池残量を確認してください。ゼロの場合、「停電時に蓄電池残量がゼロになってしまった場合」（107 ページ）の処置を行っても室内リモコンが表示されない場合は、お買い上げの販売会社へご連絡ください。

充放電時間が設定より短い場合

接続している車両の電池容量をご確認ください。車両電池容量が 10kWh 未満の車両を接続している場合は、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。（例：トヨタ自動車株式会社 PRIUS PHV V2H 対応車種）

100%まで充電できない場合

- 充電時間帯に他の家電製品（電気温水器、床暖房など）を多く使っているとき、電力契約によっては充電できる電力が不足して、100%まで充電できないことがあります。その場合は、電力契約の見直しなど、お買い上げの販売会社にご相談ください。深夜電力時間が短い電力プラン（例：スマートライフプラン※1）をご利用いただいている場合は、注意が必要です。
- 充電時間が短いときは、100%まで充電できないことがあります。「V2H スタンドの詳細設定について 充電タイマー設定」を参照してください。
- 最大充電電力設定を低く設定している場合があります。別冊「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」の「各種設定項目 最大充電電力設定」を確認してください。

※1：東京電力エナジーパートナー株式会社 電力プラン

充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「車両放電下限値」または車両ごとに定められた「放電可能下限値」以下のときは放電ができません。充電を行ってください。
※室内リモコンで設定する「車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。
- 車両の蓄電池残量が車両ごとの「充電上限値」付近の場合は充電できません。
- コネクタロック状態になっていない場合は充放電できません。コネクタロックを行ってください。
- 優先設定が「蓄電池」になっている場合、蓄電池ユニットを優先的に利用します。下記項目に対してお客様のご利用状況に合わせて設定してください。
 - － 「タイマー動作」の「充電タイマー設定」、「放電タイマー設定」
 - － 「非常時放電優先設定」
 - － 「非常時充電優先設定」
- コネクタロック後、「タイマー動作」ボタンをタッチしていない場合、「タイマー動作」は行いません。コネクタロックを解除した場合は、次回コネクタロック時に再度「タイマー動作」ボタンをタッチしてください。
- 「タイマー動作」の設定時刻、「蓄電池ユニットの充放電時刻」が適切に設定されていないときは、意図した時刻に充放電ができない場合があります。
(車両電池容量が10kWh未満の車両接続時は、充電時間と放電時間の合計が12時間以内に制限されます。)
- 太陽光が売電中の場合、蓄電池ユニットおよび車両ともに放電することはできません。

充放電の動作切り替え時に数秒時間がかかる場合

車両によっては、車両との接続の取り決めにより充電・放電操作を行ってから動作するまでに数秒かかる場合があります。

定格で充電できない場合

- 車両の蓄電池の残量（電圧）によっては、定格で充電できない場合があります。また、太陽光の余剰電力を充電しているときに定格充電できない場合は、売電を行います。
- 非常時兼用コンセントに接続している家電製品の消費電力が1kWを超えるときには、定格で充電できない場合があります。

コネクタロック・解除を繰り返す場合

三菱自動車工業製 i-MiEV シリーズの場合、お使いいただいている家電製品の合計が約200W以下の状態が約15分経過すると、車両側で放電を停止することがあります。その場合は自動的に復帰を行いますが、電力の使用状況が変わらないときは、放電を停止します。

車両が満充電後、すぐに放電できない場合

車両によっては、満充電後すぐには放電できない場合があります。一度コネクタロックが解除することがありますが、自動的にコネクタロックを行い、放電を開始します。

停電時に蓄電池残量がゼロになってしまった場合

夜間など太陽光発電電力がない状態で停電になり、停電時に蓄電池残量がゼロになってしまった場合は、蓄電システムが停止します。その場合は、室内リモコンの画面をタッチしても何も表示されません。

●太陽光発電電力が得られる場合

①室内リモコンに点検コード「BF404」を表示する場合があります。

その場合は、「非表示」をタッチして、点検コード画面を閉じてください。太陽光発電電力による蓄電池の充電が進むと、点検コード「BF404」は自動的に解消します。

②充電を優先する場合は、「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」の「蓄電池ユニットの非常時（停電時）の各設定を選ぶ」の「非常時運転モード」を「強制充電設定」にしてください。

メモ

- 「強制充電設定」は、非常時兼用コンセントには一切電気が供給されませんが、蓄電池残量がゼロのため、十分な電力が充電できるよう可能な限り本モードを選択してください。非常時兼用コンセントへの給電を優先したい場合は、「自動給電切換設定」を選択してください。
- 室内リモコンにその他の点検コードが表示された場合は、「点検コード（BExxx、BFxxx）が表示されたとき」（115 ページ）の処置に従ってください。
- ESS-T2 系では、外付け太陽光を自立出力に切り替える必要があります。

●太陽光発電電力が得られない場合

復電するまで、本システムを利用することはできません。

復電後、下記点検コードを発報した場合には、お客様にて「非表示」をタッチして点検コード画面を閉じ、以下の操作を行ってください。

- 点検コード「BF404」が表示された場合：操作不要です。
充電時間帯に自動で充電を行います。
 - 点検コード「BF517」が表示された場合：現在日時を設定してください。
充電時間帯に自動で充電を行います。
- ①「非表示」をタッチして、点検コード画面を閉じます。
②日時設定を行ってください。

停電時に充放電できない場合

- 車両の蓄電池残量が室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」または車両ごとに定められた放電可能下限値以下の場合、放電ができません。

※室内リモコンで設定する「非常時車両放電下限値」を下げることで放電できる場合があります。

- 「非常時放電動作」が「しない」になっている場合、停電時に車両からの放電はできません。「する」に設定してください。
- 蓄電池ユニットの「非常時運転モード」が「強制充電設定」になっている場合、蓄電池ユニットから放電することはできません。「自動給電切換設定」に設定してください。

充放電コネクタが取り出せなくなった場合

- 再度室内リモコン、V2H スタンド両方でコネクタロックの解除を行ってください。どちらかのみコネクタロックを解除できた場合は、その旨をお買い上げの販売会社にご連絡ください。

- 一度充電または放電を実施してください。実施することで取り外せる場合があります。

- V2H スタンドにて、「充電」ボタンまたは「放電」ボタンを押してください。
- V2H スタンドにて、「待機」ボタンを押した後に、「コネクタロック / 解除」ボタンを押してください。

症状が変わらない場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

充放電コネクタが濡れてしまった場合

布などで水分を拭き取ってください。そのままにしておくと、感電の原因となります。

充放電コネクタが凍結してしまった場合

冬季中、充放電コネクタが凍結し、抜けなくなることがあります。その場合は無理に抜こうとせずに、充電・給電を停止し、ぬるま湯をかける、もしくはドライヤーの風をあてて解凍してください。付着した水分は乾いた布で拭き取ってください。

緊急離脱について

緊急の場合は、付属の「充放電コネクタ緊急離脱工具」を使用して充放電コネクタを取り外すことができます。

- 緊急離脱を行った場合は、充放電コネクタは利用できなくなるため、必ずお買い上げの販売会社にご連絡ください。
- 保証期間中であっても、不具合以外の要因で緊急離脱を行った場合のサービス対応費用はお客様ご負担となります。

重要

充放電コネクタ緊急離脱工具の入った袋に取扱説明書が同封されています。

“開封前に必ずお読みください”として下記を明示しています。開封された場合は下記内容に同意されたものとみなします。

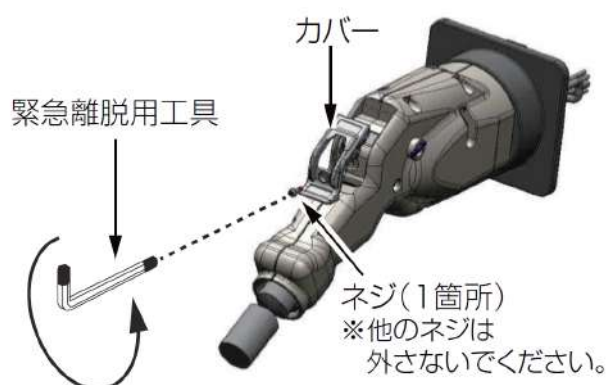
- 緊急離脱を行った充放電コネクタは使用できなくなります。
- 緊急離脱を行った場合は弊社による点検と内部スイッチ機能の回復が必要となります。
- 本書の「安全のために必ずお守りください」を作業前に必ずお読みください。
- 本書の記載内容を熟読し、手順に従って作業を行ってください。

緊急離脱の手順

作業前に以下を確認してください。

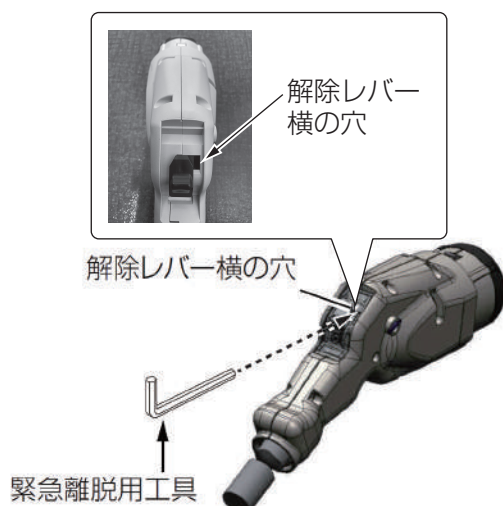
- 充放電が停止していること
- V2H スタンドのランプがすべて消灯していること
- 12V 電源ケーブルが接続されていないこと

1. 充放電コネクタ緊急離脱工具を使用してグリップのネジを外し、カバーを外してください。



2. カバーを外した後、解除レバーの横の穴に充放電コネクタ緊急離脱工具を挿し込んでください。

- 奥まで挿し込まないと取り出しができない場合があります。



3. 充放電コネクタ緊急離脱工具を下げながら、充放電コネクタをゆっくりと充電口から引き抜いてください。

- 本工具を使用した場合は、充放電コネクタは利用できません。取り外し完了後は必ず販売会社にご連絡ください。

工具を下に下げる



その他ご使用に関する操作方法等

停電時、安全を確認してから非常時兼用コンセントをご利用になりたい場合

下記に従って操作を行ってください。

切替スイッチが「系統」側のままの場合は停電時、非常時兼用コンセントには電気が供給されませんので、「蓄電」側に切り替えてください。

1 「手動」をタッチする



「設定情報」で「停電時出力」の設定を「手動」にします。「確定」をタッチします。

2 「する」をタッチする

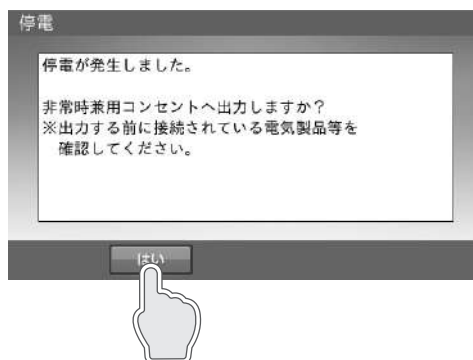


「非常時設定」で「非常時運転モード」を「自動給電切換」にします。「確定」をタッチします。

3 安全を確認する

停電が発生したら、配線、非常時兼用コンセントに接続されている家電製品などが安全であることを確認します。

4 「はい」をタッチする

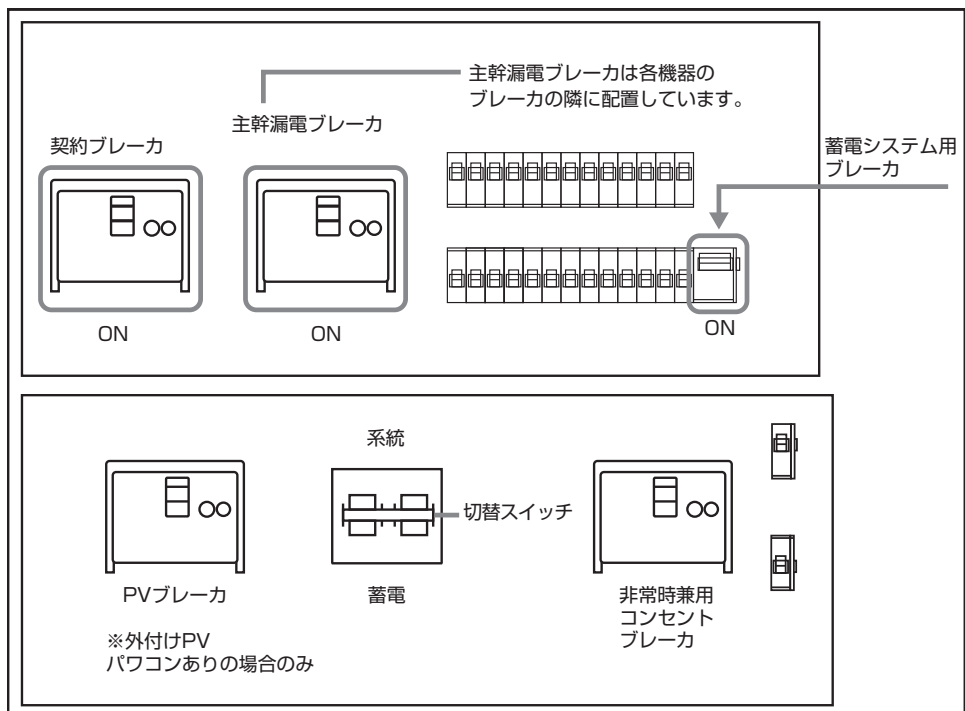


前の画面に戻り、非常時兼用コンセントに電気が供給されます。

長期不在の場合 (2 週間以上)

長期不在する場合は、運転モードを「経済モード」、「グリーンモード」に設定し、「契約ブレーカ」、「主幹漏電ブレーカ」、「蓄電システム用ブレーカ」は「ON」の状態を維持してください。

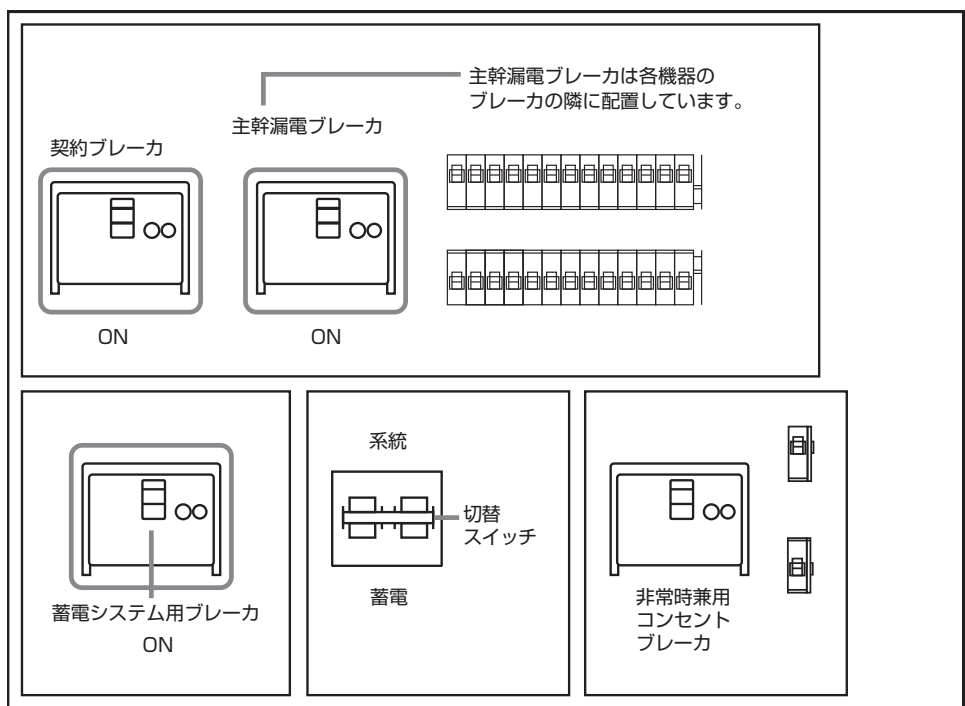
分電盤、ブレーカーの配置例 1



メモ

非常時兼用コンセントに接続している家電製品含め家電製品に電気を供給したくない場合は、住宅用分電盤内の個々のブレーカを「OFF」に、「切替スイッチ」を「蓄電」側から「系統」側に切り替えてください。

分電盤、ブレーカーの配置例 2



重要

- 故障時以外は、契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカおよび蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしないでください。
- 契約ブレーカ、主幹漏電ブレーカ、蓄電システム用ブレーカを「OFF」の状態、2 週間を超えて放置されると、蓄電池残量が減り、過放電により、蓄電池が使用できなくなる可能性があります。

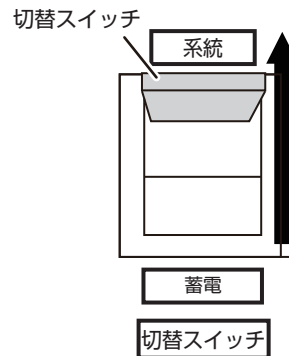
蓄電システムを停止させる場合

風水害により水没のおそれがある場合等、蓄電システムを停止させる場合は、下記手順に従って蓄電システムを停止させてください。

1 運転停止前確認

切替スイッチの切り替え時、非常時兼用コンセントに接続された家電製品への給電が一瞬遮断されますので、家電製品の電源を「OFF」にしてから切り替えを行ってください。

2 切替スイッチを「系統」側にする



スイッチを上へ操作して、「系統」側に切り替えます。1回の切り替えでは「中立」となるため、必ず2回切り替えてください。

メモ

蓄電システムが停止すると、非常時兼用コンセントには給電されません。必ず「系統」側に切り替えを行ってください。

3 「家アイコン」をタッチする



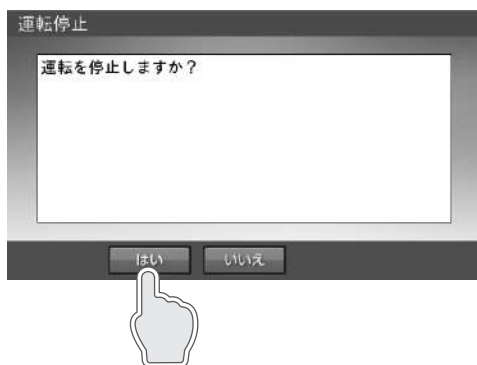
「各種設定 / グラフ」画面に切り替ります。

4 「運転停止」をタッチする



運転を停止します。

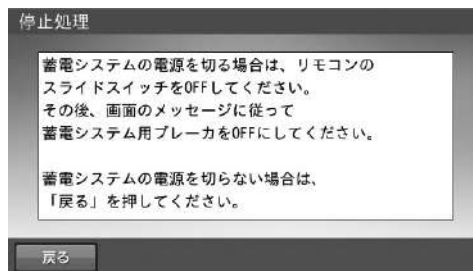
5 運転停止を確認した後「はい」をタッチする



メモ

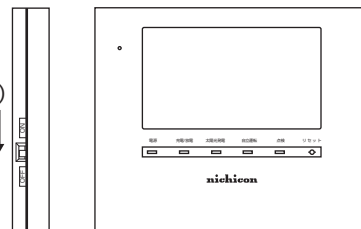
「いいえ」にタッチすると、前の画面に戻ります。

6 室内リモコンを OFF にする



電源スイッチ
(スライドスイッチ)

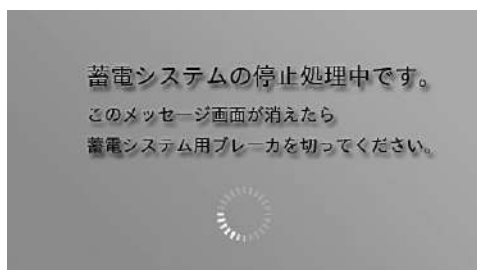
OFF ↓



メモ

蓄電システムを停止しない場合は、「戻る」にタッチしてください。「各種設定 / グラフ」画面に戻ります。「運転開始」にタッチして、必ず運転状態にしてください。

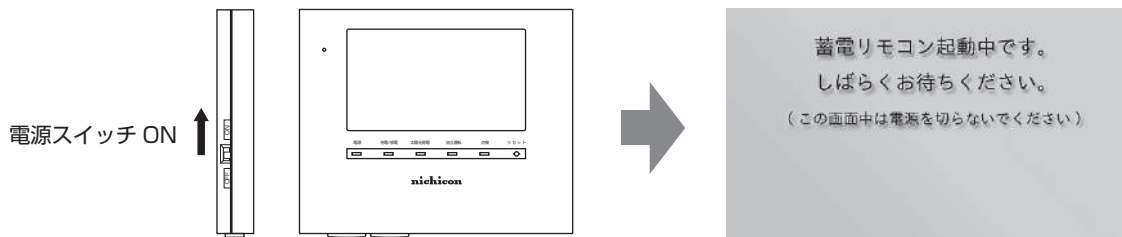
7 蓄電システム用ブレーカを OFF にする



「蓄電システム用ブレーカ」を「OFF」にしてください。「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、110 ページを参照してください。

蓄電システムを起動させる場合

1 蓄電システム用ブレーカ・室内リモコンを ON にする

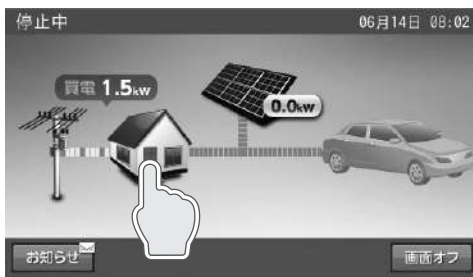


「蓄電システム用ブレーカ」を「ON」にしてください。
「蓄電システム用ブレーカ」の位置は、110 ページを参照してください。

メモ

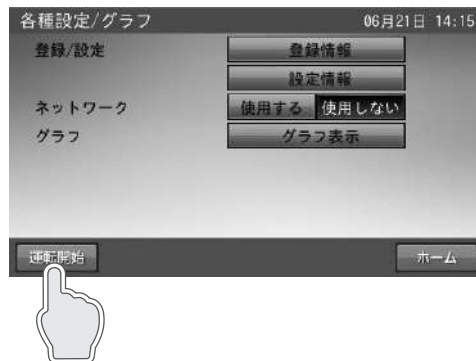
上記の画面表示中は、室内リモコンの電源を「OFF」にしないでください。

2 「家アイコン」をタッチする

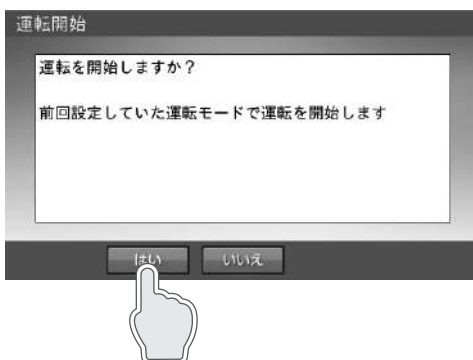


「各種設定 / グラフ」画面に切り替えます。

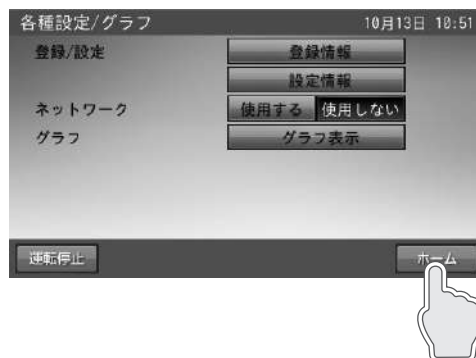
3 「運転開始」をタッチする



4 運転開始を確定した後「はい」をタッチする



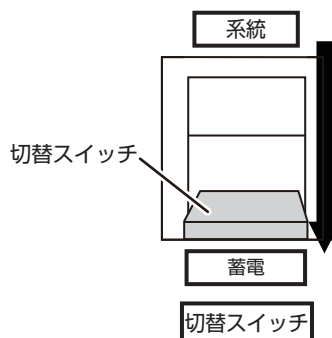
5 「ホーム」をタッチする



6 切替スイッチ操作前確認

切替スイッチの切り替え時、非常時兼用コンセントに接続された家電製品への給電が一瞬遮断されますので、家電製品の電源を「OFF」にしてから切り替えを行ってください。

7 切替スイッチを「蓄電」側にする



スイッチを下に操作して、「蓄電」側に切り替えます。1回の切り替えでは「中立」となるため、必ず2回切り替えてください。

メモ

切替スイッチが「系統」側のままの場合、停電時に非常時兼用コンセントが使えません。必ず「蓄電」側に切り替えを行ってください。

蓄電システムを廃棄する場合

使用后、すみやかに廃棄してください。廃棄する場合は、お買い上げの販売会社にお問い合わせください。廃棄費用はお客様負担となります。

風水害または地震などがおきたとき

- 風水害の水没のおそれがあるときは、あらかじめ蓄電システムの運転を停止（111ページ）させて、蓄電システム用ブレーカを「OFF」にしてください。
- 水没した場合は、蓄電システムを停止させた状態で、販売会社までご連絡ください。
- 地震により点検コードを発報している等の異常が発生した場合は、販売会社までご連絡ください。

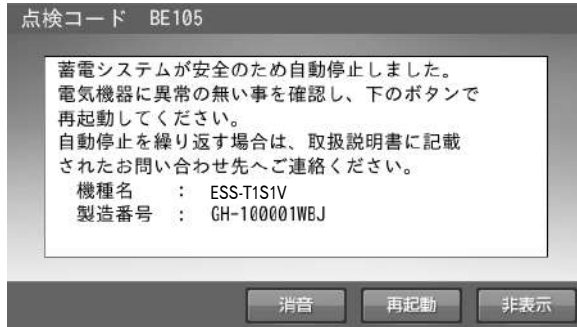
メモ

蓄電システム用ブレーカ「OFF」にした場合は、必ず切替スイッチを「系統」側にしてください。

点検コード (BExxx、BFxxx) が表示されたとき

点検コード「BExxx」、「BFxxx」は蓄電システムが何らかの原因で一時的に停止、または停止中をお知らせする点検コードです。上記「BExxx」、「BFxxx」の点検コードが表示されたときは、下表に従って処置してください。お買い上げの販売会社または弊社専用ダイヤルにご連絡いただく際は、画面に表示される機器名、製造番号、点検コードを合わせてご連絡ください。「BExxx」の場合、コネクタロックは解除されるため、「再起動」ボタンで復帰させたときは、コネクタロックを再度行ってください。

例：点検コードの画面



- [再起動] をタッチすると、蓄電システムを再起動します。
- [非表示] をタッチすると、30 秒間点検コードを非表示にします。
- [消音] をタッチすると、ブザー音が止まります。

メモ

点検コードが出た状態で放置しないでください。
過放電の状態となり、電池交換（有償）となることがあります。

点検コードの内容と処置

点検コード	処置
充放電時刻重複 充放電時刻が重複または開始時刻と終了時刻が重複しているため、設定できません。	時間帯の重複がないように再設定してください。
点検コード BExxx 蓄電システムが安全のため、自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、再起動にタッチして蓄電システムを再起動してください。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
点検コード BE202 蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンで再起動してください。 自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	掃除機、電子レンジ、ドライヤー、ヒーター等、消費電力の大きい機器のご使用はお控えください。
点検コード BE203 非常時兼用出力電力オーバー 非常時兼用コンセント / スイッチの接続機器が規定電力を超えたため、給電を停止しました。 接続機器を減らした後、再起動にタッチして蓄電システムを再起動してください。	
点検コード BFxxx 蓄電システムが自動停止しました。 安全確認後、自動的に復帰します。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。
点検コード BF517 日時設定をお願いします 停電のため、日時の設定がクリアされました。	メッセージに従い、日時設定を行ってください。
点検コード BF550 蓄電システムが自動停止しました。 安全確認後、自動的に復帰します。	自動停止を繰り返す場合は、お買い上げの販売会社にご連絡ください。

蓄電池・V2H 連携システム

下記点検コードは、車両からの停止指示または車両の状態が充放電できる状態ではない場合に表示します。

下記点検コードを発報した場合は、処置に従ってください。

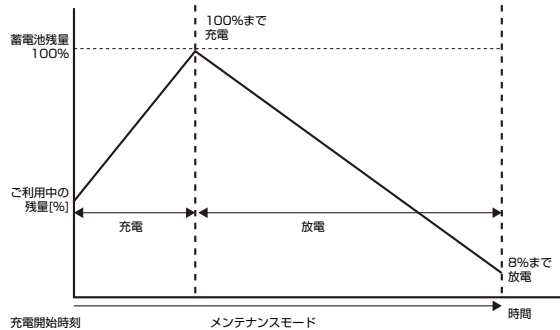
点検コード	処置
BE787 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。 放電時、放電未対応車両を接続	放電未対応の車両は放電できません。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで復帰しますが、放電させないようにしてください。
BE788 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。 問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。 車両シフトレバー位置がパーキングでない	シフトレバーをパーキングにしてください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで復帰します。
BE789 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。 問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。 電池不適合車両接続	接続未対応の車両を接続しないでください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで、復帰しますが、接続しないようにしてください。
BE794 蓄電システムが車両からの停止指示により、自動停止しました。 車両が動作できる状態が確認してください。 問題ないことを確認後、下のボタンで再起動してください。 系統連系放電不可車両接続	接続未対応の車両を接続しないでください。 室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで、復帰しますが、接続しないようにしてください。
BF795 蓄電システムが自動停止しました。安全確認後、自動的に復帰します。 自動停止を繰り返す場合、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。 車両側で異常検出（本製品の異常ではありません）	充放電コネクタを接続せずにコネクタロックを操作した場合に発報します。充放電コネクタを正しく接続しているにも関わらず発報を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BE795 蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電機機器に異常のない事を確認し、下のボタンで再起動してください。 BF795 を短時間中に複数回繰り返すと発報します。	充放電コネクタを接続せずにコネクタロックを操作した場合に発報します。間違えてコネクタロックを操作した場合は、室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチすることで復帰します。充放電コネクタを正しく接続しているにも関わらず発報を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BF796 蓄電システムが自動停止しました。安全確認後、自動的に復帰します。 自動停止を繰り返す場合は取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。 車両側で異常検出（本製品の異常ではありません。）	自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BE796 蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンで再起動してください。 BF796 を短時間中に複数回繰り返すと、発報します。	自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BC797 蓄電システムの確認が必要です。 繰り返しメッセージが出る場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。	車両によっては、充放電電力の低い状態が続く等、V2H スタンドに停止指示を送ります。 車両や機器の故障ではありませんが、自動停止を繰り返す場合は、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。また、EV-IT を利用すると発報します。「EV・PHEV に接続する際の注意点」【日産自動車株式会社の EV に接続する際の注意点】(119 ページ)に従ってください。
BF799 蓄電システムが自動停止しました。安全確認後、自動的に復帰します。 自動停止を繰り返す場合取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。 車両側で異常検出します。（本製品の異常ではありません。）	充放電コネクタが正しく接続されていない場合に発報します。一度外して再度しっかり接続してください。正しく接続しても発報する場合には、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。
BE799 蓄電システムが安全のため自動停止しました。 電気機器に異常の無い事を確認し、下のボタンで再起動してください。 BF799 を短時間中に複数回繰り返すと、発報します。	充放電コネクタが正しく接続されていない場合に発報します。室内リモコンで「再起動」ボタンをタッチいただき、一度充放電コネクタを外してから、再度しっかり接続してください。正しく接続しても発報する場合には、取扱説明書に記載されたお問い合わせ先へご連絡ください。

蓄電池のメンテナンスモードについて

メンテナンスモードとは、蓄電池を自動的に点検するモードです。

詳細は別冊の「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」を参照してください。

「充放電時間帯を設定する」で設定されている充電時間帯に蓄電池残量 100% まで充電を行い、その後、時間帯に関係なく、設定している自動運転モードで蓄電池残量 8% まで放電を行います。放電後、メンテナンスモードは完了し、自動運転モードに戻ります。



メンテナンスモード動作イメージ

蓄電システムの性能維持のために、年1回(6月)自動でメンテナンスモードを実行します。メンテナンスモード実行時に「お知らせ」をタッチすると、室内リモコンに内容が表示されます。

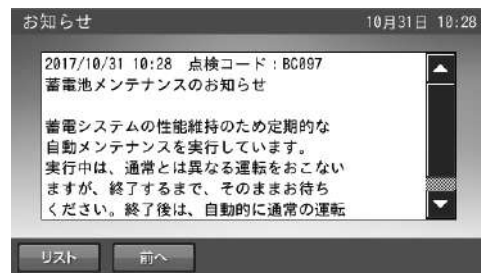
例：メンテナンスモード運転中のホーム画面



メモ

- 蓄電池性能維持のため、メンテナンスモード中は、手動充電、放電にしないでください。
- メンテナンスモード動作中も普段と同じように、家電製品をお使いいただけます。
- 11回連続してメンテナンスモードが停止すると、9月に再実行します。

例：お知らせの画面



メンテナンスモード実施日

- メンテナンスモードは6月15日～30日の期間内で実施されますが、パワーコンディショナの製造番号により実行日が異なります。実行日は下記方法で算出することができます。

算出方法：パワーコンディショナ製造番号の数字部分下2桁 ÷ 16の余りに+15

(算出例)

- ・ GD-100002WBG(パワーコンディショナ製造番号) : $02 \div 16 = 0$ 余り $2 \Rightarrow 2 + 15 = 17 \Rightarrow$ 6月17日に実行
- ・ GD-100052WBG(パワーコンディショナ製造番号) : $52 \div 16 = 3$ 余り $4 \Rightarrow 4 + 15 = 19 \Rightarrow$ 6月19日に実行

- 9月に再実行となった場合は、9月1日～16日の期間内で実施され、実行日は下記方法で算出することができます。

算出方法：パワーコンディショナ製造番号の数字部分下2桁 ÷ 16の余りに+1

(算出例)

- ・ GD-100004WBG(パワーコンディショナ製造番号) : $04 \div 16 = 0$ 余り $4 \Rightarrow 4 + 1 = 5 \Rightarrow$ 9月5日に実行
- ・ GD-100038WBG(パワーコンディショナ製造番号) : $38 \div 16 = 2$ 余り $6 \Rightarrow 6 + 1 = 7 \Rightarrow$ 9月7日に実行

メモ

パワーコンディショナ製造番号については、パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書の「登録情報を確認・変更する」を参照してください。(36ページ)

メンテナンスモード停止条件

- 蓄電池ユニットの運転モードを手動の「充電」または「放電」に変更した場合
- 点検コード発報した場合 (BExxx または BFxxx)
- 蓄電池温度が 10℃以下、または 55℃以上の場合
- V2H スタンドの運転モードを手動の「放電」に変更した場合

メモ

メンテナンスモードが連続して停止されると、正常に動作しなくなる場合があります。

重要

メンテナンスモード運転中に車両の充電を行いたい場合は、「タイマー動作」ではなく「充電」を選択してください。「タイマー動作」ボタンは、メンテナンスモード中「V2H スタンド設定」画面に表示しません。

また、メンテナンスモードの充電が終了するまで、車両側の充電を一時止めます。メンテナンスモードの充電終了後、車両側の充電を再開し、車両側の充電完了後、メンテナンスモードの放電動作を行います。

※タイマーモードの充電中にメンテナンスモードが始まった場合には、メンテナンスモードの充電完了後、車両の充電を再開します。車両の充電完了後、メンテナンスモードの放電を行います。

EV・PHEV に接続する際の注意点

- 対応車種の中でも車両側のプログラムを変更する必要がある車両があります。車両のプログラムの変更に関しては、車両販売店へお問い合わせください。
- 放電に対応していない車種は、本システムの放電機能を使用できません。
- V2H スタンドの対応車種については、下記ホームページを参照してください。
http://www.nichicon.co.jp/products/tribrid/v2h/ev_car_make.html
- 大雨の中（暴風雨や雷が予測されるなか）では使用しないでください。
ただし、雨や雪の中でも、下記にご注意いただければ使用可能です。
 - ・ 感電や漏電を防止するため、濡れた手で充放電コネクタに触れたり、抜き差しをしないでください。
 - ・ 万が一、コネクタが濡れてしまったり、雪が付着している場合は、布などで水分、雪を拭きとってください。

日産自動車株式会社の EV に接続する際の注意点

日産自動車株式会社の EV と V2H スタンドの充放電コネクタを接続した状態で「EV - IT」機能は使用しないでください。EV および本システムの機能が正常に動作しません。誤って使用してしまい、正常に動作しなくなった場合は、下記の操作を行ってください。

- 車両のリセット
 - (1) 充放電コネクタを車両から外します。
 - (2) 車両のブレーキペダルを踏み、パワースイッチを ON にします。
 - (3) 車両のタイマー機能（タイマー充電、タイマーエアコン）が設定されている場合は、設定を解除します。
 - (4) 車両のパワースイッチを OFF にします。
- 点検コード発報時の対処
上記車両のリセットを行っても、室内リモコンに点検コードが表示されたままの場合は、室内リモコンに表示しているメッセージに従い、「再起動」ボタンをタッチしてください。

三菱自動車株式会社の EV に接続する際の注意点

- 三菱自動車工業株式会社の車両のタイマー充電とプレ空調機能は、利用できません。
- コネクタロック状態で充放電状態を行っていない、または充放電電力が 200 W 以下の状態が 15 分以上続くと、充放電を停止し、コネクタロックを解除します。自動的に復帰しますが、電力の使用状況が変わらない場合、放電を停止します。契約電力と比較して、家庭内消費電力が大きいため、充電電力が確保できない場合は、契約電力を見直すか、ご家庭の使用電力を小さくするよう調整してください。
- 三菱自動車工業株式会社の車両は、2 週間に 1 回程度は普通充電で満充電にしてください。

トヨタ自動車株式会社の FCV に接続する際の注意点

- トヨタ自動車株式会社の燃料電池自動車「MIRAI」では、車両への充電機能、車両からの放電機能をご使用いただくことはできません。

本田技研工業株式会社の FUEL CELL に接続する際の注意点

- 本田技研工業株式会社の「CLARITY FUEL CELL」では、車両への充電機能、車両からの放電機能をご使用いただくことはできません。

トヨタ自動車株式会社の PHV に接続する際の注意点

- 車両電池容量が 10 kWh 未満の場合には、充電時間と放電時間の合計は 12 時間以内に制限されます。
- 車両電池容量が 10 kWh 以上の車両を接続する場合には、充放電時間帯の設定を見直してください。

保証とアフターサービス

保証について

保証については、保証書の内容をよくお読みください。

弊社または販売会社からお渡ししますので、必ず販売会社名、引渡日等の記入をお確かめになり大切に保管してください。

注：上記の記載がない場合には無効となることがあります。

アフターサービスについて

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点がある場合、「パワーコンディショナ・蓄電池ユニット取扱説明書」の「保証とアフターサービス」をご確認ください。

修理を依頼される時

修理を依頼される場合は、次のことをお知らせください。

- お買い上げ時期
- 装置の型式と製造番号（装置側面の定格拉ベルに表示）
- 故障の状況（点検コード、故障発生時の時間と天候など）

補修用性能部品の最低保有期間

- 性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 装置の補修用性能部品の最低保有期間は販売終了後、保証書記載の保証期間相当年数となります。

移設などで機器を一時保管される場合は屋内（湿気の少ないところ）に保管してください

お客様ご自身では移設を行わないでください。

設定の変更例

画面	設定項目	蓄電池ユニット給電を優先 (出荷時の値)	車両充電を優先	車両給電を優先	昼間の電力をエレムープ	
蓄電池設定	運転モード	経済モード	←	←	グリーンモードに変更	
	非常時運転モード	自動給電切換	←	←	←	
	非常時安心設定	OFF	←	←	←	
	充電開始時刻 (運転モードごと)	23:05	←	←	←	
	充電停止時刻 (運転モードごと)	6:59	←	←	←	
	放電開始時刻 (運転モードごと)	10:00	←	←	8:00 に変更	
	放電停止時刻 (運転モードごと)	22:59	←	←	16:59 に変更	
V2H スタンド 詳細設定	充電タイマー設定	する / しない	する	←	←	←
		充電開始時刻	23:00	←	←	←
		充電停止時刻	7:00	←	←	←
		充電時刻重複時優先設定	車両	←	←	←
		放電時刻重複時優先設定	蓄電池	車両に変更	車両に変更	車両に変更
	放電タイマー設定	する / しない	する	←	←	しないに変更
		放電開始時刻	7:10	←	←	←
		放電停止時刻	22:59	←	←	←
		充電時刻重複時優先設定	蓄電池	←	車両に変更	蓄電池
		放電時刻重複時優先設定	蓄電池	←	車両に変更	蓄電池
	太陽光余剰電力充電	する	←	←	←	
	車両放電下限値	10%	←	←	←	
	V2H スタンド本体操作	する	←	←	←	
	非常時放電動作	する	←	←	←	
	非常時車両放電下限値	10%	←	←	←	
	非常時放電優先設定	蓄電池	←	←	←	
	非常時充電優先設定	車両	←	←	←	

仕様

V2H スタンド : ESS-V1

外形寸法	W762 × H1305 × D222 mm(突起部含まず)	
本体質量	91 kg	
ケーブル	約 7.5 m	
充電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)
	定格電圧	AC202 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	出力電力	6 kW 未満 ^{*1}
放電部 (系統連系時)	電気方式	単相 2 線式 (接続は単相 3 線式)
	定格電圧	AC202 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	AC 出力電力	5.9 kW ^{*2}
放電部 (自立時)	電気方式	単相 2 線式
	定格電圧	AC101 V
	定格周波数	50 または 60 Hz
	AC 出力電力	3 kVA ^{*2}
EV 側電圧範囲	DC150 ~ 450 V	
不要輻射	VCCI class B 準拠 ^{*3}	
冷却方式	強制空冷方式 ^{*5}	
運転時騒音	40 dB-A ^{*6}	
設置環境 ^{*4}	設置条件	屋外、標高 2,000 m 以下 - 30℃ ~ + 40℃
	動作温度	- 20℃ ~ + 40℃

- ※ 1 機器の入力電力値であり、実際の充電出力を保証している数値ではありません。
契約電力や家庭への給電状況および車両の蓄電池残量によっても異なります。
- ※ 2 車両の状況により電力が低下する場合があります。
- ※ 3 受信障害となる場合がありますので、ラジオ、テレビ、アマチュア無線等の電波を利用する機器とは 3 m 以上離してください。
- ※ 4 岩礁隣接地域、重塩害地域、離島では使用できません。温泉等の腐食性ガスのある環境では機器の動作に影響を及ぼす可能性があります。事前にご相談ください。
- ※ 5 動作中は、V2H スタンド内蔵ファンの動作音が発生します。壁との距離等、設置環境により、音の聞こえ方が異なることがあります。
本体の内部温度が高くなると、本体の排気ファンが高速になり、作動音が大きくなる場合があります。
- ※ 6 JISC1509-1 で規定する A 特性サウンドレベルを示します。製品正面中央から 1 m、高さ 1 m の距離での測定値です。

増設設置の可能期間

パワーコンディショナ設置後の蓄電池ユニット、増設蓄電池ユニット、V2Hスタンドの追加設置は、2028年5月まで可能です。
(同等品の商品ご提供となる場合があります。)

保証期間は、各商品の保証期間となります。

お客様への大切なお知らせ

V2H スタンドを後から設置された場合のご注意

蓄電システムと V2H スタンドを購入いただいた時期が異なる（後から V2H スタンドを購入）場合、車両への充電電力が 1 kW 未満になる場合があります。

本症状は蓄電システムと V2H スタンドの販売時期によるソフトウェア違いによるものです。蓄電システムのソフトウェアを最新にすることで解消しますので、お買い上げの販売会社にソフトウェア更新を希望する旨をご連絡ください。蓄電システムのソフトウェアの更新を無償でさせていただきます。

なお、ネットワーク接続時は、見守りサービスを利用して随時更新させていただいております。

お問い合わせの際には、下記についてご連絡ください。

システム 機種名

パワーコンディショナ 製造番号

登録情報		03月16日 11:06	
システム	機種名	ESS-T1S1V	2/4
パワーコンディショナ	製造番号	GD-100001WBG	
室内リモコン	機種名	ESS-R5	
	製造番号	NHN1TI5000001	

前へ 次へ キャンセル

nichicon

京都市中京区烏丸通御池上る 〒604-0845

<http://www.nichicon.co.jp>

施工、修理に関する問い合わせ

TEL : 03-5212-9211